
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

紀要

2021



2022年11月
岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門



【图 6】耳環
：津島町大湊跡第37次調査

【图 7】土器
：豊田遺跡第12・27次調査

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要

2021

2022年11月

岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門

序

岡山大学の各キャンパスにはそれぞれ遺跡が存在します。造成工事などで貴重な遺跡が無為に失われないように、岡山大学では、埋蔵文化財調査室を1983年に設置し、1987年には埋蔵文化財調査研究センターに改組して構内遺跡の調査・研究・公開と保護に当たってきました。同センターの調査と研究成果は、考古学あるいは地域の歴史解明に大きく寄与してきたところです。その機能をさらに発展させるため、同センターは2022年4月に文明動態学研究所と統合し、同研究所の文化遺産マネジメント部門がセンターの機能を引き継ぐことになりました。本書は、埋蔵文化財調査研究センターとしての最終年度の活動を報告するものです。

2021年度、津島キャンパスでは、複合施設に伴う工事のため第40次調査が、鹿田キャンパスでは、先端治療・臨床検査センター建設に伴う第29次調査が実施されました。前者では縄文時代後期の土抗や弥生時代前期の水田址、後者では弥生時代の溝、中世後半期の屋敷地に関わる遺構が見つかっています。また、数多くの立会調査を実施し、とくに津島キャンパスライフライン再生にともなう枅・配管工事では、13回の立会調査を行い、歴史上有名な「福輪寺縄手」の位置を考察するに重要な手がかりを得ました。小規模な調査もおろそかにせず、丁寧な対応をすることが重要であることが再認識される調査でした。

本年度も、コロナウイルス感染症流行に伴い、感染防止に努めながら事業を進めました。疫病禍に悩まされながらも、例年と同様に充実した事業展開をすることができました。これも関係諸機関・学内外の多くの人から協力をいただいた結果であると認識しております。

埋蔵文化財調査研究センターの35年にわたる活動についても、数多くの機関と皆様からご協力とご理解をいただきました。ここに重ねての感謝を申し上げます。上記の通り、埋蔵文化財調査研究センターはその歴史をいったん閉じ、文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門として再出発することになりました。埋蔵文化財調査研究センターの輝かしい成果をさらに発展させるように努めますので、引き続きご支援を賜りますようお願いするものです。

文明動態学研究所

所長 松本直子

文化遺産マネジメント部門 部門長 清家章

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2021

目 次

第1章 構内遺跡の調査研究

第1節 発掘調査の概要

1. 津島岡大遺跡第40次調査……………(山口雄治) 1
2. 鹿田遺跡第29次調査……………(野崎貴博) 5

第2節 立会調査の概要

1. 実施状況……………(野崎) 13
2. 津島地区
 - a. ライフライン再生にともなう樹・配管工事……………(野崎) 13
 - b. 高圧ケーブル更新工事……………(野崎) 16
3. 鹿田地区
 - a. トリアージスペース整備工事……………(野崎) 16
 - b. 旧生化学棟改修工事……………(野崎) 17
 - c. 先端治療・臨床検査センター新営予定地……………(野崎) 18
 - d. 歯学部改修工事……………(野崎) 18

第3節 構内遺跡に関する研究

1. 鹿田遺跡の中世～近世における集落の様相……………(岩崎志保) 26
2. 樹種同定・花粉分析データの総合化からみた周辺植生と利用樹種の関係
—岡山大学構内遺跡の事例から—……………(野崎) 34

第2章 調査資料の整理および公開・活用

第1節 調査資料の整理・保存処理

1. 調査資料の整理……………(山口) 42
2. 調査資料の保存処理……………(山口) 42

第2節 調査成果の公開・活用

1. 公開・展示
 - a. 第21回岡山大学キャンパス発掘成果展……………(野崎) 42
 - b. 公開講座……………(山口) 43
2. 資料・施設等の利活用……………(山口) 43

第3節 調査研究員の個別研究活動

1. 外部資金獲得状況……………(山口) 45
2. 論文・研究報告ほか…………… 46
3. 研究発表・講演ほか…………… 47

第3章 2021年度における調査・研究のまとめ……………(山口) 49

資 料

| | |
|----------------------------|----|
| 1. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程・組織等 | 50 |
| 2. 2020年度以前の調査・研究一覧 | 55 |

挿 図 目 次

| | | | |
|--------------------|----|-----------------------|-------|
| 図1 調査地点の位置 | 1 | 図17 土層柱状図 | 18 |
| 図2 土層柱状図 | 3 | 図18 土層柱状図(東外構) | 18 |
| 図3 遺構全体図 | 4 | 図19 土層柱状図(北外構) | 19 |
| 図4 鹿田地区発掘調査地点 | 6 | 図20 土層柱状図(西外構) | 19 |
| 図5 土層柱状図 | 7 | 図21 2021年度の調査地点【1】 | |
| 図6 弥生時代後期の遺構全体図 | 9 | - 津島地区 - | 23~24 |
| 図7 中世の遺構全体図 | 10 | 図22 2021年度の調査地点【2】 | |
| 図8 室町時代の区画溝2 | 11 | - 鹿田地区 - | 25 |
| 図9 鎌倉時代の井戸と遺物の出土状況 | 11 | 図23 鹿田遺跡の発掘調査地点 | 26 |
| 図10 近世の遺構全体図 | 12 | 図24 中央部の居敷地区画の変遷 | 29 |
| 図11 調査地点の位置 | 13 | 図25 V期の遺構配置 | 30 |
| 図12 土層柱状図(南北方向) | 14 | 図26 VI~VII期の遺構配置 | 30 |
| 図13 土層柱状図(東西方向) | 15 | 図27 発掘調査地点と切り図の字境 | 31 |
| 図14 土層柱状図 | 16 | 図28 岡山大学構内遺跡における周辺植生と | |
| 図15 土層柱状図 | 17 | 利用樹種 | 37 |
| 図16 土層柱状図 | 17 | | |

表 目 次

| | | | |
|---------------------|----|--------------------|----|
| 表1 2021年度調査一覧(津島地区) | 20 | 表7 樹種同定結果(津島岡大遺跡) | 35 |
| 表2 2021年度調査一覧(鹿田地区) | 21 | 表8 岡山大学構内遺跡花粉分析結果 | 36 |
| 表3 時期区分 | 27 | 表9 用途と樹種選択(津島岡大遺跡) | 38 |
| 表4 遺構の推移 | 28 | 表10 用途と樹種選択(鹿田遺跡) | 39 |
| 表5 時期区分 | 33 | 表11 2021年度分析一覧 | 42 |
| 表6 樹種同定結果(鹿田遺跡) | 35 | | |

付 図 ・ 付 表

| | | | |
|----------------------|-------|----------------------|----|
| 付図1 岡山大学の位置と周辺の遺跡分布 | 71 | 付図4 2020年度以前の調査地点【2】 | |
| 付図2 津島地区全体図 | 71 | - 鹿田地区 - | 75 |
| 付図3 2020年度以前の調査地点【1】 | | 付図5 2020年度以前の調査地点【3】 | |
| - 津島地区 - | 73~74 | - 三朝地区 - | 76 |

| | | | | |
|-----|------------------------------|-----|-------------------------|----|
| 付図6 | 2020年度以前の調査地点【4】 - 東山地区 - | 付表2 | 2020年度以前の構内主要調査 | 55 |
| | 76 | 付表3 | 埋蔵文化財調査研究センター 収蔵遺物概要 | 66 |
| 付図7 | 2020年度以前の調査地点【5】 - 倉敷地区 - | 付表4 | 埋蔵文化財調査室刊行物 | 68 |
| | 76 | 付表5 | 埋蔵文化財調査研究センター刊行物 | 68 |
| 付表1 | 1982年度以前の構内主要調査 | | | 55 |

例 言

1. 本紀要は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが、岡山大学構内において2021年4月1日から2022年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査研究成果およびセンターの活動についてまとめたものである。
2. 本紀要において報告している津島岡大遺跡は岡山市北区津島中一丁目～三丁目1番1号、鹿田遺跡は岡山市北区鹿田町二丁目5番1号に所在する。
3. 執筆者は、目次に記載すると共に、原則として、本部門教員の場合は文来にて、本部門以外の場合は文頭に記した。
4. 編集は清家章部門長・岩崎志保チームリーダーの指導のもと、山口藤治が担当した。

凡 例

1. 岡山大学構内の埋蔵文化財の調査にあたっては、2002（平成14）年4月1日から施行された「測量法及び水路業務法の一部を改正する法律」に基づき、世界測地系を採用したが、それ以前の日本測地系による構内座標の相対的な位置関係を保持したまま座標値のみ世界測地系に変換している。各区画の座標原点と区割りは次のように定めている。
 - 1) 津島地区では、国土座標第V座標系（日本測地系）の座標北を基軸とし、 $(X, Y) = (-144,156,4617\text{m}, -37,246,7496\text{m})$ （世界測地系）を起点とする構内座標を設定している。構内座標の内部は一辺50mの方格で分割した区画を用いている。
 - 2) 鹿田地区では、国土座標第V座標系（日本測地系）の座標北より東に15°振り出した座標軸を基軸とし、 $(X, Y) = (-149,456,3718\text{m}, -37,646,7700\text{m})$ （世界測地系）を起点とする構内座標を設定している。構内座標の内部は一辺5mの方格による地区割りを用いている。
 - 3) 棒田中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は国土座標（日本測地系）の座標北を、その他は磁北を用いている。
2. 岡山大学敷地内で調査地点を示す場合、周知の遺跡にあたる場合はその遺跡名を、それ以外の場合は、地区名を付して示す。
3. 調査名称は、「発掘調査」に分類したものは、遺跡ごとに調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘・確認調査」、「立会調査」に分類したものは、原因、原因となった工事名を使用している。発掘調査のうち、小規模で確認調査から連続して調査したものは、「試掘・確認調査」に分類する。
4. 付表に記載した既往の調査一覧は、掘削深度が中世層以下に達するかあるいは遺構などが確認された調査のみを掲載している。未掲載も含め、すべてのデータは、本部門において保管している。
5. 本文などで使用している調査番号のうち、2021年度のは表1・2および2020年度以前のは付表1・2と一致する。
6. 本紀要に掲載の地形図（付図1）は、岡山市地図を複写したものである。
7. 土層注記において、特徴的な包含物・事項については括弧内に記載した。

第1章 構内遺跡の調査研究

第1節 発掘調査の概要

1. 津島岡大遺跡第40次調査（複合施設、調査番号1、AW・AX5）

| | |
|-------|--|
| 調査期間 | 2021（令和3）年11月16日～2022（令和4）年4月25日 造成土除去：2021（令和3）年11月16日～同年11月25日 発掘調査：2021（令和3）年11月26日～2022（令和4）年4月25日 |
| 調査面積 | 700m ² |
| 調査担当 | 南健太郎（助教、調査主任2022年1月16日まで）、山口雄治（助教、調査主任2022年1月17日から）、岩崎志保（准教授）、木村理（助教、2022年4月5日から） |
| 遺構・遺物 | <p>【遺構】 縄文時代後期：土坑7基、ピット3基、弥生時代前期：畦畔、弥生時代後期：溝1条 中世：鋤溝、ピット6基、近世～近代：鋤溝</p> <p>【遺物】 総数10箱（27リットル容量の箱に換算して）〈内訳〉土器・石器等</p> |

a. 調査地点の位置と経緯・経過

(1) 調査に至る経緯と調査地点の位置

岡山大学津島キャンパスでは、2021年度において複合施設（津島北）（仮称）の建設が行われることとなったため、発掘調査を行った。発掘調査地点は、津島北地区の中央やや東寄りに位置する（図1）。本調査地点のすぐ西側では、第28次調査によって、縄文時代後期の土坑やピット、弥生時代前期の畦畔、弥生時代中期中葉の溝、古代・中世の溝や耕作痕が確認されている¹⁾。また、東側では第31次調査によって縄文時代後期のピット状凹み、弥生時代前期の畦畔、古代の溝、中世以降の耕作痕が確認されている²⁾。

(2) 調査の経過

表土掘削は2021年11月16日～11月25日まで行い、〈3層〉（近代）上面まで下げた。発掘調査は11月26日から開始し、調査員2名が調査にあたった。層位ごとに調査を進め、〈3・4・5層〉（中世～近代）上面の精査において鋤溝を検出した。〈6層〉（古代～中世）は南側1/3程度を上面精査したが遺構は検出されず、また調査区四周の壁面にも遺構は見当たらなかった。そのため、残りの部分については遺構検出はせずに掘り進めた。こうして〈7層〉（弥生時代後期以前）上面までの掘削を2月10日までに終了させた。〈7層〉上面では溝を検出した。3月に入り急速、施設企調課から工程上一部先行して工事に入る必要が生じたとして協議を求められ、調査区南西の突出部について集中的に調査を行うこととなった。層位的に掘り下げと遺構検出を行い、〈9b層〉上面において南北方向の溝を検出した。その後〈12層〉上面まで掘削し、この場所の調査を3月24日に終わらせ、引き渡した。その他の場所も層位的に調査し、調査区南側では〈10層〉（弥生時代前期）上面において畦畔を検出した。

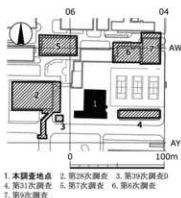


図1 調査地点の位置（縮尺1/4,000）

4月からは調査員3名体制とした。地形と遺構の記録を行った後、(11層)(縄文時代後期)上面まで下げた。遺構検出を行ったが遺構は確認できず、(12層)(縄文時代後期)上面まで下げ土坑やピットを検出した。その後、調査区の5地点に2×2mの範囲で深掘りを行った。遺物は確認されなかったが、土層の堆積状況を記録した。また、プラント・オパール分析等のために基本層序の土壌試料を採取した。2022年4月25日までにすべての作業を完了した。

現地説明会はコロナ禍ということもあり、広報は学内および近隣にとどめ、2日間行った。4月19・20日に開催し、47名の参加を得た。

b. 調査の概要

(1) 層序と地形

【層序】

本調査で確認された土層は16層に大別される(図2)。以下、各層の概要を記載する。

(1層)(近代):本地区が1907~1908(明治40~41)年に陸軍駐屯地として造成された際の土である。標高は4.69~4.89mである。

(2層)(近代):灰色砂質土で近代の耕作土にあたる。砂を多く含む。調査地点全面に確認でき、上面では鋤溝を検出した。上面の標高は、3.59~3.76mを測る。

(3層)(近代):黄灰色砂質土で近代の耕作土にあたる。砂を多く含む、鉄分の強い沈着が観察される。調査地点全面で確認できる。上面の標高は、3.47~3.64mを測る。

(4層)(近世):〈4層〉は、主に色調により2層に分層できる。〈4a層〉は、鉄分、マンガンをよく含む淡黄褐色の砂質土である。調査地点全面で確認できる。上面では鋤溝が確認できた。近世の耕作土と考えられる。上面の標高は、3.39~3.56mを測る。〈4b層〉は、鉄分、マンガンをよく含む淡黄褐色の砂質土である。調査地点全面で確認できる。上面では鋤溝が確認できた。近世の耕作土と考えられる。上面の標高は、3.33~3.49mを測る。

(5層)(中世):淡黄褐色を呈する粘質土で鉄分、マンガン、砂を含む。調査地点全面で確認できる。中世と考えられる。上面の標高は、3.25~3.4mを測る。

(6層)(古代~中世):淡灰色を呈する粘質土である。〈5層〉によく似るが、鉄分の沈着は少なく、しまりが非常に強い。調査地点全面で確認できる。古代~中世と考えられる。上面の標高は、3.1~3.26mを測る。

(7層)(弥生時代後期以前):黄灰色を呈する粘質土である。鉄分の沈着が激しい。およそAXライン以南でのみ確認される。上面で弥生時代後期と考えられる溝を検出した。上面の標高は、2.96~3.12mを測る。

(8層)(弥生時代前~後期以前):暗褐色を呈する粘質土で鉄分をよく含む。およそAX-40ライン以南でのみ確認できるが、⑤地点では確認できない。上面の標高は、2.79~2.94mである。

(9層)(弥生時代前~後期以前):色調、包含物によって2層に分層できる。(9a層)は、淡黄褐色を呈する砂質土である。鉄分、マンガンを含む。上面の標高は2.72~3.01mである。(9b層)は、(9a層)とよく似る淡褐色を呈する砂質土であるが、〈10層〉をブロック状に含む。両層ともにAX-20~30以南でのみ確認できる。なお、この(9b層)は後述する〈10層〉上面で検出された畦畔に伴う耕作土と考えられる。上面の標高は2.63~2.96mである。

(10層)(弥生時代前期):黒褐色を呈する粘質土であり、砂を少量含む。管状に鉄分が多く沈着しており、上層からの根の貫入が激しいことが観察される。調査区全面で確認でき、調査区南半ではその上面において畦畔を検出した。本層は、植物の影響による腐植土層であると考えられ、津島地区において「黒色土」と呼ぶ弥生時代前期の肥層と考えられる。上面の標高は、2.59~2.97mである。

(11層)(縄文時代後期):鉄分を帯びた淡茶褐色を呈する砂質土である。調査地点全面で確認できる。遺構は検

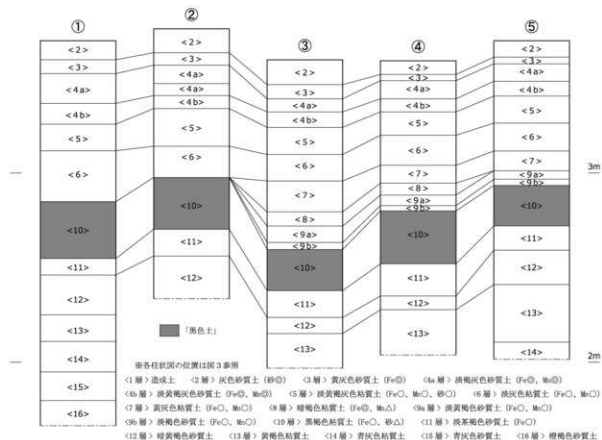


図2 土層柱状図 (縮尺1/20)

出できなかった。上面の標高は、2.38～2.72mを測る。

(12層) (縄文時代後期)：暗黄褐色～黄灰色を呈する砂質土である。細砂～微砂をよく含み、下層は微砂となる。調査地点全面で確認できる。上面において縄文時代後期と考えられる遺構を検出した。上面の標高は、2.24～2.59mを測る。

(13層) (縄文時代後期以前)：黄褐色を呈する粘質土である。上面の標高は、2.14～2.41mを測る。

(14層) (縄文時代後期以前)：青灰色を呈する粘質土である。①・⑤地点でのみ確認した。上面の標高は、2.11mを測る。

(15層) (縄文時代後期以前)：青灰色を呈する砂質土である。①地点でのみ確認した。上面の標高は、1.95mを測る。

(16層) (縄文時代後期以前)：橙褐色を呈する砂質土である。①地点でのみ確認した。上面の標高は、1.8mを測る。

【地形】

縄文時代後期以前の堆積層である(14層)は①・⑤地点でしか確認できていないが、2.11mと同じ標高を示すため、少なくとも南北方向の傾斜はなかったものと考えられる。(13層)になると、南側では⑤地点が高く、③地点が最も低くなる。その比高は、0.27mを測る。北側では、②地点では不明だが、①地点ではほぼ④地点と同様の標高を示す。すなわち、この段階では東に向かって地形が下がっているようであり、南北方向の傾斜は観

察されない。縄文時代後期の遺構が検出される〈12層〉では、南側の③～⑤地点ではそれ以前と同様に東へ下がりがり、北側の①・②地点では西へ下がる。南北方向では、北が高く、南が低くなり、②・③地点の比高は0.31mを測る。この段階において、その後の地形を規定する特徴的な基盤が形成されるようであり、続く〈11～10層〉の地形も〈12層〉のものとは大きな変化はない。ただし、北側①・②地点の〈10層〉上面は、〈6層〉の造成によって削平されていると考えられることから、現状では0.38mある南北方向の高差差はもっと大きかった可能性がある。〈10層〉上面で検出された畦畔は、こうした地形を巧みに利用し、本調査地点南側の最も標高の低い部分に形成されたものと考えられる。

〈8～7層〉は、南側の低位部を埋めるように堆積しており、地形の起伏が次第に減じていく過程が示される。その詳細な時期と要因は現時点では定かではないが、弥生時代後期までの間に進行したものと考えられる。なお、北側の〈7層〉は〈6層〉の造成によって削平を受けているものと考えられることから、本来は南北に緩やかな傾斜がついていたものと考えられるが、その程度は不明である。古代～中世の遺物が含まれる〈6層〉では、南北方向の傾斜はほとんど解消されており、南側において東に向かって下がるという地形特徴がわずかに看取される程度である。その後、〈5～2層〉においても基本的に〈6層〉時の地形が継続し、近代に至る。

(2) 調査成果 (図3)

【縄文時代後期】

〈12層〉上面において土坑7基とピット3基を検出した。北側の土坑2基には焼土が確認されたが、南側の土坑には出土遺物等はなかった。

【弥生時代前期～後期】

弥生時代前期では、AX-30ライン以南の〈10層〉上面において畦畔を検出した。小区画の畦畔であり、最も標高の低い南東部はど残りがよい。また、〈9b層〉上面において、南北方向に走る溝 (SD3) を検出した。水路と

考えられるが、他に遺構は確認できなかった。

〈7層〉上面では東西方向に走る溝 (SD1) を検出した。出土遺物から弥生時代後期の可能性がある。

【古代～近代】

古代の遺構は確認できない。中世に至り、溝 (SD2) とピットを確認した。また、南北方向の動溝を〈5～2層〉上面においてそれぞれ確認した。

C. まとめ

本調査地点では、遺構・遺物の検出がわずかではあったが、隣接する第28・31次調査間の地形および人間活動について面的に明らかにすることができた。

縄文時代後期の活動痕跡は希

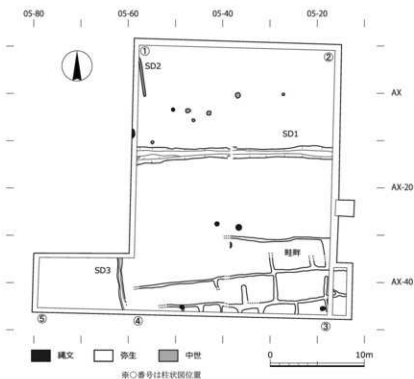


図3 遺構全体図 (縮尺1/400)

薄であることから、本調査地点は集落縁辺部に当たるものと考えられる。弥生時代前期には低位部に畦畔がつくられていることが判明し、既往の調査成果を補強する成果となった。なお、畦畔については、各層の土壌サンプルを採取しているため、今後プラント・オパール分析や花粉分析を行う予定である。中世以降では、鋤溝が多く検出されたことから、本調査地点が耕作地へと変化したことが明らかとなった。

なお、以上の内容は整理途中の暫定的なものであり、詳細な分析・検討を経て後日正式報告を行う。

(山口雄治)

【註】

- 1) 岩崎志保編2008「津島岡大道跡18」岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 2) 岩崎志保2010「津島岡大道跡第31次調査（福利厚生施設東棟新営）」『紀要2008』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

2. 鹿田遺跡第29次調査（先端治療・臨床検査センター予定地：鹿田地区BW36～CB44区）

調査期間 2021（令和3）年7月12日～12月14日

造成土除去：7月12～28日、発掘調査：8月2日～11月18日

基礎撤去部立会：11月19日～12月14日（随時）

調査面積 584m²、基礎部分63.7m²

調査担当 野崎貴博（助教、主任）、山口雄治（助教）

遺構・遺物

【遺構】 弥生時代：土坑6基、溝9条、中世：土坑8基、溝11条、ピット176基、近世：土坑7基、溝1条

【遺物】 総数28箱（27リットル容量の箱に換算して）

（内訳）土器・石器・礎石等（弥生～近世）20箱

木製品・骨等8箱

a. 調査地点の位置と経緯・経過

(1) 調査に至る経緯

2020年、岡山大学では、民間事業者の資金と経営能力等によって、整備、維持管理および運営を委ねるPFI（Private Finance Initiative）という手法を用い、最新装置による高度画像診断と先進的放射線治療、最先端機器・技術による高精度で迅速な検査結果の提供、医学研究や新薬開発のためのオープンラボスペース整備を目的とした先端治療・臨床検査センターの建設が計画された。

(2) 調査地点の位置（図4）

建設予定地は鹿田地区のほぼ中央に位置し、鹿田地区に設定した構内座標では、BW36～CB44区にあたる。周辺の既調査区は、北に第1・5次調査地点、北西に第13次調査地点、西に第7・17次調査地点が位置する。特に、南東に隣接する中央診療棟から病棟にいたる範囲では、6次10回（第9・11・14・18・20・25次）にわたって発掘調査が実施され、その調査面積の合計は12,000m²を超える。ここでは、弥生時代後期の水田、中世の屋敷地などが検出され、こうした遺構の広がりには本調査地点でも確認されることが予想された。

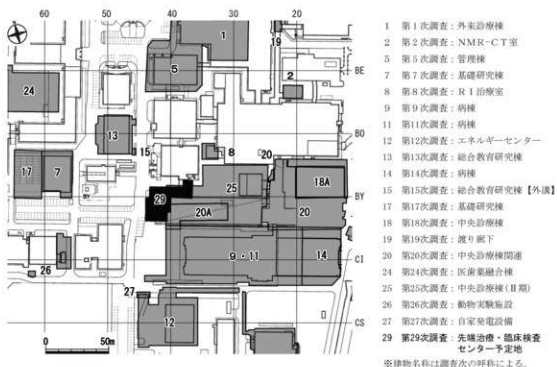


図4 鹿田地区発掘調査地点（縮尺1/3,000）

(3) 調査の経過

施設整備計画は2021年になり具体化し、7月から実施することが決定した。発掘調査に先立ち、2021年7月12～28日の期間で、重機により近現代の造成土と攪乱埋土を除去した。また、調査区南東には既調査区が重複しており、造成土除去とあわせて埋め戻し土を撤去した。なお、調査区南西部には、旧東西病棟建設時に構築された南北2列のコンクリート基礎があるが、これらは発掘調査終了後に撤去し、立会調査で対応することとした。

発掘調査は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの調査員2名を担当者として8月2日より開始した。まず調査区内の攪乱清掃および周囲の備溝掘削を行い、以降、調査区四周の断面の観察により分層した基本層序にしたがって下位の土層へと掘削をすすめ、〈3層〉、〈4層〉、〈8層〉上面で遺構検出のための精査を実施し、遺構を検出した。

調査区四周の断面観察では、〈9層〉以下に遺構はなく、遺物も出土しなかった。これは周辺調査区の成果とも矛盾しなかったため、〈8層〉が弥生時代の基盤層であると判断し、必要な記録と土壌サンプルをとったうえで、11月18日に発掘調査を終了した。

なお、本調査区では一部で土壌汚染が確認されており、粉塵飛散防止のためベルトコンベアは使用できなかった。排土の処理にはフレキシブルコンテナバック（1t）を用い、クレーンにより吊り上げて調査区外へ搬出した。出土遺物についても汚染土が付着している可能性があり、そうした土壌を外部に持ち出さないようにするため、現地で洗浄作業を実施した。

11月19日からは、調査区南東において、南北2列にのこされたコンクリート基礎について、重機で圧砕したうえで、基礎を支えるコンクリート製パイル（φ0.3m）の間にこの遺構の有無を確認する目的で立会を実施した。その結果、2か所で中世の東西方向の区画溝および溝にともなう遺物を検出した。すべての基礎の下位の状況を確認した12月14日に本調査に係るすべての作業を終了した。

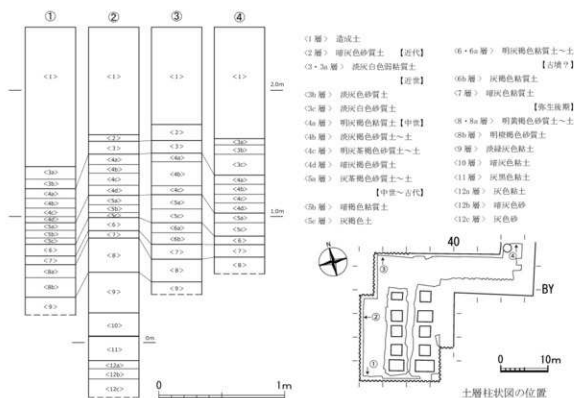


図5 土層柱状図 (縮尺1/30・400)

b. 調査の概要

(1) 層序と地形 (図5)

本調査区で確認された土層は12層に大別される。このうち〈10層〉～〈12層〉は調査区西辺中央に設定した約1.5m四方の深掘りトレンチで確認した土層である。以下、各層の概要を記載する。なお、土層の時期を判定する手がかりとなる遺構・遺物の少ない層については、隣接する第20・25次調査地点の調査成果も参照して時期を推定している。

- 〈1層〉 近代以降、現代にいたるまでの造成土である。現地表面の標高は約2.4～2.5m、層厚0.77～1.1mである。
- 〈2層〉 暗灰色砂質土で、鉄分の沈着が著しい。礫・砂・粘土ブロックを多く含む。岡山医科大学の造成が開始された1922（大正11）年よりも前の耕作土で、上面の標高は1.64～1.73m、層厚0.06～0.13mである。
- 〈3層〉 淡灰白色を基調とする土調の土層で、部分的に3層に細分される。出土遺物に近世陶磁器を含んでおり、近世の土層と考えられる。
- 〈3a層〉 淡灰白色弱粘質土で、鉄分の沈着が少ない。土器小片を多く含む。検出した遺構・遺物から、近世の土層と位置づけられる。上面の標高は1.4～1.62m、層厚0.05～0.1mである。
- 〈3b層〉 淡灰色砂質土で、鉄分の沈着が少ない。上面の標高は1.3～1.57m、層厚0.07～0.08mである。
- 〈3c層〉 淡灰白色砂質土で、鉄分の沈着が少ない。上面の標高は1.5m、層厚0.17mである。
- 〈4層〉 部分的には4層に細分される。いずれの細分層にも焼土・炭・ブロック等の包含がみられることから、中世段階の造成土と考える。
- 〈4a層〉 明灰褐色粘質土で、鉄分の沈着がみられ、小礫、炭をわずかに包含する。上面の標高は1.22～1.5m、層

厚0.07～0.08mである。

(4b層) 淡灰褐色砂質土～土で、鉄分の沈着が著しい。焼土小片、炭小片をわずかに含む。淡黄色粘土ブロック(φ2～3cm大)を包含する。上面の標高は1.15～1.44m、層厚0.06～0.18mである。

(4c層) 明灰茶褐色砂質土～土で、鉄分の沈着が著しい。焼土小片、炭小片をわずかに包含する。上面の標高は1.06～1.34m、層厚0.07～0.1mである。

(4d層) 暗灰褐色砂質土で、鉄分の沈着、マンガンの凝集がみられる。焼土塊(φ1～5cm大)、黄色粘土ブロック(φ3cm大)の包含が顕著に認められ、炭小粒の包含も認められる。そのほか土器小片も多く包含する。上面の標高は1.0～1.25m、層厚0.05～0.08mである。

(5層) 灰褐色の色調を基調とするが、部分的に暗褐色粘質土(5b層)を挟んでおり、3層に細分される。遺物の出土は少ないが、古代の土器を包含しており、古代から中世の土層と考えられる。

(5a層) 灰茶褐色砂質土～土で、鉄分の沈着がみられ、マンガンの凝集が顕著である。焼土・炭小粒をわずかに含む。淡黄灰色砂ブロック(φ1～2cm大)、淡灰白色砂の包含がみられる。上面の標高は0.95～1.17m、層厚0.06～0.11mである。

(5b層) 暗褐色粘質土で、調査区西南の範囲に堆積が認められる。鉄分の沈着、マンガンの凝集はわずかで、黄色砂ブロック(φ1～2cm大)をわずかに含む。上面の標高は0.89～1.1m、層厚0.06mである。

(5c層) 灰褐色土で、鉄分の沈着はわずかであるが、マンガンの凝集が顕著にみられる。淡灰白色砂を包含する。上面の標高は0.83～1.05m、層厚0.04～0.11mである。

(6層) 部分的には2層に細分される。上下の層の時期から、古墳時代を主とした土層と推測される。

(6a層) 明灰褐色粘質土～土で、鉄分の沈着が顕著にみられ、マンガンの凝集も認められる。白色砂が厚さ1～2cmの厚みでラミナ状に堆積し、黄褐色粘土ブロック(φ1～2cm)の包含が認められる。上面の標高は0.78～0.99m、層厚0.06～0.1mである。

(6b層) 灰褐色粘質土で、鉄分の沈着が顕著にみられ、マンガンの凝集も認められる。黄褐色砂ブロックを含む。上面の標高は0.87m、層厚0.1mである。

(7層) 暗灰色粘質土で、鉄分の沈着が顕著にみられ、マンガンの凝集はわずかである。下位の(8層)を起源とする黄褐色砂質土ブロック(φ1～2cm)を包含する。遺物の出土はわずかであるが、弥生時代後期の土器を包含している。周辺調査区との対応関係もあわせ、弥生時代後期から古墳時代初期の土層と考えられる。上面の標高は0.69～0.89m、層厚0.05～0.12mである。

(8層) 部分的には2層に細分される。弥生時代後期の基盤層と考えられる。

(8a層) 明黄褐色砂質土～土で、鉄分の沈着が顕著にみられる。しみこみ状の灰～明灰色粘土ブロックを含む。上面の標高は0.52～0.83m、層厚0.1～0.27mである。

(8b層) 明橙褐色砂質土で、(8a層)よりも鉄分の沈着が顕著にみられる。上面の標高は0.51m、層厚0.16mである。

(9層) 淡緑灰色粘土で、鉄分の沈着が顕著である。本層以下は無遺物層となる。上面の標高は0.36～0.56m、層厚0.32mである。

(10層) 暗灰色粘土で、鉄分の沈着がわずかにみられる。砂を包含する。上面の標高は0.24m、層厚0.19mである。

(11層) 灰黑色粘土で、砂を包含する。上面の標高は0.05m、層厚0.2mである。

(12層) 3層に細分される。

(12a層) 灰色粘土で、砂の包含が顕著である。上面の標高は-0.14m、層厚0.06mである。

(12b層) 暗灰色砂で、炭化した植物遺体を含む。上面の標高は-0.21m、層厚0.08mである。

(12c層) 灰色砂である。湧水のため、詳細は観察不能であった。上面の標高は-0.29m、層厚0.15m以上である。

地形は、各時期を通じて、おおむね柱状図②・③のある調査区北西部が高く、東・南が低い。詳細にみれば、弥生時代後期には柱状図②部分が最も高く、そのほかはほぼ等しい標高であるが、古墳時代から古代にかけて調査区北西部（柱状図③）の土層が厚みを増し、一段高くなる範囲が広がっていく。中世段階の造成と考える（4層）の段階でも調査区東・南との高低差は保たれたままであるが、これは造成の時期、土地利用の在り方も関わっていると考えられる。近世には調査区東側の高さが増し、北半部はほぼ平坦化するものの、南半との高低差は残っている。

(2) 遺構

①弥生時代（図6）

〈8層〉上面で土坑6基、溝9条を確認した。また、溝に沿って帯状の高まりや弧状のカーブをもつ高まりを確認した。

土坑は調査区西半部に点在する。いずれも直径約0.6～0.8mの円形や楕円形の平面形を呈するものである。残存する深さは約0.1～0.25mである。埋土はいずれも暗灰色粘質土を基調とするものであり、〈7層〉を起源とするものと考えられる。

溝は高まりに沿って掘削される。いずれも幅約0.35～0.7m、残存する深さ約0.1～0.2mである。埋土はいずれも暗灰色粘質土を基調とするものであり、〈7層〉を起源とするものと考えられる。隣接する第25次調査地点でも同様の溝が検出されており、本調査区の38・39ライン間の2条の溝は第25次調査地点の溝7・8に接続する¹¹。

土坑・溝からは、遺物はほとんど出土していない。埋土の特徴や第25次調査地点の溝との関係から弥生時代後期の所産と推測される。

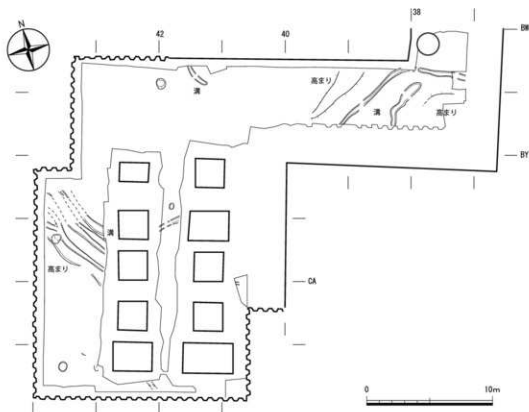


図6 弥生時代後期の遺構全体図（縮尺1/300）

こうした溝と帯状や弧状のカーブをもつ高まりで構成される空間は、本調査区の南東に広がる第9・11・12・14・20・25次調査地点で確認されており、畦畔や鳥状高まりをとまなう水田と考えられている²⁾。こうした理解が正しければ、本調査地点にも弥生時代後期の水田が広がることとなる。

②中世（図7～9）

〈4層〉で井戸2基、土坑6基、溝11条、ピット176基を検出した。

検出した溝のうち、調査区東端の南北溝、BYラインに沿う東西溝、CBラインに沿う東西溝の3条は区画溝とみられる大規模な溝である。このうち、調査区東端の南北溝（区画溝1）は第25次調査地点で検出された溝40の西側の上端にあたる。CBラインに沿う東西溝（区画溝3）は第20次調査A地点の溝42に接続する可能性が高い³⁾。BYラインに沿う東西溝（区画溝2）は、幅約3m、深さ約1.5mをはかり、断面はV字形を呈している（図8）。また、42・43ライン間では複数の南北溝が検出された。この範囲内において確認された南北方向の遺物集中域は、掘り方を確認できなかった溝の可能性が高く、その場合、この範囲に4条の南北溝が繰り返し掘削されたことになる。

溝からは中世の土器・陶磁器が出土した。今後、時期の詳細な検討を行う必要があるが、中世後半段階のものが主体を占めている。この傾向は第25次調査地点の溝40、第20次調査A地点の溝42の時期と矛盾しない。

土坑・ピットのほとんどは区画溝2の北側で検出されている。この区画溝2が屋敷地の区画溝で、その北側に屋敷地が展開していたことを示唆する。ピットには礎石・礎板を伴うものも多く検出されたが、建物を構成する柱穴群は抽出できていない。

井戸は調査区東端で1基、南端で1基を確認した。東端の井戸は上部を攪乱で失っていたが、位置的には区画溝1の掘り方と重複する。井戸内からは13世紀に位置づけられる土師質土器椀や瓦器椀が出土しており（図9）、

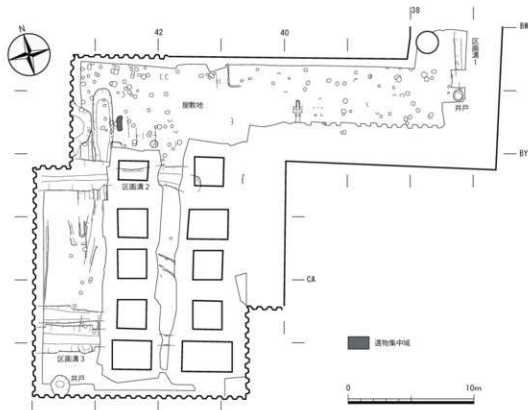


図7 中世の遺構全体図（縮尺1/300）



図8 室町時代の区画溝2



図9 鎌倉時代の井戸と遺物の出土状況

出土遺物からは井戸が溝に先行して構築されたことが明らかとなった。なお、これらの遺物は数段階に分けて埋置されており、祭祀行為に伴うものと考えられる。一方、調査区南端の井戸では立位の状態で竹管を検出した。そのほか、僅少であるが中世後半と考えられる土器のほか、木製碗が出土した。

本調査地点の遺構の時的な分布をみると、調査区東端の井戸のみが鎌倉時代（13世紀）に位置づけられ、ほかはすべて中世後半段階に位置づけられる。隣接地である第9・11、20、25次調査地点では、中世前半期・後半期の屋敷地が確認されているが、本調査地点では東端の井戸1基をのぞき、すべてが後半期の遺構で構成されている。このことから、本調査地点は、中世前半期には未利用であったものが、後半期に入ってから新たに区画溝が掘削され、屋敷地が形成されるなどの土地利用が開始されたものと評価される。

③近世（図10）

〈3層〉で土坑7基、溝1条を検出した。

溝は調査区東辺を南北方向に走行するものであり、第25次調査地点の溝43に連続するものである^{4）}。中世段階の大型の区画溝である南北溝と重複する位置にあり、近世段階にも区画が踏襲されたことを示すものと評価される。

土坑は、南北溝に沿って3基、調査区西半で3基が確認された。西半の2基は旧東西両棟建築時の攪乱により破壊されている。調査区東側の土坑はすべて円形で、木枠を内包するもの1基が含まれる。調査区西辺の土坑は隅丸方形1基、円形と推測されるもの1基、隅丸方形あるいは長楕円と推測されるもの1基である。

調査区東側の土坑群については、南に隣接する第20・25次調査地点においても南北溝に沿う位置に土坑群が検出されており、同様に区画溝に沿って構築されたものと考えられる^{5）}。

検出面および周辺調査区の成果から、これらの遺構の時期は近世と考えられる。

c. まとめ

本調査区では弥生時代後期の水田と考えられる高まりおよび溝群、中世後半を主体とする屋敷地を構成する遺構が確認された。

弥生時代後期の溝は、地形の高まりと低位部を画する位置に沿って掘削されている。隣接する既調査区では、

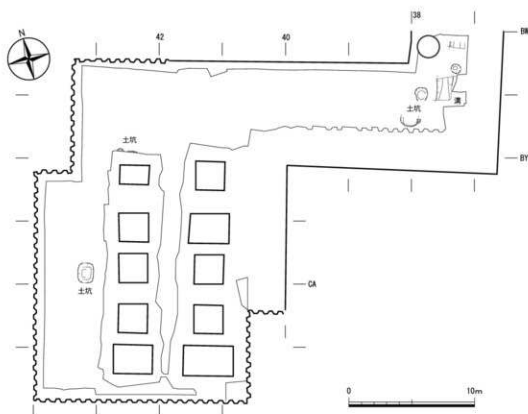


図10 近世の遺構全体図（縮尺1/300）

こうした溝は水田耕作に伴う給排水の水路としての機能が想定されてきた。同様の機能を想定すれば、本調査区にも水田が広がることを示すものと評価される。ただし、水田と考えている領域の土壌については、自然科学的分析を経ておらず、今後、多角的な分析を総合したうえで土地利用状況を考察する必要がある。本調査区でのサンプリングは、こうした状況を考慮して実施したものである。

中世の屋敷地については、本調査区の南東に広がる調査区では、中世前半・中世後半の屋敷地が確認されているが、中世前半の屋敷地は、本調査区までは広がりをみせず、当該期には未利用地であったことが明らかとなった。中世後半に入り、新たに区画溝が開削され、屋敷地が形成されており、既調査区での調査成果もあわせた集落の変遷を考えるうえで新たなデータをくわえるものとなった。

なお、以上の概要報告は暫定的なものであり、正式な報告は整理作業後に行うものとする。（野崎貴博）

註

- 1) 山口雄治編2018『鹿田遺跡12』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第34冊
- 2) 山本悦世編2017『鹿田遺跡10』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第32冊
- 3-5) 前掲註1

第2節 立会調査の概要

1. 実施状況

津島地区で13事業37件、鹿田地区で4事業19件の立会調査を行った(表1・2)。このうち、津島地区調査番号5-1については岡山市教育委員会が実施した。本節では、中世層以下の包含層を確認した調査番号2、3(津島地区)、2~5(鹿田地区)について報告する。(野崎)

2. 津島地区

a. ライフライン再生にともなう樹・配管工事(津島地区:調査番号2、AU07~AX06区)

(1) 調査地点の位置(図11)

本調査地点は津島北地区東半部に位置する。工事箇所は工程にしたがって複数の経路として設定されている。教育学部から東門周辺では、複数の経路がそれぞれ独立して設定されている。工学部周辺では、校舎間を縫うように経路が設定され、それぞれの経路は起点となる樹を共有しながら樹枝状に分かれている。ここでは、地形復元に有益な成果のあった経路、中世以前に遡る包含層を確認した経路について報告する。なお、表1および柱状図では樹番号と経路番号を併記した。

(2) 調査成果

①層序(図12・13)

本工事にともなう立会調査で確認された層序は、津島地区でこれまでに実施された発掘・試掘・立会調査から得られた、縄文時代から近現代にいたる各時代の基本層序におおむね一致している。しかし、経路ごとに樹間の距離が大きいものや、掘削の深淺があるものがあり、細別層では土層の連続が追えていない。また、湿地や丘陵を示す局地的な土層があったり、土層自体にも土色・土質の漸移的变化がみられたりするなど、多様な土層の様相が確認されており、全経路を包括した土層の説明をすることは難しい。

そこで土層註記はまとまりのある経路ごとに示す。各土層は、津島地区で広く確認される基本層序をローマ数字によって示し、アラビア数字による各層の細別番号と組み合わせる表記とした。湿地や丘陵の地層はアルファベットとアラビア数字を組み合わせる表記とする。冠するローマ数字、アルファベットが示す内容を以下に示す。
I: 造成土、II: 近代の土層、III: 近世の土層、IV: 中世の土層、V: 古代の土層、VI: 弥生~古墳時代の土層、VII: 弥生早~前期の土層、VIII: 縄文時代の土層、A: 湿地状堆積、B: 丘陵裾部の花崗岩地山。このほか、遺構埋土は、番号にSを冠することとする。なお、VIII層は津島地区では「黒色土」と呼称している、上面が弥生時代前期に相当する鍵層である。各経路の土層の詳細は柱状図の土層註記を参照いただきたい。

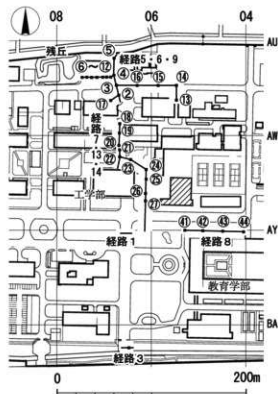


図11 調査地点の位置(縮尺1/4000)

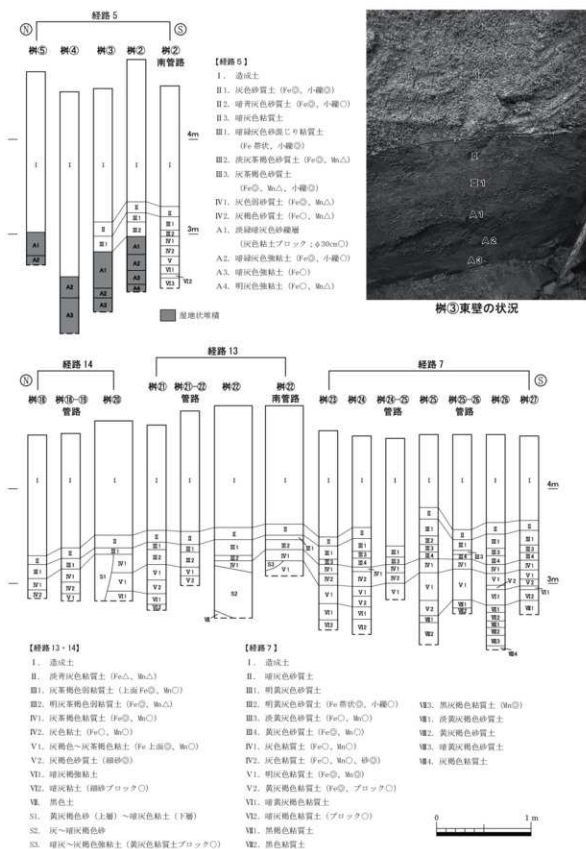


図12 土層柱状図(南北方向)(縮尺1/40)

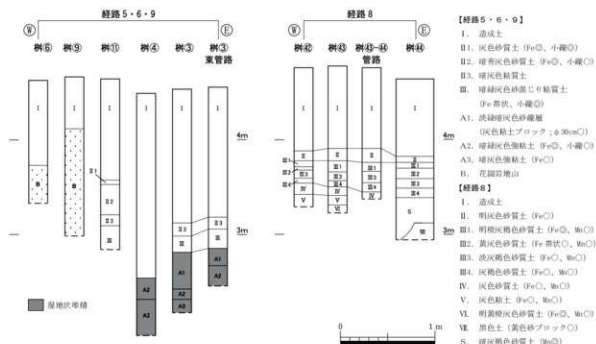


図13 土層柱状図(東西方向)(縮尺1/40)

②地形

本報告では、地形の変化を把握するため、図12・13では、南北方向に管路が設定された経路5・14・13・7と東西方向に設定された経路5・6・9および経路8に分けて柱状図を配した。

経路5 (図12上) 津島北地区北辺から南北にのびる約30mの区間である。最北端の樹⑤から樹②の間では、近世層の下面以下において、暗緑灰色～暗灰色の粘性の強い粘土層が厚く堆積していることが確認された。樹②の南側管路では弥生～古墳時代以降の各時代の包含層が検出されており、津島北地区北辺には湿地状の地形が幅約30m以上にわたって広がっていることが推測される。

経路14・13・7 (図12下) AWライン北からAYラインまで、一部で屈曲するものの、南北方向に約140mにわたって掘削した区間である。このうち、北半部にあたる経路14・13では、古代～近代の包含層は北から南にむかって標高を増している。また、古代・中世にあたる土層では樹②で溝または流路とみられる堆積が確認された。AWラインは古代の条子の坪境にあたる位置で、津島岡大遺跡では大規模な溝が掘削され、中世においても規模は縮小するものの、溝が踏襲されているので、こうしたものを確認したと考えられる。南半部にあたる経路7では、標高265～28mで「黒色土」が確認された。樹⑤では縄文時代の土層も確認されており、南に向かって地形が高まることを示す。これは西に隣接する28次調査地点の成果¹⁾とも合致している。

経路5・6・9 (図13左) 経路6・9は経路5の樹③・④を経由して東西方向に連結する。長さ約100mの経路である。西端の樹⑥の西には、津島地区北側に控える半田山山塊から南北方向に延びる尾根の先端部が残っており、樹⑥・⑨では造成土直下に花崗岩質の地山が確認された。近世～近代の耕作土が確認された樹①を挟み、東側に連結する経路5の樹③・④と樹③から東に延びる経路9の管路では、先述した近世層下面から暗緑灰色～暗灰色の粘性の強い粘土層が厚く堆積しており、湿地状の地形が東へも広がることを予測させる。

経路8 (図13右) 教育学部北辺に沿い、東西に設定された長さ約65mの経路で、第39次調査D地点に接続する。堆積状況は第39次調査D地点²⁾と同様で、各層上面の起伏は小さく、ほぼ平坦な地形をなす。

(3) まとめ

本調査では、津島北地区北辺から中央では、07ライン沿いで南北方向、津島北地区北辺では、おおむねAVラインに沿う東西方向の地形復元データを得ることができた。

南北方向では、北辺から幅約30m以上の湿地状の地形の広がり、やや高まったAWラインで古代の条里溝の可能性ある堆積、掘削深度の大きい経路7において、縄文・弥生時代の段階で北から南に高まる地形を確認した。

北辺では東西方向の地形を確認した。08ラインの位置に、半田山山塊から南へ延びる尾根残丘があることは図11上でも現認できるが、地下ではこの残丘よりも約20m東まで花崗岩地山が延びていることが確認された。さらに07ラインより東では中世のものと考えられる湿地状の地形が広がる。東への広がりを復元できるデータは得られていないものの、半田山山塊から南北に延びる幾筋かの尾根地形を提案すると湿地状の地形はさらに東に延びることが予測される。

半田山南山麓には、「源平盛衰記」や「平家物語」に「福輪寺阡」あるいは「福輪寺繩手」として記載される東西方向の道があったことが知られている³⁾。福輪寺繩手は中世の山陽道の一部をなすと考えられている道で、「平家物語」では、繩手の左右（南北）が深田であったと記されている。福輪寺繩手の位置を考察した土井基司は、津島北地区を東西に通る条里の溝に沿って福輪寺繩手が走っていた可能性が強いことを指摘している⁴⁾。今回の立会調査の結果、半田山の山裾から本地点までの間は尾根と湿地が交互に入り組む地形であったことがより明確になった。これにより、福輪寺繩手が直線道路として計画・敷設されていた場合、繩手の位置は経路5・6・9よりも南で、条里溝より北側の幅約40mの範囲に絞り込むことが可能となり、土井の指摘の蓋然性が高まった。文献の描写とも合致する景観が確認されたことも土井の指摘を補強するデータといえる。（野崎）

註

- 1) 岩崎志保編2008「津島岡大遺跡18」
- 2) 野崎貴博・南健太郎2021「津島岡大遺跡第39次調査」[岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2021]
- 3) 岡山県史編纂委員会1988「岡山県史」第十九巻 福年資料
- 4) 土井基司1990「半田山城測量後記」[岡山大学構内遺跡調査研究年報7]

b. 高圧ケーブル更新工事（津島地区：調査番号3、BD15～18区、図14）

津島南地区西半、薬学部南辺から事務局棟西にかけての経路上に設けられた5か所のハンドホールで工事に立ち会い、事務局棟南東のハンドホール1か所で包含層を確認した。掘削規模は上面で1.75m四方、深さ1.3mである。既往の調査成果から、1層は陸軍駐屯地造営時の造成土、2層は青灰色粘質土で近代の耕作土である。3層は淡黄灰色砂質土、4層は淡緑灰色砂質土で近世層と考えられる。5層は淡青灰色粘質土で鉄分の沈着が顕著である。中世～近世の土層とみられる。6層は青灰色粘質土で中世層と考えられる。（野崎）

3. 鹿田地区

a. トリアージスペース整備工事

（鹿田地区：調査番号2、AS03～AV09区、図15）

地域医療人育成センター北側の駐車場に新たに計画されたトリアージスペースの整備工事に伴うものである。計画建物西辺の地盤改良に伴う

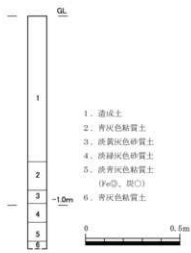


図14 土層柱状図（縮尺1/20）

南北方向の掘削、計画建物南西から歯学部にわたって東西方向にのびる管路の掘削で中世層と考えられる土層を確認したため、この2か所で確認した土層を報告する。

建物西辺地盤改良地点

1層は造成土で、その下面で遺構が検出されている。2層は灰褐色砂質土、3層は淡灰褐色砂質土で、近世・近代の土層と考えられる。4層は灰褐色砂質土、5層は淡灰褐色砂質土で、中世の土層と考えられる。

管路（東西方向） 1層は造成土、2層は淡灰褐色砂質土で、粘土ブロックの顕著な包含に加え、瓦片を含む。3層は暗灰褐色砂質土、4層は黄灰褐色砂質土で、いずれも粘土ブロックを包含し、4層では炭や焼土が認められる。5層は灰褐色砂質土、6層は灰茶褐色砂質土で近似した土層である。7・8層は管路西側で確認した。7層は灰褐色砂質土で灰褐色砂質土ブロックを含む。8層は淡灰褐色砂質土である。3層以下で時期を示す遺物は出土していないが、土質・土色・各層の高さを勘案すると、すべて近世・近代に属するものと考えられる。

当地点のうち、管路東側では造成土厚が約0.3～0.4mと薄く、包含層の検出高が高かったが、2011年に実施した試掘・確認調査でも現地表下約0.7mで包含層が確認されている¹⁾。今後、この一帯の造成土厚が浅いことを念頭に置き、掘削深度の小さい工事においてもより慎重に対応する必要がある。（野崎）

註

1) 野崎貴博2012「岡山県地域医療総合支援センター予定地」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2010』

b. 旧生化学棟改修工事（鹿田地区：調査番号3、AD59、AJ58～AH60区、図16）

旧生化学棟改修に伴う周辺排水配管工事である。調査地点は旧生化学棟北側に設置される排水中継槽地点である。掘削規模は掘り方下面で1.8×1.8m、深さ2.13mである。

確認された土層は、1層が造成土、2層が暗灰色粘質土で近代の造成以前の耕作土である。3層は灰褐色粘質土である。2・3層からは近世陶磁器小片が出土しており、近世・近代の土層と考えられる。4層は黄灰褐色粘質土である。5層は灰～淡黄灰褐色粗砂、6層は橙色粗砂で、いずれも均質な粗砂層である。このうち5層は約0.3mの層厚を確認した。土質および堆積状況、これまでに実施されてきた周辺調査区の成果から河道堆積物と評価できる。4層以下での遺物の出土はないが、周辺調査区の成果¹⁾を参照すると、4層は中世、5層以下は古代に位置づけられる。遺構は確認されなかった。（野崎）

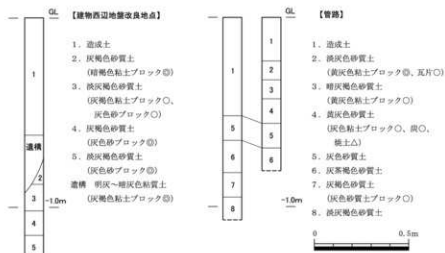


図15 土層柱状図（縮尺1/20）

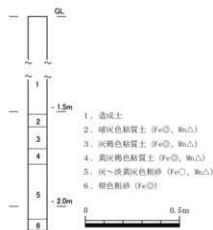


図16 土層柱状図（縮尺1/20）

註

1) 南健太郎2021「鹿田遺跡第28次調査」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2019』

c. 先端治療・臨床検査センター新営予定地

(鹿田地区：調査番号4、BP38～CD42区、図17)

先端治療・臨床検査センター新営予定地の発掘調査に先立ち、予定地内の配管の迂回工事および矢板打設時に支障となる既存の地中梁撤去のために実施されたものである。このうち、予定地南西の既存地中梁周囲の掘削では現地表面から2.0mの深さまで掘削し、弥生時代後期以前の基盤層から近代までの包含層を確認した。本立会調査後に実施された発掘調査の成果¹⁾を加味して各土層を説明する。1層は造成土、2層は暗青灰色粘質土で近代の造成以前の耕作土である。3層は灰褐色粘質土で、近世の耕作土と考えられる。4層は暗灰褐色粘質土、5層は暗黄灰褐色粘質土で、中世の包含層と対応する。5層上面から掘削される遺構が確認されているが、狭い範囲での土層観察であり、発掘調査の成果を参照すると4層から掘削された可能性もある。6層は暗灰褐色粘質土で古墳時代～古代の土層である。7層は灰褐色粘質土で、弥生時代後期～古墳時代初期の耕作土である。8層は明青灰色粘強土で、弥生時代後期以前の基盤層である。

(野崎)

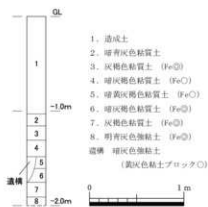


図17 土層柱状図 (縮尺1/40)

註

1) 野崎貴博2022「鹿田遺跡第29次調査」(本書第1章第1節)

d. 歯学部改修工事

(鹿田地区：調査番号5、AO～AV22、AK～AN12・13、AR～AW08・09、AZ10～20区、図18～20)

歯学部改修工事に伴う建物四周の外構排水接続工事である。このうち、東・西・北辺の外構工事で中世以前の土層および遺構埋土の可能性のある土層が確認された。

東外構 歯学部東辺中央、鹿田地区構内から東の市道へと抜ける車路の屈曲部南西に位置する。周辺では鹿田遺跡第16・22次調査および立体駐車場・地域医療人育成センター新営に伴う周辺工事立会調査が実施されている。

掘削規模は上面で1.65×1.6m、深さは現地表面から1.45mである。1層は近代の造成土、2層は褐灰色砂質土、3層は淡灰褐色砂質土で近代の土層と考えられる。4層以下では砂質土および砂層の厚い堆積が確認された。本層に類似の土層としては、2012年に実施した地域医療人育成センター新営に伴う配管工事で確認された溝埋土があり、土質だけでなく、検出面の高さや土層との関係も類似する。この溝は立会調査の範囲内では南北方向を基調とし、東に分岐することが報告されている¹⁾。また、第22次調査地点には、近代まで存在していた有力庄屋の庭園があり、池・水路が検出されている²⁾。今回の調査地点周辺における近世・近代の水路の検出例を鑑みると、本調査地点の4層以下の土層についても近世・近代の溝埋土と考えられる。

北外構 歯学部玄関前スロープの北側に位置する車椅子利用者等用駐車場内に位置する。掘削規模は上面で2.0×1.3m、深さは2.2m、造成土厚は約

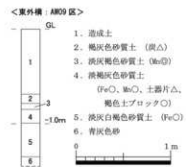


図18 土層柱状図 (東外構) (縮尺1/40)

2.1mである。本地点は駐車場整備等により約1mの盛り土がなされているため、周辺よりも厚い造成土が確認された。造成土下では近世・近代の土層は確認されず、古代～中世の河道堆積物と考えられる明褐色粗砂を検出した。鹿田地区北辺では、東方の第16次調査地点³⁾、西方の第28次調査地点⁴⁾や2013年度に実施した医歯薬融合棟新営に伴う污水配管工事の立会調査⁵⁾で東西方向にのびる当該期の河道が確認されており、本立会調査地点で確認した土層もこうした所見と合致している。

西外構 歯学部と外来診療棟間で南北にのびる通路に設定された経路である。このうち、最南部の棟で包含層を確認した。1層は造成土、2層は灰褐色弱粘質土で近代の土層と考えられる。3層は鉄分の沈着が著しい明灰褐色砂質土で、近世の土層と考えられる。4層は明灰茶褐色弱粘質土、5層は淡灰茶褐色弱砂質土で、中世の土層と考えられる。遺構は確認されなかった。(野崎)

註

- 1) 野崎貴博2013「地域医療人育成センター新営に伴う配管工事」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2012』
- 2) 岩崎志保2013「鹿田遺跡第22次調査地点」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2011』
- 3) 高田貫太2006「鹿田遺跡第16次調査」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2004』
- 4) 南健太郎2021「鹿田遺跡第28次調査」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2019』
- 5) 野崎貴博2015「医歯薬融合棟新営にともなう污水配管工事」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2013』

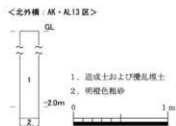


図19 土層柱状図 (北外構)
(縮尺1/40)



図20 土層柱状図 (西外構)
(縮尺1/40)

表1 2021年度調査一覧(津島地区)

| 種別 | 調査番号 | 工事名称 | 調査期間 | 構内座標 | 調査深径 (GL-m) | 造成土厚 (m) | 内容 | |
|----------------------------|------------|------------|------------------------|---------------------|----------------|-------------|------------------------------------|---------------------|
| 発掘 | 1 | 複合施設 | 11/26~ 4/25 | AW-AX5 | 3.09 | 1.13 | 縄文後期中土層、弥生前期相時、弥生後期溝、 中世～近代融溝確認 | |
| 立倉 | 2 | ライフライン再生 | 経路1: 橋①-120- B区間 | 管溝 4/1 | AU07~AX06 | 0.75 | - | 造成土内 |
| | | | 経路2: 橋①-50区間 | 管溝 4/5 | | 0.9~1.4 | - | 既設内 |
| | | | 経路3: 橋②-30 | 管溝・柵 4.6~7 | | 1.2 | - | 既設内 |
| | | | 経路4: 橋②-20 | 管溝 4/8 | | 2~2.2 | - | 既設内 |
| | | | 経路5: 橋①-30 | 管溝 4.8~23- 5/14 | | 1.7~2.13 | 1.27~1.42 | 中世層(泥炭層)確認 |
| | | | | 柵 4/12-15- 5/13 | | 1.96~2.45 | 1.4~1.15 | 中世層(泥炭層)確認 |
| | | | 経路6: 橋②-30 | 管溝 4/19~22 | | 1.0~2.1 | 1.3 | 中世層(泥炭層)確認 |
| | | | | 柵 4/19~21 | | 0.8~1.55 | 1.3 | 近世層確認 |
| | | | 経路7: 橋②-20 | 管溝 4/19~22 | | 1.7~1.9 | 0.9~1.2 | 黒色土確認 |
| | | | 経路8: 橋②-50 | 管溝 4/26~28 | | 2.1~2.28 | 0.9~1.2 | 縄文基盤層確認 |
| | | | | 柵 4/26~30 | | 1.05~1.4 | 0.9 | 古代層確認 |
| | | | 経路9: 橋①-50 | 管溝 5/6~11 | | 1.05~1.69 | 0.9 | 黒色土確認、弥生溝確認 |
| | | | | 柵 5/6~11 | | 1.3~1.48 | 0.8 | 近代層、残瓦岩盤確認 |
| 経路10: 橋②-30 | 管溝 5/13 | 1.3~1.8 | 0.55~1.4 | 近世層、残瓦岩盤確認 | | | | |
| | 柵 5/13 | 1 | - | 造成土内 | | | | |
| 経路11: D194-E101 (撤去) | 柵 5/17 | 1.2 | - | 造成土内 | | | | |
| | 柵 5/17 | 1.05~1.15 | - | 既設内 | | | | |
| 経路13: 橋②-30 | 管溝 5/19~24 | 1.50~1.85 | 1.05~1.27 | 古墳東西溝確認 | | | | |
| | 柵 5/19~24 | 1.7~1.8 | 1.96~2.24 | 黒色土確認、古墳東西溝確認 | | | | |
| 経路14: 橋②-30 | 管溝 5/26~28 | 1.39~1.15 | 1.17~1.27 | 近世層確認 | | | | |
| | 柵 5/26~31 | 1.72~1.19 | 1.17~1.27 | 古代～中世東西溝確認、弥生～古墳層確認 | | | | |
| 3 | 1 | 高圧ケーブル更新 | ハンドホール | 10/4-5-7 | BD15~BD18 | 1.3 | 0.73~1.15 | 中世層～近代層確認 |
| | | | 樹木伐倒 | 2/7 | 0.8 | - | 造成土内 | |
| | | | 電気管溝A | 2/10 | 0.35 | - | 造成土内 | |
| | | | 電気管溝A設置柵 | | 0.75 | - | 造成土内 | |
| | | | 電気管溝① | 9/6 | 0.6~0.85 | - | 既設・造成土内 | |
| | | | 電気管溝② | 9/15 | 0.5~0.65 | - | 既設内 | |
| | | | 管溝A(排水) | 2/10-14 | 0.75~1.1 | - | 既設内 | |
| | | | 管溝B/C(排水) | 2/14 | 1.14 | - | 既設内 | |
| 管溝D(給水) | 2/18 | 0.9 | - | 造成土内 | | | | |
| 5 | 2 | 中国電力ケーブル確認 | 管溝南端 | 8/25 | AU02~AV04 | 2 | 1 | 弥生～古墳層確認、岡山山教育委員会実施 |
| | | | 構内ブロック解 | 9/6 | 0.85 | - | 既設・造成土内 | |
| 6 | 1 | 兼用植物園管理舎改修 | 衛生設備配管 | 10/6 | BB18 | 0.7 | 0.45 | 近代層確認 |
| | | | 雨水配管・柵 | 1/25 | AZ08 | 0.7 | - | 造成土内 |
| 7 | 3 | R1施設改修 | 排水管溝A | 1/28 | BA08 | 0.9 | 0.9 | 近代層上面確認 |
| | | | 排水管溝B | 2/7 | BA08 | 1.1 | 0.85 | 近代層、近世層上面確認 |
| | | | 空調排水 | 1/17 | BA07 | 0.4 | - | 既設内 |
| 4 | 1 | R1施設改修 | 給水配管 | 1/17 | BA08 | 0.4 | - | 造成土内 |
| | | | 給水配管 | 1/17 | BA08 | 0.4 | - | 造成土内 |
| 8 | 5 | 複合施設 | 駆動輪整備 | 11/22 | AW04 | 0.9 | - | 造成土内 |
| | | | 地盤中解体・基礎撤去 | 11/17 | AZ06 | 0.7 | - | 既設内 |
| 10 | 11 | 文化科学系総合研究棟 | 石積み礎土復旧に伴う 掘削 | 11/25 | BA16 | 0.5 | - | 掘削は土壌におよぼす |
| | | | 掘削 | 11/25 | BA16 | 0.5 | - | 掘削は土壌におよぼす |
| 11 | 12 | 原土川護岸修復工事 | ボーラー架設 | 2/28 | BA13-14 | 1.3 | 0.9 | 近代層、近世層確認 |
| | | | ボーラー架設 | 1/27 | BC10 | 0.5 | - | 造成土および既設内 |
| 13 | 13 | 薬学部大講義室 | 屋根取設工事 | 3/3 | BC-BD17 | 0.6 | - | 基礎8ヶ所掘削、造成土内 |
| | | | 屋根取設工事 | 3/14 | AZ02 | 0.8~1 | - | 既設内 |
| 14 | 14 | 教育学部実務棟 | 屋外排水管修繕等工事 | 3/14 | AZ02 | 0.8~1 | - | 既設内 |
| | | | 屋外排水管修繕等工事 | 3/14 | AZ02 | 0.8~1 | - | 既設内 |

表2 2021年度調査一覧（鹿田地区）

| 種別 | 調査番号 | 工事名称 | 調査期間 | 構内座標 | 調査深度 (GL-m) | 造成土厚 (m) | 内容 | | |
|----|------|--------------------|-----------|----------------------|----------------|----------------|------------------|--------------------------|-----------------|
| 発掘 | 1 | 先達治庵・臨床検査センター予定地 | 8/2~11/18 | BW36~C044 | 3 | 0.75~0.85 | 弥生時代の耕作地、中世の集落確認 | | |
| 立会 | 1 | トリアージスペース整備 | 地盤改良 | 4/28 | AS00~AV09 | 0.85~0.95・1.25 | 0.6 | 近代~中世層確認 | |
| | | | 給排水配管 | 5/21 | | 1.1 | 0.8 | 近代層確認 | |
| | | | 給排水・ガス配管 | 6/22-24-25 | | 0.77~1.7 | 0.23 | 近代~中世層確認 | |
| | 3 | 旧生北字種改修 | 電気配線 | 7/14 | AJ58~AH60 | 0.6~0.75 | - | 既設・造成土内 | |
| | | | 排水中新修 | 10/5 | AD69 | 2.13 | 1.5 | 古代河造確認 | |
| | 4 | 先達治庵・臨床検査センター新営予定地 | 排水、ガス管等 | 既存集中渠掘削 | 6/3 | BF98~CD42 | 2 | 1 | 近代~弥生時代以前の基盤層確認 |
| | | | | 西側管路 | 6/3~6/15 | | 0.87~1.27 | 0.57~0.96 | 近代~中世層確認 |
| | | | | 北側管路東 | 6/10 | | 0.75~1 | - | 既設・造成土内 |
| | | | | 北側管路西 | 6/15 | | 0.9~1 | 0.8 | 近代~近世層確認 |
| | | | | 北側管路中央 | 6/25 | | 0.85 | - | 既設内 |
| | | | | 西側管路南端ガス管掘削 | 6/25 | | 1.14 | - | 既設内 |
| | | | | 北東角ガス管 | 6/30 | | 1.05 | 0.75 | 近世層確認 |
| | 5 | 興学部改修 | 西外構① | 1/26 | AU-AV 22 | 1.27 | 0.93 | 近代~中世層確認 | |
| | | | 西外構② | 1/6, 3/18 | AO~AT22 | 0.9~0.96 | - | 既設内 | |
| | | | 北外構① | 2/2 | AN12-13 | 2 | - | 造成土および既設内 | |
| | | | 北外構② | 2/2 | AK~AL13 | 2.2 | - | GL-212mで明礬色粗砂（古代~中世河造埋土） | |
| | | | 東外構① | 2/8 | AR~AS09-09 | 1.52~1.59 | - | 既設内 | |
| | | | 東外構② | 3/22/5/19 | AW09 | 1.45 | 0.65 | DN10地点砂層確認：近世遺構埋土？ | |
| | | | 南外構 | 2/14~17 3/22/4/20 | AZ10~20 | 0.8~1.27 | - | 既設内 | |

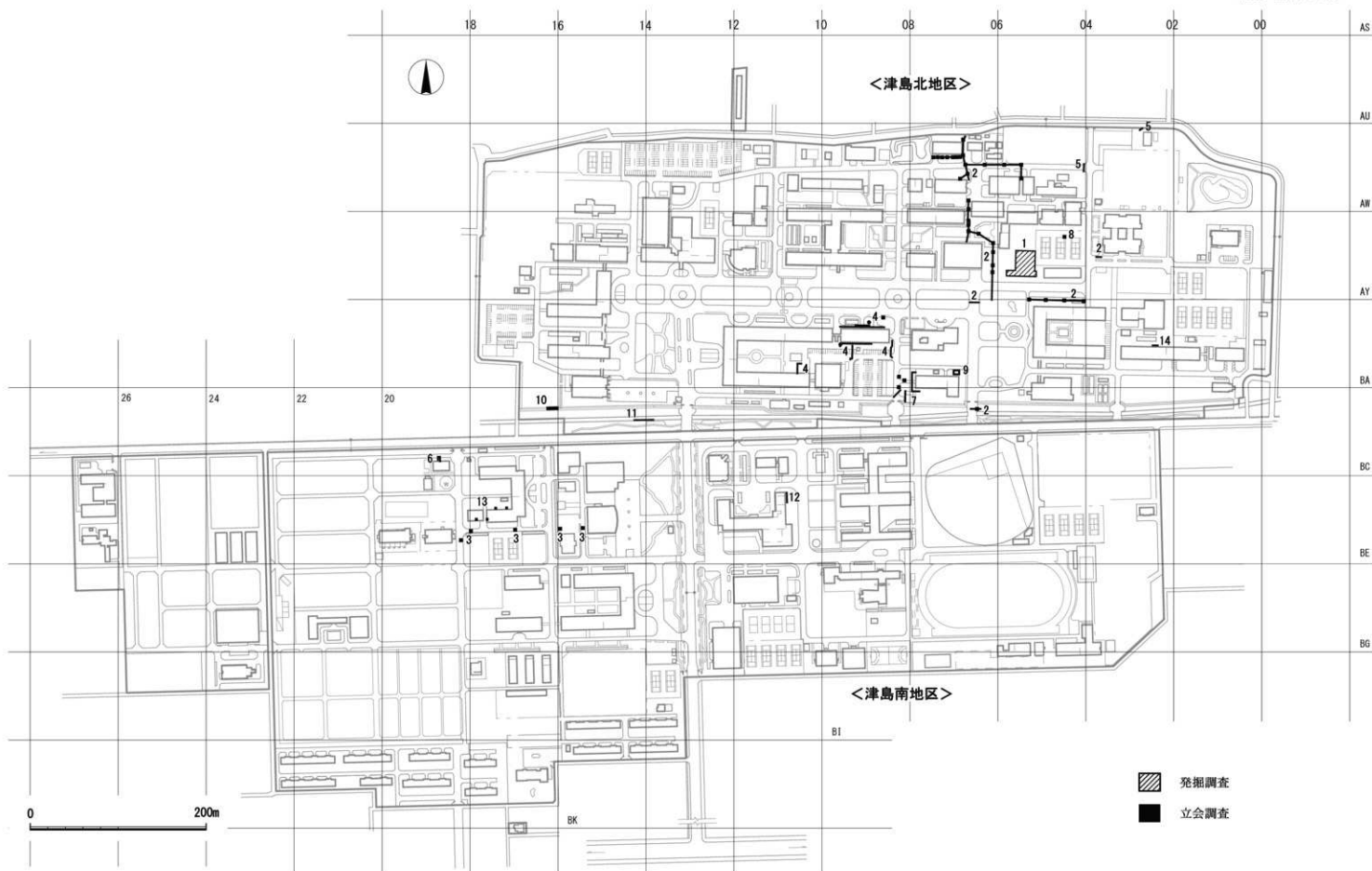


図21 2021年度の調査地点【1】—津島地区— (縮尺1/4,000)

※番号は表1の調査番号に対応する。



図22 2021年度の調査地点【2】－鹿田地区－（縮尺1/2,500）

第3節 構内遺跡に関する研究

1. 鹿田遺跡の中世～近世における集落の様相

岩崎 志保

a. はじめに

鹿田遺跡では2021年度までに実施した29次にわたる発掘調査で弥生時代中期～近代の遺構・遺物が確認されており、長期におよぶ土地利用について資料の蓄積が進んでいる。2021年度末に刊行した第20次調査地点B・D地点（以下本地点と記す）は鹿田遺跡の中央部に位置し、周辺の第18次調査B地点、第14次調査地点、第9・11次調査地点、第20次A地点・第25次調査地点を合計した調査面積は9,400m²を超え、中央部の状況がひろく明らかになってきたといえる（図23）。中世～近世においては、井戸・掘立柱建物を含む一定の区画を抽出することができ、この屋敷地を区画するいくつかの主要な溝が確認され、集落構造を検討するうえで重要な知見を得ることができた。なかでも本地点では近世における居住域の状況が初めて判明したことから、本稿では屋敷地と区画溝の配置について時期ごとに整理し、中世後半～近世・近代の土地利用に関する予察も含めて検討することとしたい¹⁾。

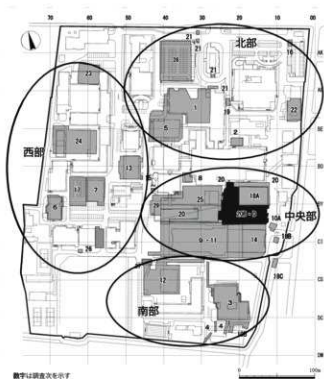


図23 鹿田遺跡の発掘調査地点（縮尺1/5,000）

b. 鹿田遺跡の中世～近世の時期区分

本地点では11世紀前半～19世紀前半に埋没した井戸25基が認められた。これらの井戸と溝との対応関係を周辺地点も含めて整理しよう。時期区分については表3に示したように、中世前半についてはⅠ～Ⅳ期の設定時期を用い、中世後半以降については試行的にⅤ～Ⅸ期とした区分を仮設定する²⁾。仮とするのはこれまでの調査地点において該期の井戸の検出が極めて少なく、また井戸からの遺物の出土が見られない、あるいは非常に少ないことに拠り詳細時期の決め手に欠ける遺構が多いことによる。また鹿田Ⅰ～Ⅰ期よりも古く位置付けられる遺構もわずかではあるが確認されており、それらについての時期設定は現在のところ行っていない。

この時期区分を用い、該期の井戸・溝について整理したものが表4である。前述したように中世後半（Ⅳ・Ⅴ期）の井戸には遺物が出土せず、詳細時期の不明なものがあり、それらは除外している。空欄＝0ではない。また調査地点は大きく北部、中央部、南部、西部にまとめた（図23）。以下本稿では、鹿田遺跡第20次調査井戸1をS20-井戸1というように記すこととする。

c. 平安時代後期～鎌倉時代

I期以前～IV期における鹿田遺跡の集落構造と変遷は山本（2005）主に北部・南部・西部の詳細が論じられている。ここでは本地点の成果を加えた中央部の状況を中心に時期ごとに概観しよう。

(1) I-1期以前～II期

鹿田遺跡における中世集落の萌芽期である。10世紀代に比定される井戸は、北部1基（S24）、西部1基（S13）の2基のみ、ついで11世紀前半に中央部1基（S20-井戸2）が僅かに確認される。I-1期にはいると、中央部4基（S20-井戸3、S14-井戸1・2、S18B-井戸1）が認められ、I-2期では、中央部4基、北部4基、西部2基、南部2基と、屋敷地が全域に広がるといえる。I-1期までの屋敷地には、それに伴う溝は明確には確認されない。

既に指摘されているように、鹿田遺跡における屋敷地の集住は11世紀前半に認められ、次いで区画溝による屋敷地の設置はI-2期よりはじまり、II期に遺跡の全域に広がる³¹。

中央部の状況は、本地点で井戸4～9の6基、S14-井戸1～4、S18B-井戸1の合計11基が確認されており、II期までに中央部の屋敷地の区画は、7～8区画が認められよう（図24左）。各区画に井戸1～3基が確認される。これらに対応する溝はS11-溝22、S14-溝8・9、そして、本地点-溝10・11、S11-溝24が挙げられる。これらの溝のうち正方位に沿う方向のS20-溝10・11、S11-溝24、S14-溝8・9が12世紀前半に埋没する一群であり、屋敷地の区画の一端を構成している。正方位に近い方向を志向していることがこの時期の区画の特徴の一つであろう。

中央部の屋敷地の南端は、S14-溝9が確認されているCMライン付近が境界となっており、これより南の南部ではII期までで屋敷地は終焉している。

(2) III～IV期

本時期には中央部で井戸16基、北部で9基、西部で6基が確認されている。中央部には、井戸の配置から少なくとも5区画の屋敷地を想定した（図24右）。その区画の境界となる主要な区画溝は南北方向のものがS1ライン付近を走行するS25-溝26～S9-溝46～48と15～16ラインを走行するS20B-溝14～S14溝10、東西方向のものがCEラインを走行するS11-溝38・39とCMラインを走行するS14-溝16～S11-溝49・50である。これらのうちCMラインが屋敷地の南端を画するラインであることは前代から踏襲されている。敷地の東端は次第に東へ拡張されていく状況を以下のように追うことができる。まず南北方向の15～16ラインのS20B-溝14～S14-溝10が12世紀末に埋められ、14～15ラインを走行するS20B-溝18～S14-溝15に代わる。この東端ラインは地形の影響か、北が東に振れた方向をとるもので、これらの主要区画はいずれも13世紀末～14世紀初頭に、または14世紀前半までに埋没する溝であり、方向は鹿田の地割方向に概ね沿うものである。

屋敷地内の井戸の推移をみると、①S20-井戸10→同-井戸13、井戸14、②S14-井戸6→S20-井戸12、③S11-井戸3→同井戸2→同井戸4（S20-井戸11）、④S9-井戸8→同井戸6→同井戸7・S20-井戸3、と4区画で2時期あるいは3時期にわたり屋敷地の存在が窺える。このほかS14-井戸5・9も屋敷地の可能性が考えられる。

以上の状況は、14世紀初～前半に大きく再編される。再編後に屋敷地が継続するのは、ほぼ中央部に限られ、北部・西部では井戸の検出がきわめて少なくなる。

表3 時期区分

| 時 期 | 鹿田時期区分 |
|---------------|--------|
| 10世紀代 | — |
| 11世紀前半 | — |
| 11世紀中～後半 | I-1 |
| 11世紀末～12世紀初 | I-2 |
| 12世紀前～中 | I-3 |
| 12世紀中葉～後葉 | II |
| 12世紀末～13世紀初 | II-1a |
| 13世紀前葉～中葉 | II-1b |
| 13世紀中葉～後半 | II-2 |
| 13世紀末～14世紀初 | II-3 |
| 14世紀前半 | III |
| 14世紀中葉～後半 | |
| 15世紀前半 | (V) |
| 15世紀後半～16世紀前半 | |
| 16世紀中葉 | (VI) |
| 16世紀後半 | |
| 16世紀末～17世紀前半 | |
| 17世紀後半 | |
| 18世紀前半 | (VII) |
| 18世紀後半 | |
| 19世紀前半 | |
| 19世紀後半 | (VIII) |
| 20世紀初め | (IX) |

表4 遺構の推移

| 調査年度 | 遺構番号 | 調査年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | 昭和27年 | 昭和28年 | 昭和29年 | 昭和30年 | 昭和31年 | 昭和32年 | 昭和33年 | 昭和34年 | 昭和35年 | 昭和36年 | | | | | | | | | |
| 昭和27年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和28年度 | 遺構1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和29年度 | 遺構2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和30年度 | 遺構3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和31年度 | 遺構4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和32年度 | 遺構5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和33年度 | 遺構6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和34年度 | 遺構7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和35年度 | 遺構8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和36年度 | 遺構9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和37年度 | 遺構10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和38年度 | 遺構11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和39年度 | 遺構12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和40年度 | 遺構13 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和41年度 | 遺構14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和42年度 | 遺構15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和43年度 | 遺構16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和44年度 | 遺構17 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和45年度 | 遺構18 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和46年度 | 遺構19 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和47年度 | 遺構20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和48年度 | 遺構21 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和49年度 | 遺構22 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和50年度 | 遺構23 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和51年度 | 遺構24 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和52年度 | 遺構25 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和53年度 | 遺構26 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和54年度 | 遺構27 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和55年度 | 遺構28 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和56年度 | 遺構29 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和57年度 | 遺構30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和58年度 | 遺構31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和59年度 | 遺構32 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和60年度 | 遺構33 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和61年度 | 遺構34 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和62年度 | 遺構35 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和63年度 | 遺構36 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和64年度 | 遺構37 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和65年度 | 遺構38 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和66年度 | 遺構39 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和67年度 | 遺構40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和68年度 | 遺構41 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和69年度 | 遺構42 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和70年度 | 遺構43 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和71年度 | 遺構44 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和72年度 | 遺構45 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和73年度 | 遺構46 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和74年度 | 遺構47 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和75年度 | 遺構48 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和76年度 | 遺構49 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和77年度 | 遺構50 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和78年度 | 遺構51 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和79年度 | 遺構52 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和80年度 | 遺構53 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和81年度 | 遺構54 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和82年度 | 遺構55 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和83年度 | 遺構56 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和84年度 | 遺構57 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和85年度 | 遺構58 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和86年度 | 遺構59 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和87年度 | 遺構60 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和88年度 | 遺構61 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和89年度 | 遺構62 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和90年度 | 遺構63 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和91年度 | 遺構64 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和92年度 | 遺構65 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和93年度 | 遺構66 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和94年度 | 遺構67 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和95年度 | 遺構68 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和96年度 | 遺構69 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和97年度 | 遺構70 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和98年度 | 遺構71 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和99年度 | 遺構72 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭和100年度 | 遺構73 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

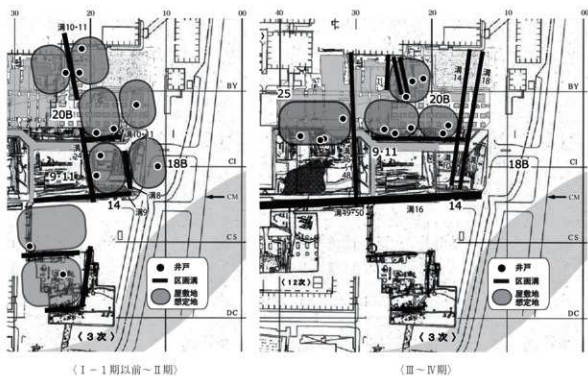


図24 中央部の屋敷地区画の変遷 (縮尺1/2,500)

これまで述べてきた平安時代後期～鎌倉時代の区画については12世紀前半と13世紀前半の2度にわたり、鹿田の地割方向ではなく正方位の南北方向の溝が認められることを改めて注意しておきたい。S20-溝10・11と、S25-溝25とS20-溝15である。12世紀前半に埋まるS20-溝10・11のラインを北に延長した先の鹿田遺跡の北端にあたる第21次調査地点でも同時期の溝が確認される。さらに北へ延長したラインは、岡山平野の条里における主要な南北ラインに合致する可能性が高いことが指摘されている⁴⁾。鹿田遺跡の敷地において屋敷地造営の画期ともいえる時期に、条里に則るラインが認められるものすぐに鹿田独自の地割方向により再編されている状況は、この地における土地区画の意識が古くから強固であることを伺わせるものと考ええる。

d. 室町時代～江戸時代

V～Ⅷ期の区分を試行的に設定し、井戸の時期を中心に屋敷地の推移をみていこう。

(1) 室町時代 (V期) (図25)

V期の井戸は、中央部に10基、西部に2基が認められる。中央部の区画溝の推移とともに屋敷地の動きをみてみよう。井戸は15世紀前半の4基 (S9-井戸9～12)、15世紀後半～16世紀前半の6基 (S20-井戸15～18、S25-井戸3、S14-井戸8) の大きく2時期に分かれる。西部の2基 (S17-井戸2、S26-井戸3) についての評価は保留とする。

主要な区画の南端ラインは変わらずCMライン付近 (S14-溝16～S11-溝59c・d)、東端ラインは前代よりもさらに東に拡張した12～13ラインに代わりS20-溝23～S14-溝17が境界となる。30ライン付近の南北ラインも廃絶し、36～37ラインにS25-溝40～S9-溝59aが走行している。北端についてはS20-溝24がBSラインに位置しており、このラインが境界の可能性を有す。以上の溝による大型の区画内には、北東部をL字状に区画するS20-溝21・22、南側を逆L字状に区画するS11-溝58a・b、L字状区画となるS11-溝55・56が認められ、それ

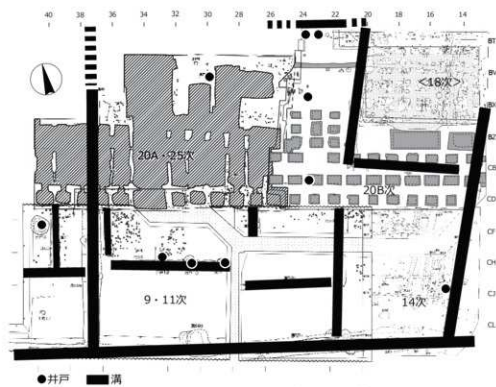


図25 V期の遺構配置 (縮尺1/1,200)

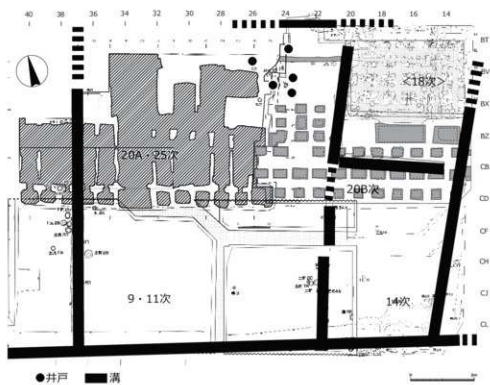


図26 VI～VII期の遺構配置 (縮尺1/1,200)

ぞれ屋敷地の区画を示す可能性を指摘できる。

上述した東西南北の主要な区画溝は、江戸時代に入っても継続的に使用されているが、井戸の配置との関係をみると、次第に耕作地利用が拡大していく中で用水路としての整備・改修が継続して行われていったであろうと考えられる。いくつか確認されたL字・逆L字状を呈する比較的小規模な区画溝は15世紀後半～16世紀前半に廃絶する。

(2) 戦国時代～明治時代 (図26)

Ⅵ期に属する遺構はこれまで確認されていない。次いでⅦ期の井戸は、中央部の中でも北東部に5基が限定的に認められる。S20-井戸22-25、S25-井戸7である。埋没時期としては16世紀末～17世紀前半に2基、18世紀前半に2基、19世紀前半に1基であり、すくなくとも屋敷地2区画の存在が窺える。またこれらの屋敷地内からの出土遺物には京焼水滴を初め、「寺」の刻印のある瓦片、染付の水滴片、多数の瓦等特徴的であり、寺に関連する建物の存在が指摘されている。中央部では、第18次調査A地点の正式報告が未刊であり、そこでは中世後半～近世の遺構が多く検出されていることから、Ⅶ期の屋敷地の様相は今後検討することとする。

これらの屋敷地に伴う区画溝としては、前代と同じくS20-溝21～24が機能している。このうちL字状区画を構成するS20-溝21・22は19世紀前半に廃絶する。そのほかの区画溝も19世紀後半までに埋まっており、屋敷地としての利用はこの時期までと判断される。その後は主に耕作地として利用されていくと考えられる。溝のうち、南端の境界をなすCMラインの東西溝、37ラインの南北溝は明治時代以降も継続的に機能しており、岡山医科大学の建設以降にも利用されていたことが、出土遺物からも確認される。

(3) 「切り図」にみる土地利用

「切り図」とは明治政府によって字単位で作成された地図である。鹿田遺跡の所在する鹿田本町は旧字名では岡・東古松・大供にあたる。該当する地番の切り図を入手し、調査地点に重ね合わせた(図27)⁵⁾。この図から読み取れることはいくつかあるが、本稿では区画溝との関係について述べるため、字境と字内の番地の境界ラインを抜き出して示している。これまでの発掘調査において確認される近代の遺構、なかでも溝・畦畔の位置と対照してみると、これまで述べてきた中央部では、南端を画する区画溝の位置(CMライン付近)が、岡の南端と東古松北端の字境にあたる。このラインにはS14-溝9以降、継続的に溝がつくられている。少なくとも12世紀か



図27 発掘調査地点と切り図の字境 (縮尺1/4,000)

ら境界の意識が踏襲されてきたものであろう。同位置で確認された最も新しい溝はコンクリートの暗渠となっており、大学病院路のある容器等が出土したものであった。同じく岡西端と東古松東端の字境にあたる位置では、S7-溝26-S17-溝20が確認されている。

番地の境界ラインについては出土遺構と合致するもの、しないものがあり鷓呑みにはできないものの、切り図に水路や畦畔の表現がある箇所も認められる。既調査地点でも近代についてはすべて報告していない場合もあるため今後も分析を進める。

e. 終わりに

中世～近世において、鹿田遺跡では井戸・区画溝を伴う屋敷地を継続的に認めることができる。その詳細を詰めることで、区画の位置や規模の変化が明らかとなる。本稿では特に、これまで遺構・遺物が比較的少なく、論じられることが少なかった中世後半～近世について概観した。第20次調査地点の状況が明らかになり、従来の認識とは異なる評価となったことを機に、まず時期区分の枠組みを整理した。しかし空白時期も多く試行的な段階と言わざるを得ない。今後、第18次調査地点ほか、新資料の増加により充実を図る必要がある。また明治時代以降については切り図と照合する分析の有効性を指摘し、今後の活用を図ることとする。

該期に関連する文献史料には、南北朝時代に備前守護を務めた松田氏が権勢をふるう様子が伝わる⁶⁾。室町幕府が地方支配のために各国に設置した守護には、室町時代初期には地元の武士を登用することが多かったとある。松田氏の所領は備前各地にあったとされ、松田氏の中でも次郎（豊前守）家が本拠としたのが鹿田一帯である。その後松田氏は、赤松氏・浦上氏と対立、1484・1485（文明16・17）年の合戦後、次郎家は衰退し、松田氏自体は1568（永祿11）年には滅亡する。この動乱期は鹿田遺跡ではV・VI期にあたる。鹿田遺跡と武士の関わりについては、時期は異なるが屋敷墓の分析も手掛かりとなろう。今後も遺構・遺物の分析から、鹿田遺跡の屋敷地の様相や住人の具体的な姿を追究したい。

注

- 1) 本表に関係する報告は次のとおりである（「報告書名」（調査地点）刊行年、編集はいずれも岡山大学埋蔵文化財調査研究センター）
「鹿田遺跡1」（第1・2次）1988年、「鹿田遺跡2」（第3・4次）1990年、「鹿田遺跡3」（第5次）1993年、「鹿田遺跡4」（第6次）1997年、「鹿田遺跡5」（第7・8次）2007年、「鹿田遺跡6」（第13・15次）2010年、「鹿田遺跡7」（第10・18次B・C）2013年、「鹿田遺跡8」（第14次）2014年、「鹿田遺跡10」（第9・11次）2017年、「鹿田遺跡11」（第24次）2018年、「鹿田遺跡12」（第20次A・25次）2018年、「鹿田遺跡13」（第26次）2019年、「鹿田遺跡14」（第17次）2020年、「鹿田遺跡15」（第12・27次）2021年、「鹿田遺跡16」（第20次B・D）2022年。
第18次調査：「鹿田遺跡第18次調査」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2007』2008年
- 2) I～IV期については山本（2007）を、またV～VII期については備前鏡編年（表5）を参照し、時代区分を考慮して設定した。
乗岡実2009「15世紀から17世紀初頭の備前鏡を消費した遺跡」『鎌倉・室町 BIZEN』備前市教育委員会
- 3) 山本（2007、2014）、山本・岩崎（2017）参照
- 4) 池田晋2011「旭川西岸の条里と津島岡大遺跡」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』第45号
光本順2012「鹿田遺跡第21次調査地点」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2010』
- 5) 岡山地方方法務局で入手した。
- 6) 榎原雅治2009「松田氏の活躍した時代」『玉松』玉松会
服部英雄2004「武士と荘園支配」山川出版社

表5 時期区分

| 時 期 | 鹿田区分 | 構内発掘層 | | | 時代 | |
|---------------|-----------|-------|------------------|-----------------|----|----------|
| | | 赤岡 | 宮原 | 重積 | | |
| 10世紀代 | | | | | 平安 | |
| 11世紀前半 | | | | | | |
| 11世紀中～後半 | I - 1 | | | | | |
| 11世紀末～12世紀初 | I - 2 | | | | | |
| 12世紀前～中 | I - 3 | | | | | |
| 12世紀中葉～後葉 | II | | | | | |
| 12世紀末～13世紀初 | III - 1 a | 中世1期 | I 平安末～鎌倉初期 | I B | | 鎌倉 |
| 13世紀前葉～中葉 | III - 1 b | | II 鎌倉中期 | II A | | |
| 13世紀中葉～後半 | III - 2 | 中世2期a | | | | |
| 13世紀末～14世紀初 | III - 3 | 中世2期b | III 鎌倉後半 | III B/III A | | |
| 14世紀前半 | IV | 中世3期a | | III B/III A - 1 | 室町 | |
| 14世紀中葉～後半 | | 中世3期b | | IV A - 2 | | |
| 15世紀前半 | (V) | 中世4期 | IV 南北朝～室町前半 | IV B - 1 | | |
| 15世紀後半～16世紀前半 | | 中世5期 | | IV B - 2、3 | | |
| 16世紀中葉 | | 中世6期 | V 室町末～江戸 | V A | | |
| 16世紀後半 | (VI) | 近世1期 | 16世紀第2四半期～17世紀初 | V B | | 戦国 江戸 |
| 16世紀末～17世紀前半 | | 近世2期 | 17世紀前葉～第3四半期 | | | |
| 17世紀後半 | | 近世3期 | 17世紀第4四半期～18世紀初め | | | |
| 18世紀前半 | (VII) | 近世4期 | 18世紀中葉～1840年頃 | | | |
| 19世紀前半 | | | | | | |
| 19世紀後半 | (VIII) | 近世5期 | 1840年頃～明治初め | | 明治 | |
| 20世紀初め | (IX) | 近代 | | | | |

【主要参考文献】

- 岡山県古代吉備文化財センター2007『鹿田遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告207
 山本悦世2007「中世の集落構造と推移」『鹿田遺跡5』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第23冊
 山本悦世2014「鹿田遺跡の土地区画と岡山平野の条里関連遺構」『条里制・古代都市研究』30
 山本悦世・岩崎志保2017「鹿田遺跡南東部における中世集落の土地区画とその構造」『鹿田遺跡10』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第32冊

2. 樹種同定・花粉分析データの総合化からみた周辺植生と利用樹種の関係 —岡山大学構内遺跡の事例から—

野崎 貴博

a. はじめに

発掘した遺跡を景観や環境のなかで位置づけるために、さまざまな自然科学的分析が実施されている。植物に関する主要な分析だけをとってみても、花粉分析、プラント・オパール分析、珪藻分析、樹種同定、種子同定など、分析の対象とする資料や方法は多岐にわたる。岡山大学構内遺跡（津島岡大遺跡・鹿田遺跡）でも、植物遺存体の分析を積極的に行ってきた。これまでに、樹種同定、花粉分析、プラント・オパール分析、珪藻分析、種実同定、圧痕レプリカ法、漆膜同定など、多種にわたる分析を実施している。これらの分析はいずれも景観や環境、さらには人間の営みを復元するうえで欠かせない。

これらの分析の試料となる植物質資料の性状もまた多様で、土中に埋没している間に作用する諸条件によって腐朽し、消滅してしまうものがあり、単一の分析ではその存否が不明となってしまう。しかし、それぞれの分析で対象となる試料が異なっていることは、こうした試料の遺存状況のばらつきをカバーする観点からすると、利点の一つといえるだろう。その利点を活かし、遺跡やその周辺の景観や植生、人間の植物利用の在り方を明らかにするためには、これらの分析を相互補完的に総合化する必要がある。本論での総合化の試みとは、地点ごとのデータを遺跡単位で、あるいは地域単位で集積する作業、異なる分析データを突き合わせ、相互に矛盾なく補完できるか検証する作業をさす。

しかし、そうした試みは少なく、個別の地点/遺跡での分析・考察がほとんどである。近年になって、花粉分析では地域単位でデータを総合化するという試み（林2018）などがなされている。

b. 樹種同定・花粉分析データの総合化の試み

(1) 総合化のねらい

今回、津島岡大遺跡・鹿田遺跡で実施した自然科学的分析のうち、樹種同定・花粉分析の成果について総合化し、集計表の作成、一覧表示を試みた。異なる分析による成果を突き合わせて検討することにより、新たな理解を導き出せるのではないかと考えたからである。今回、樹種同定・花粉分析を取り上げたのは以下の三つの理由による。

- ①岡山大学構内遺跡では、こうした取り組みが継続して積み重ねられてきたことにより、データの空白が次第に埋められてきた。津島岡大遺跡では樹種同定12件、花粉分析7件、鹿田遺跡では樹種同定15件、花粉分析3件が実施されている¹⁾。岡山県下において、個別の遺跡や遺跡群における分析件数としては群を抜いて多い。
- ②花粉分析および樹種同定は、遺跡をとりまく植生復元に有効な分析である。異なる分析による成果を総合化して比較検討するためには、何かしらの共通項を媒介として対比することが必要となるが、両者は多くが属レベルまで同定可能な分析であること、植生復元を目的の一つとする点が共通している。
- ③樹種同定では、サンプルを採取する材が自然木か、加工木かが分り、加工木の場合は、杭・建築材・製品のよう用途が判明している場合がある。遺構や土層などの情報にくわえ、遺物自体が有する属性から器種や用途が分かるといった情報があれば、目的に応じた樹種の選択や、利用樹種の経時の変化を明らかにすることが可能となる。

なお、両分析の総合化による通時的な植生を復元できることが理想であるが、資料的な制約もあり、自然木の樹種同定は津島岡大遺跡の縄文時代のデータのみとなっている。そのため、今回の総合化の試みでは、花粉分析

と自然木の樹種同定の対照は縄文時代に限ることを断っておく。

(2) 方法

先述のとおり、異なる分析で得られたデータを総合化して比較検討するためには、お互いに共通する基準を軸に再整理する必要がある。花粉分析は、定量サンプル中の花粉の個数が計数され、出現率がデータとして示される。樹種同定は、一分析のサンプル中での個数の計数データが示される。サンプル数は定量ではなく、多寡がある。両分析ではサンプリングの方法・基準が異なっていることを理解したうえで、本論では遺跡単位で集積したデータについて、出現率を基軸とする総合化を試みたい。

基礎データについては以下のように扱う。これまで報告された花粉分析の分類群には、木本類・草本類のほか、シダ植物、木本・草本類が含まれる。今回は、樹種同定のデータと比較検討を目的とするため、花粉分析については木本類の花粉のみを対象とし、報告されている全体の基数から木本類以外の分類群に属する個数を引いたものを木本類の基数として割合を再計算した。試料の帰属する時代については、発掘調査の成果に基づいて各層の時期が与えられている。ただし、その時間幅、精度、表記などについては、細部までのすり合わせは困難であり、ここでは大枠となる時代ごとにまとめた。

樹種同定データについては、津島岡大遺跡・鹿田遺跡それぞれの調査地点で出土・同定を行った資料の総和が基数となる。これも花粉分析と同じく、各時代の枠組みのなかでの出現率を算出し、大枠となる時代ごとにまとめた。

表6 樹種同定結果（鹿田遺跡）

| | 時代 | 弥生・古墳 | | 古代 | | 中世 | | 近世 | |
|---------|--------|-------|------|-----|------|-----|------|----|------|
| | | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 |
| 針葉樹 | モミ属 | 1 | 3.2 | 13 | 6.4 | 1 | 1.4 | 1 | 3.0 |
| | マツ属 | 4 | 12.9 | 21 | 10.3 | | | 1 | 3.0 |
| | スギ | | | 26 | 12.8 | 56 | 76.7 | 4 | 30.0 |
| | ヒノキ | 1 | 3.2 | 20 | 9.9 | 13 | 17.8 | 5 | 25.0 |
| | ヤマモミ | | | 1 | 0.5 | | | | |
| | ノダラミ | | | 10 | 4.9 | | | | |
| | ヤチヤチ | | | 1 | 0.5 | | | | |
| | イヌシダ属 | | | 3 | 1.5 | | | | |
| | タリ | 1 | 3.2 | 0 | 0.0 | | | 9 | 45.0 |
| | シイ属 | | | 10 | 4.9 | | | | |
| 広葉樹 | コナラ属 | 1 | 3.2 | 3 | 1.5 | 1 | 1.4 | | |
| | アカガシ亜属 | 9 | 29.0 | 6 | 3.0 | | | | |
| | クヌギ属 | 7 | 22.6 | 50 | 24.6 | | | | |
| | ケヤキ | | | 5 | 2.5 | | | | |
| | ニワトコ | | | 2 | 1.0 | | | | |
| | ヤマダツバ | 2 | 6.5 | | | | | | |
| | シキミ | | | 2 | 1.0 | | | | |
| | クスノキ | 2 | 6.5 | | | | | | |
| | クスノキ科 | | | 3 | 1.5 | | | | |
| | クロモジ属 | | | 2 | 1.0 | | | | |
| コブノキ | | | 1 | 0.5 | | | | | |
| ヤブツバキ | 1 | 3.2 | | | | | | | |
| ササキ | | | 1 | 0.5 | | | | | |
| ヒササキ | 1 | 3.2 | 2 | 1.0 | | | | | |
| イスノキ | | | 4 | 2.0 | | | | | |
| ウツギ属 | | | 1 | 0.5 | | | | | |
| カナムモ子 | | | 3 | 1.5 | 1 | 1.4 | | | |
| エズリハ属 | | | 1 | 0.5 | 1 | 1.4 | | | |
| センダン | | | 1 | 0.5 | | | | | |
| カスガ属 | 1 | 3.2 | 1 | 0.5 | | | | | |
| アワブキ | | | 1 | 0.5 | | | | | |
| モチノキ属 | | | 1 | 0.5 | | | | | |
| クマノミズナ属 | | | 1 | 0.5 | | | | | |
| カキノキ属 | | | 2 | 1.0 | | | | | |
| エゴノキ属 | | | 2 | 1.0 | | | | | |
| イボタノキ属 | | | 2 | 1.0 | | | | | |
| タチバナ | | | 1 | 0.5 | | | | | |
| 総計 | | 31 | | 203 | | 73 | | 30 | |

表7 樹種同定結果（津島岡大遺跡）

| | 時代 | 縄文 | | 弥生 | | 古代 | | 近世 | |
|--------|--------|-----|------|-----|------|-----|------|----|------|
| | | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 |
| 針葉樹 | カヤ | 1 | 0.4 | 2 | 2.0 | | | | |
| | イヌガヤ | 4 | 0.2 | 4 | 3.9 | | | | |
| | モミ属 | | | 5 | 4.9 | 12 | 7.5 | | |
| | ツバ属 | | | 1 | 1.0 | 11 | 6.8 | | |
| | マツ属 | | | | | 13 | 8.1 | 26 | 16.7 |
| | スギ | | | | | 16 | 9.9 | | |
| | ヒノキ | 2 | 2.0 | 15 | 9.3 | 1 | 3.3 | | |
| | ヤチヤチ | | | 1 | 1.0 | 8 | 5.0 | | |
| | タリ | 2 | 0.9 | 1 | 1.0 | 1 | 0.6 | 1 | 3.3 |
| | シイ属 | 7 | 0.4 | 4 | 3.9 | 24 | 14.9 | | |
| 広葉樹 | コナラ属 | 6 | 0.2 | 19 | 18.6 | 5 | 3.1 | | |
| | アカガシ亜属 | 167 | 73.9 | 16 | 15.7 | 23 | 14.3 | 1 | 3.3 |
| | クヌギ属 | 1 | 0.4 | 32 | 31.4 | 14 | 8.7 | | |
| | ケヤキ | 6 | 2.7 | | | | | | |
| | ムクノキ | 7 | 3.1 | 6 | 5.9 | | | 1 | 3.3 |
| | エノキ属 | 1 | 0.4 | 2 | 2.0 | 1 | 0.6 | | |
| | モチノキ属 | 3 | 1.3 | 1 | 1.0 | 3 | 1.9 | | |
| | ムクロジ | 3 | 1.3 | | | | | | |
| | ツバハ属 | | | 2 | 2.0 | | | | |
| | クワ属 | 1 | 0.4 | 1 | 1.0 | | | | |
| クスノキ科 | 3 | 1.3 | 1 | 1.0 | | | | | |
| ササキ | 4 | 1.8 | 1 | 1.0 | 6 | 3.7 | | | |
| リンボク | 10 | 4.4 | 1 | 1.0 | | | | | |
| センダン | | | | | 1 | 0.6 | | | |
| ユズリハ属 | | | | | 3 | 1.9 | | | |
| カキノキ属 | | | | | 3 | 1.9 | | | |
| ヤブニツケイ | | | | | 1 | 0.6 | | | |
| モモ | | | | | 1 | 0.6 | | | |
| サイカチ | 1 | 0.4 | | | | | | | |
| ケンボクシ属 | 1 | 0.4 | | | | | | | |
| 総計 | | 228 | | 102 | | 161 | | 30 | |

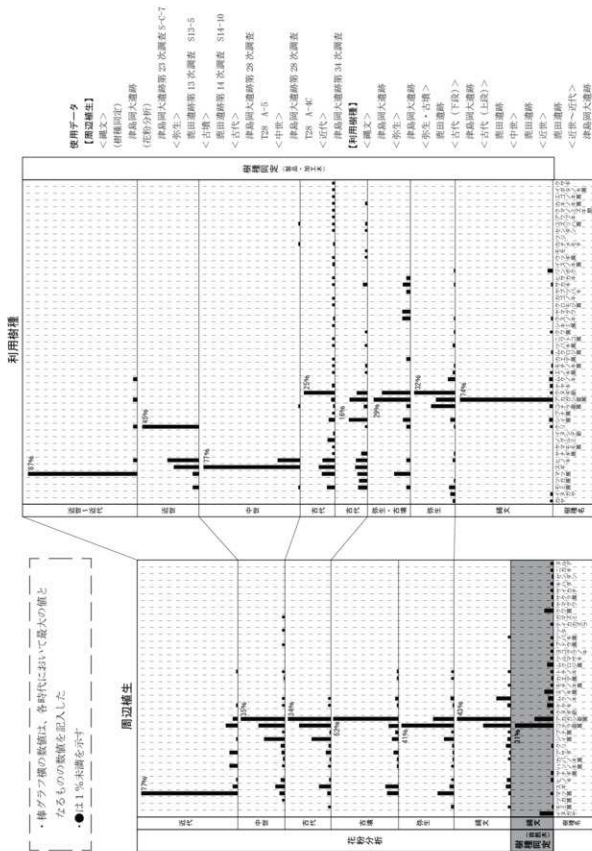


図28 岡山大学構内遺跡における周辺樹種と利用樹種

また、花粉分析と樹種同定を比較・検討するために、植物の配列を揃えた。植物の配列順については、『岡山県の樹木図鑑』（狩山2009）を参照、準拠した。

表6～8は、上記の方法で再整理したものである。また、この表をグラフ化したものが図28である。

c. 結果

(1) 周辺植生と利用樹種

この一覧表とグラフからは、周辺植生と利用樹種について、時代ごとの傾向をうかがうことができる。

周辺植生 遺跡周辺の植生は、自然木の樹種同定および花粉分析のデータを用いて推定する。

縄文時代から中世まではアカガシやコナラなどのブナ類が卓越し、古墳時代以降、スギが一定の比率で出現する。ただし、針葉樹は中世まで優勢とはならない。マツ属は古代以降に比率を高め、近世・近代に大きな割合を占めるようになることがうかがえる。

利用樹種の選択 利用樹種については、製品・加工木の樹種同定データを参照する。木製品を含めた、加工痕をもつ材の樹種選択をみてみると、縄文・弥生・古墳時代ではアカガシ・コナラ・クスギなどのブナ類が多数を占める。また、弥生～古代までは、割合は小さいものの、多種の広葉樹の利用がみられる。古代以降、マツ・スギ・ヒノキといった針葉樹の選択が優勢となる。中世以降では広葉樹の利用がわずかなる。

周辺植生と利用樹種の関係 花粉分析と自然木の樹種同定から推定される遺跡周辺の植生と、製品・加工木の樹種同定から得られた利用樹種の選択について、両者を時代ごとに対比しながらその関係をみてみると、縄文時代から古墳時代までは、ブナ類などの周辺植生における優勢種が利用樹種として多く選択される。中世では、岡山

表9 用途と樹種選択（津島岡大遺跡）

| | 時代 | 縄文 | | | | | | 弥生 | | | | | | 古代 | | | | | | 近世 | | | | | | |
|--------|--------|------|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|------|-----|------|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|----|---|--|
| | | 杭 | | 加工木 | | 製品 | | 杭 | | 加工木 | | 製品 | | 杭 | | 加工木 | | 製品 | | 杭 | | 加工木 | | 製品 | | |
| | | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | |
| 針葉樹 | カヤ | | | 1 | 0.4 | | | 1 | 1.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | イヌボヤ | 3 | 1.3 | 1 | 0.4 | | | 4 | 3.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | モミ属 | | | | | | | 1 | 1.0 | 3 | 2.9 | 1 | 1.0 | 10 | 6.2 | 1 | 0.6 | 1 | 0.6 | | | | | | | |
| | ツバキ属 | | | | | | | | | | | | | 9 | 5.6 | 1 | 0.6 | 1 | 0.6 | | | | | | | |
| | マツ属 | | | | | | | | | | | | | 12 | 7.5 | 1 | 0.6 | | | 25 | 13.3 | 1 | 3.3 | | | |
| | スギ | | | | | | | | | | | | | 8 | 5.0 | 5 | 3.1 | 3 | 1.9 | | | | | | | |
| | ヒノキ | | | | | | | 2 | 2.0 | | | | | 8 | 5.0 | 5 | 3.1 | 2 | 1.2 | 1 | 3.3 | | | | | |
| | ヤナギ属 | | | | | | | 1 | 1.0 | | | | | 8 | 5.0 | | | | | | | | | | | |
| | タリ | 2 | 0.9 | | | | | | | 1 | 1.0 | | | 1 | 0.6 | | | | | | | | | | | |
| | シイ属 | 7 | 3.1 | | | | | | | 4 | 3.9 | | | 24 | 14.9 | | | | | | | | | | | |
| コナラ亜属 | 1 | 0.4 | 5 | 2.2 | | | 3 | 2.9 | 15 | 14.7 | 1 | 1.0 | 5 | 3.1 | | | | | | | | | | | | |
| アカガシ亜属 | 158 | 69.9 | 9 | 4.0 | | | 7 | 6.9 | 7 | 6.9 | 2 | 2.0 | 20 | 12.4 | 2 | 1.2 | 1 | 0.6 | 1 | 3.3 | | | | | | |
| クスギ属 | | | | | 1 | 0.4 | | | 3 | 2.9 | 29 | 28.4 | | | 14 | 8.7 | | | | | | | | | | |
| ケヤキ | 1 | 0.4 | 5 | 2.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ムクノキ | 1 | 0.4 | 6 | 2.7 | | | 1 | 1.0 | 5 | 4.9 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| エノキ属 | 1 | 0.4 | | | | | | | 2 | 2.0 | | | | | 1 | 0.6 | | | | | | | | | | |
| モチノキ属 | 3 | 1.3 | | | | | 1 | 1.0 | | | | | | 3 | 1.9 | | | | | | | | | | | |
| 広葉樹 | ムクロジ | 2 | 0.9 | 1 | 0.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ツバキ属 | | | | | | | 2 | 2.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | クワ属 | 1 | 0.4 | | | | | | | 1 | 1.0 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | クスノキ科 | 3 | 1.3 | | | | | | | 1 | 1.0 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | サカキ | 4 | 1.8 | | | | | 1 | 1.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | リンゴ科 | 10 | 4.4 | | | | | | | | | 1 | 1.0 | | | | | | | | | | | | | |
| | セシダン | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ユズリハ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | オキナギ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ヤブニツケイ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| モミ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サヤササ | | | | | 1 | 0.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ケンボナシ属 | | | | | 1 | 0.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小計 | 197 | | 31 | | 0 | | 27 | | 70 | | 5 | | 138 | | 15 | | 8 | | 29 | | 1 | | 0 | | | |
| 総計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

平野では優勢種でないスギ・ヒノキが利用樹種として圧倒的に選択される。このことは、縄文時代から古墳時代までは、遺跡の近在でも調達可能な材を選択して利用していること、中世以降は他地域から搬入していることを推測させるものである。

(2) 用途と樹種選択の関係

次に、選択された樹種がどのような用途で用いられているかをさぐる試みとして、一定の点数が分析されている時代ごとに、杭・加工木・製品の用途に分けて、使用されている樹種の点数をカウントした(表9・10)。両遺跡とも時代によって出土点数や分析点数に差があり、単純に比較することはできないが、一覧表からは次の点を読みとることが可能である。

①杭は、縄文時代から古代までは多くの樹種を利用する。縄文時代ではアカガシ亜属の割合が非常に高い。分析点数は少ないものの、近世はマツ属の利用が高まる。

②加工木(板材を含む)は、縄文・弥生時代ではコナラ亜属・アカガシ亜属・クスギ節といったブナ科の広葉樹が多く、古代以降、針葉樹が多用される。

①・②から、杭は加工が単純で、少ないため、多様な樹種でまかなっていること、建築材や製品に用いる材は、用途に適した材を選択していることが考えられる。②から、古代になると、加工木において広葉樹から針葉

表10 用途と樹種選択(鹿田遺跡)

| | 時代 | 弥生・古墳 | | | | | | 古代 | | | | | | 中世 | | | | | | 近世 | | | | | | | |
|----------|--------|-------|------|-----|-----|----|------|----|-------|-----|-----|----|-----|----|------|-----|------|----|------|----|------|-----|------|----|------|--|--|
| | | 杭 | | 加工木 | | 製品 | | 杭 | | 加工木 | | 製品 | | 杭 | | 加工木 | | 製品 | | 杭 | | 加工木 | | 製品 | | | |
| | | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | | |
| 針葉樹 | モミ属 | | | 1 | 3.2 | | | 10 | 4.9 | 2 | 1.0 | 1 | 0.5 | | | 1 | 1.4 | | | 1 | 5.0 | | | | | | |
| | マツ属 | 1 | 3.2 | | | 3 | 9.7 | 20 | 9.9 | | | 1 | 0.5 | | | | | | | 1 | 5.0 | | | | | | |
| | スギ | | | | | 1 | 0.5 | 8 | 3.9 | 17 | 8.1 | | | | | 51 | 69.9 | 5 | 6.8 | 2 | 10.0 | 2 | 10.0 | | | | |
| | ヒノキ | | | | | 1 | 3.2 | 2 | 1.0 | 1 | 0.5 | 17 | 8.1 | 1 | 1.4 | 1 | 1.4 | 11 | 15.1 | 3 | 15.0 | | | 2 | 10.0 | | |
| 広葉樹 | ヤマモモ | | | | | 1 | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ノゴロミ | | | | | | | 10 | 4.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ヤナギ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | イヌシダ節 | | | | | | | 3 | 1.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | タリ | | | | | 1 | 3.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | シイ属 | | | | | | | 10 | 4.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | コナラ節 | 1 | 3.2 | | | | | 3 | 1.5 | | | | | | | 1 | 1.4 | | | | | | | | | | |
| | アカガシ亜属 | | | | | 7 | 22.6 | 2 | 6.5 | 5 | 2.5 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | クヌギ節 | 2 | 6.5 | 1 | 3.2 | 4 | 12.9 | 47 | 23.2 | 2 | 1.0 | 1 | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | |
| | ケヤキ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ニワトコ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ヤマタラシ | | | | | 2 | 6.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | シキミ | | | | | | | 1 | 0.5 | 1 | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | クスノキ | | | 1 | 3.2 | 1 | 3.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | クスノキ科 | | | | | | | 3 | 1.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | クワモジ属 | | | | | | | 2 | 1.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | カゴノキ | | | | | | | 1 | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ヤブツバキ | 1 | 3.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ヤナギ | | | | | | | 1 | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ヒヤナギ | | | 1 | 3.2 | | | 2 | 1.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | イスノキ | | | | | | | | | | | 4 | 2.0 | | | | | | | | | | | | | | |
| | ウツギ属 | | | | | | | 1 | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | カナムモ子 | | | | | | | | | 3 | 1.5 | | | | | | | 1 | 1.4 | | | | | | | | |
| | ユズリハ属 | | | | | | | 1 | 0.5 | | | | | | 1 | 1.4 | | | | | | | | | | | |
| | センダングサ | | | | | | | 1 | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | カエデ属 | | | 1 | 3.2 | | | 1 | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | アヲツバキ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| モチノキ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| クマノミズキ亜属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カキノキ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| エゴノキ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| イボクノキ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| クサキ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小計 | 5 | | 11 | | 15 | | 134 | | 17 | | 52 | | 3 | | 53 | | 17 | | 16 | | 2 | | 2 | | | | |
| 総計 | | | n=31 | | | | | | n=203 | | | | | | n=73 | | | | | | | | | | | | |

樹への転換がなされたことが明らかとなる。これは山陽地方では古代に材の転換がなされるという扇崎由の指摘(扇崎2012)を追認するものである。このことはまた、他地域からの材の搬入という、周辺植生と樹種選択の関係から推測された事象とも関わる。鹿田遺跡では中世のスギ材を用いた井戸枠構成材のなかに焼印を押印するのが認められている。また、数枚の材が接合し、打ち割りによって板材に再加工される前は樺という規格流通材の形であったことも明らかにされてきた(光本2004)。こうした事例は加工材として中世に多用された針葉樹が搬入品であることを示す資料である。岡山大学構内遺跡の事例について、中世段階の周辺植生と遺跡から出土する針葉樹材の量を鑑みれば、その多くが他地域から流通してきたものと考えることができよう。

d. まとめ

植生復元において、津島岡大遺跡の縄文時代のデータでは、自然木の樹種同定、花粉分析の傾向はほぼ一致している。今後、異なる時代の試料も含め、データの数を増やしながら、総合化により相互に補充可能かを検証し続けていくことが必要である。

利用樹種の選択について、古代に大きな転換があることがわかった。周辺植生と利用樹種について、古代以降、周辺植生で優勢とならない針葉樹の利用がほとんどとなる。これは供給体系の整備との関係が想定される。岡山大学構内遺跡の資料に限ってみれば、利用される樹種の変遷は、花粉分析の成果や、中世に流通した遺跡出土の規格材のあり方とも調和的で、遺跡をとりまく植生(自然環境の変化)、資源流通網の整備(社会の変化)を反映していると考えられる。

これまで自然科学的分析データは、当該の報告書において記載された後、別の研究素材として二次的に利用されることが少なかったと思う。本論は、こうした「埋もれたデータ」を活かすための試みでもあることを最後に記しておきたい。

註

- 1) 本論では、岡山大学構内遺跡における分析は2019年報告分までを対象としている。その後も継続して分析が行われており、今後、逐次更新されることとなるが、分析数の少ない近世以降を除き、大局的な面で大きな変更は生じないと考えている。

【参考文献】

- 扇崎由2012「中国(1)」『木の考古学』、pp.286-290
 狩山俊吾2009「岡山県の樹木図鑑」
 林竜馬2018「遺跡の花粉分析から地域スケールの植生史をさぐる～遊覧渠の遺跡古生態学データベースに基づく植生景観復元への試み～」『季刊考古学』145、pp.24-27
 光本順2004「鹿田遺跡第5次調査出土の井戸枠に関する再検討―焼印と木材の規格―」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2004』、pp.25-36

岡山大学構内遺跡分析一覧

【樹種同定】

- 能城修—1992「岡山大学津島地区から出土した木材化石の樹種」『津島岡大遺跡』3
 能城修—1993「津島岡大、鹿田遺跡出土の木製品、木材化石の樹種同定(再録)」『岡山大学構内遺跡調査研究年報10』
 能城修—1993「岡山大学鹿田地区から出土した木製品の樹種」『鹿田遺跡』3
 能城修—1995「岡山大学津島地区から出土した木材化石の樹種」『津島岡大遺跡』6
 能城修—1998「津島岡大遺跡第9次、第12次調査出土の木製品の樹種」『津島岡大遺跡』10
 能城修—2003「津島岡大遺跡第10次調査および第12次調査より出土した木材の樹種」『津島岡大遺跡』11
 能城修—2003「津島岡大遺跡第19次調査より出土した木材の樹種」『津島岡大遺跡』12

- 朝古環境研究所2003「樹種同定」(津島岡大道跡第27次調査)『津島岡大道跡』13
 能城修一2004「津島岡大道跡第15次調査出土木材の樹種」『津島岡大道跡』14
 能城修一2005「津島岡大道跡第26次調査出土木材の樹種」『津島岡大道跡』15
 能城修一2005「津島岡大道跡第22次調査出土木材の樹種」『津島岡大道跡』16
 能城修一・佐々木由香2006「津島岡大道跡第23・24次調査出土木材の樹種」『津島岡大道跡』17
 能城修一2007「岡山大学構内鹿田遺跡第7次調査出土の樹種」『鹿田遺跡』5
 朝古田生物研究所2007「鹿田遺跡第7次調査出土木製品の樹種調査結果」『鹿田遺跡』5
 朝元興寺文化財研究所2007「猿形木製品の樹種鑑定と赤色顔料分析」『鹿田遺跡』5
 能城修一2010「鹿田遺跡第13・15次調査出土木材の樹種」『鹿田遺跡』6
 朝古田生物研究所2010「曲物の樹種同定」『鹿田遺跡』6
 能城修一2011「津島岡大道跡第32次調査出土自然木の樹種」『津島岡大道跡』20
 朝古田生物研究所2011「津島岡大道跡第32次調査出土のアンペラの樹種」『津島岡大道跡』20
 能城修一2013「鹿田遺跡第10・14・18次調査出土木製品の樹種同定」『鹿田遺跡』7
 朝古田生物研究所2014「鹿田遺跡第14次調査出土木製品の樹種」『鹿田遺跡』8
 能城修一2016「鹿田遺跡第23次調査出土枕木の樹種」『鹿田遺跡』9
 能城修一2018「鹿田遺跡第24次調査出土木製品類の樹種」『鹿田遺跡』11
 朝古田生物研究所2018「岡山大学鹿田遺跡出土木製品の樹種調査結果」『鹿田遺跡』11
 能城修一2018「鹿田遺跡第20次調査A地点・25次調査出土木製品類と自然木の樹種」『鹿田遺跡』12
 能城修一2019「鹿田遺跡第17・26次調査出土木製品類と自然木の樹種」『鹿田遺跡』13
 朝古田生物研究所2019「鹿田遺跡第26次調査出土曲物の樹種同定」『鹿田遺跡』13

【花粉分析】

- 三好教夫(要約:栄一郎)1986「BH13区第Ⅸ・Ⅹ層土壌の花粉分析結果について」『岡山大学津島地区遺跡群の調査Ⅱ(農学部構内BH13区他)』
- 三好教夫1995「津島岡大道跡第6次調査地点の花粉分析と土壌分析」『津島岡大道跡』6
- 朝古環境研究所2003「花粉分析」(津島岡大道跡第27次調査)『津島岡大道跡』13
 朝古環境研究所2006「花粉分析」(津島岡大道跡第23次調査)『津島岡大道跡』17
 朝古環境研究所2008「花粉分析」(津島岡大道跡第28次調査)『津島岡大道跡』18
 朝古環境研究所2010「花粉分析」(鹿田遺跡第13次調査)『鹿田遺跡』6
 朝古環境研究所2011「花粉分析」(津島岡大道跡第32次調査)『津島岡大道跡』20
 朝古環境研究所2014「鹿田遺跡第14次調査における花粉分析」『鹿田遺跡』8
 朝古環境研究所2015「花粉分析」(津島岡大道跡第33次調査)『津島岡大道跡』21
 朝古環境研究所2016「花粉分析」(鹿田遺跡第23次調査)『鹿田遺跡』9

第2章 調査資料の整理および公開・活用

第1節 調査資料の整理・保存処理

1. 調査資料の整理

2021年度は、津島岡大遺跡第37次調査、鹿田遺跡第18・20・22・29次調査の整理作業を実施した。具体的には、津島岡大遺跡第37次調査では遺物の洗浄・注記、土壌洗浄、鹿田遺跡第18次調査では遺物復元、土壌洗浄、第20次調査では図面の整理・トレース、遺物の接合・復元・実測・トレース・版組、木製品の整理・実測・トレース・試料採取、第22次調査では図面整理、遺物の整理・実測、第29次調査では図面整理を行った。そして、鹿田遺跡第20次調査成果については「鹿田遺跡16」（岡山大学構内遺跡発掘調査報告38冊）として刊行した。また、「紀要2020」において津島岡大遺跡第35次調査の発掘調査報告書を掲載した。

自然科学的分析は表11の通りである。

(山口)

表11 2021年度分析一覧

| 調査次 | 分析資料 | 分析の種類 | 分析機関・分析者 | 主な結果 |
|--------|-------|-------|----------|--------------|
| 鹿田第20次 | 動物遺存体 | 同定 | 沼田直人 | 「鹿田遺跡16」参照 |
| 鹿田第30次 | 骨子 | 同定 | 沖澤子 | 「鹿田遺跡16」参照 |
| 鹿田第30次 | 木製品 | 樹種同定 | 島城恭一 | 「鹿田遺跡16」参照 |
| 鹿田第30次 | マフ | 年代測定 | パレス・ラボ | 「鹿田遺跡16」参照 |
| 鹿田第25次 | 石鏝 | 成分分析 | 白石純 | 紀要300第1巻3期参照 |

2. 調査資料の保存処理

a. 木製品のPEG処理

2021年度は昨年度から継続して第14期の保存処理を実施した。

第14期：鹿田遺跡第9・11次調査、同第20次調査、同23次調査、同24次調査、同25次調査、同26次調査、津島岡大遺跡第27次調査

b. 出土遺物の委託保存処理

鹿田遺跡第28次調査出土曲物の保存処理を株式会社吉田生物研究所に委託し、2022年3月に納品された。

(山口)

第2節 調査成果の公開・活用

1. 公開・展示

a. 第21回岡山大学キャンパス発掘成果展

2021年度のキャンパス発掘成果展は、「藤原摂関家殿下波築 鹿田庄」と題し、岡山大学文化科学系総合研究棟一階の考古資料展示室を会場に開催準備を進め、展示自体は完成させていた。しかし、2021年度にはいっても、新型コロナウイルス感染症の流行は拡大と鎮静化を繰り返していた。広報・周知のタイミングをはかってみたものの、感染は収まらず、また、急な感染拡大も予想されたため、2021年度の開催を見送り、次年度に延期す

ることとした。

(野崎)

b. 公開講座

「考古学と関連科学」を全体テーマとした本センターの講座は、2021年度で6年目となった。2019・2020年度は新型コロナウイルスの流行によって2回ずつの開催となったが、2021年度は当初の計画通り第14～16回の3回を開催することができた。2020年度の第13回では対面とオンラインのハイブリッド形式で開催したこともあり、2021年度もハイブリッド形式での開催を模索した。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から対面での開催は難しいと判断し、オンラインのみで行うこととなった。それに伴って、本公開講座の特徴の一つである関連遺物の展示は行うことができなかった。また、参加費も無料とした。

申し込み方法はこれまでと同様にメールと郵送で受け付け、参加者へ講座のZoomアドレスと資料をメールにて送付した。参加者は日本全国からあり、一部海外からの問い合わせもあった。また参加者に実施したアンケート結果から、職業は一般・研究者・学生（中～大学生）、年齢も10～70代以上と非常に幅広い層の参加を得ることができた。これは、これまでの参加者の傾向とは全く異なるものであり、オンラインで行うことのメリットが最大限発揮されたものと考えられる。また参加者の多くは、これからの開催に際して少なくともオンライン形式での開催を望んでいることもわかった。一方で、前述したようにオンラインでの参加者には講座内容に関連する遺物展示の視覚がかなわない。今後の開催方式についてはこの点を念頭に、より広く研究内容の発信と学習効果を高める工夫を行えるように検討をする必要がある。

なお、2021年度の実施内容は以下の通りである。

第14回「シミュレーションからみた人口と文化」

2021年11月20日（土）14：00～16：00 オンライン 参加者34名

松本直子（岡山大学文明動態学研究所教授）「シミュレーションで考える弥生文化の拡散」

山口雄治（本センター助教）「中国地方における縄文時代集落の人口」

第15回「高級調理具「石鍋」からみた古代・中世」

2022年1月22日（土）14：00～16：00 オンライン 参加者29名

新里亮人（熊本大学埋蔵文化財調査センター助教）「石鍋からみた九州と琉球列島」

南健太郎（本センター助教）「古代・中世における石鍋生産」

第16回「岩陰遺跡からみた古墳時代」

2022年3月26日（土）14：00～16：00 オンライン 参加者30名

清家章（岡山大学大学院社会文化科学研究科教授）

「和歌山県磯間岩陰遺跡の被葬者と親族関係」

「古墳時代岩陰遺跡・洞窟遺跡と環境変動」

(山口)

2. 資料・施設等の利活用

a. 調査・研究への支援

(1) 資料調査

- ・津島岡大遺跡突帯文土器：宮里修（高知大）2021年9月30日
- ・津島岡大遺跡第17・22次調査出土土器・石器：酒井雅代（鳥取県・岡大院）2021年10月18～21日
- ・津島岡大遺跡出土土器・木製品：藤尾慎一郎（国立歴史民俗博物館）2021年12月14日

(2) 図書館の貸し出し

- ・4冊（岡山大学教員・学生）

(3) 資料提供

- ・福呂遺跡出土土器：水ノ江和同（同志社大）2021年7月12日

(4) 写真掲載・画像利用等

- ・「吉備の弥生時代」掲載画像：山陽新聞社 2021年4月28日
- ・「センター報」26掲載画像（穂杖）：晃洋書房 2021年5月21日
- ・「吉備の弥生時代」掲載画像：小野田伸（岡山市）2021年11月10日

(5) マスコットキャラクター利活用

- ・しかたん画像 岡山大学工学部創造工学センター 2021年8月3・17日
- ・しかたん画像 岡山大学医療安全管理部 2021年10月26日・11月15～26日
- ・しかたん着ぐるみ 岡山大学医療安全管理部 2021年11月19～26日

(6) 機器使用依頼

- ・赤外線カメラ：三浦孝章（高梁市）2021年10月19日

b. 教育支援

(1) 博物館実習

2021年度の人文系博物館実習aでは「考古資料の取り扱い」を担当し、8月11・17日に12名の実習生が受講した。本実習では発掘調査で出土した資料の整理作業を通じて基礎的知識を習得することを目的とした。コロナ禍ということもあり、事前に「対面授業等実施のための感染防止対策のチェックリスト」を提出し、感染対策を講じた上で行った。実習は、土器の洗浄・注記・接合作業を中心に行った。そして最後には展示室を見学し、資料の公開・活用へと至る今回の実習内容の意義を考えた。また、実習内容の総括と反省について個別に発表する時間を設けた。それぞれが発表しディスカッションすることで、実習の習熟度とコミュニケーション能力を高めることを図った。さらに、非常勤職員とともに作業にあたるという職場環境を提供し、実践型社会連携教育の効果も図った。

(2) 学内ワークスタディ

2021年度は1名の学生（法学部）を雇用し、構内遺跡出土の遺物整理作業、および発掘調査報告書作成作業を行った。

c. 社会貢献

(1) 中学生職場体験

- ・岡山市岡北中学校 2021年11月9～11日 3名

(2) 職員の兼務

山本悦世

- ・岡山県文化財保護審議会委員
- ・岡山県埋蔵文化財専門委員
- ・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員
- ・島根県古代文化センター企画運営委員
- ・松江市文化財保護審議会委員

岩崎志保

・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員

野崎貴博

・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員

南健太郎

・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員

山口雄治

・ノートルダム清心女子大学文学部現代社会学科 非常勤講師

・国立歴史民俗博物館 共同研究員

・金沢大学人間社会研究域附属古代文明・文化資源学研究中心 客員研究員

(3) 展示見学の受け入れ

・常設展示室見学：6名（一般1名）

（山口）

第3節 調査研究員の個別研究活動

1. 外部資金獲得状況

岩崎志保：2021年度RIDC共同研究「ICT技術による文化資源の社会化と活用に関する実践的研究」研究代表者

野崎貴博：科学研究費基盤研究（S）「王陵級巨大古墳の構造分析に関する文理融合型総合研究」（研究代表者：岡山大学 清家章）研究分担者

南健太郎：科学研究費基盤研究（B）「三角縁神獣鏡の製作地解明に向けたミュオンビームによる非破壊成分分析とその検証」研究代表者

2021年度RIDC共同研究「ミュオン完全非破壊成分分析による日本最古の墨書文字の実態解明」研究代表者

科学研究費基盤研究（S）「王陵級巨大古墳の構造分析に関する文理融合型総合研究」（研究代表者：岡山大学 清家章）研究分担者

科学研究費基盤研究（B）「古代東アジア青銅器の研究：ミュオン非破壊分析と鋳造凝固解析で解明する超絶技巧」（研究代表者：富山大学 長柄毅一）研究分担者

科学研究費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））「三角縁神獣鏡製作地同定へ向けて－華北東部系鏡群の調査を中心に－」（研究代表者：奈良県立橿原考古学研究所 清水康二）研究分担者

科学研究費挑戦的研究（開発）「宇宙線を用いた完全非破壊オンサイト成分分析法の開拓：古代青銅器文化の解明に向けて」（研究代表者：大阪大学 佐藤朗）研究分担者

山口雄治：科学研究費基盤研究（C）「西日本における縄文時代の人口動態に関する研究」研究代表者

公益財団法人高梨学術奨励基金令和3年度若手研究助成「アナトリアにおける後期銅石器～前期青銅器時代集落の研究」研究代表者

科学研究費基盤研究（S）「王陵級巨大古墳の構造分析に関する文理融合型総合研究」（研究代表者：岡山大学 清家章）研究分担者

科学研究費基盤研究（A）「原シルクロードの形成－中央アジア山岳地帯の初期開発史に関する総合

研究-」(研究代表者:金沢大学 久米正吾) 研究分担者

2. 論文・研究報告ほか

岩崎志保

岩崎志保・沖陽子2022「鹿田遺跡第20次調査出土種子同定」『鹿田遺跡16』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、pp.112-118.

南健太郎

南健太郎2021「銅鏡埋納の背景」『古代古備』第32集 古代古備研究会、pp.1-15.

南健太郎2021「鋸歯文配置からみた銅鐸製作工人集団の動態-加茂岩倉35号鐸型の系譜関係を中心に-」『滋賀県立大学考古学研究室論集』I 滋賀県立大学考古学研究室、pp.21-30.

MINAMI, K. 2021「Technological positioning of the triangular-rimmed deity-and-beast mirrors by considering the location of the gate of mold」『アジア鑄造技術史学会研究発表資料集』第14号 アジア鑄造技術史学会、pp.16-18.

長柄毅一・南健太郎・廣川守・三船温尚2021「三角縁神獸鏡の鑄造シミュレーションによる湯流れ、凝固過程の考察」『アジア鑄造技術史学会研究発表資料集』第14号 アジア鑄造技術史学会、pp.19-21.

南健太郎2021「日本列島最古の文字とミュオン分析の展望」[KEK Proceedings] 2021-1 KEK、pp.136-153.

南健太郎2021「岡山大学構内遺跡出土古代・中世の墨書土器」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要』2020 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、pp.24-31.

白石純・南健太郎2021「岡山県岡山市鹿田遺跡第25次調査出土土鍋の分析」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要』2020 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、pp.32-34.

南健太郎・三船温尚・清山隆2022「三角縁神獸鏡の注湯方法復元に向けた鑄造実験」[FUSUS] Vol.14 アジア鑄造技術史学会、pp.65-74.

南健太郎・反保元伸2021「ミュオン非破壊分析による弥生時代墨書文字の検討」[KEK Proceedings] 2021-7 KEK、pp.53-65.

南健太郎2022「重圓文鏡生産開始期の技術様相-湯口・湯道の設置方法の検討から-」[FUSUS] Vol.14 アジア鑄造技術史学会、pp.89-93.

南健太郎2022「「専」に関する墨書土器とその解釈」『文明動態学』Vol.1 岡山大学文明動態学研究所、pp.82-91.

山口雄治

Nakagawa, T., K. Tamura, Y. Yamaguchi, N. Matsumoto, T. Matsugi and H. Nakao 2021 Population pressure and prehistoric violence in the Yayoi period of Japan. Journal of Archaeological Science, 132, 105420. DOI: 10.1016/j.jas.2021.105420

山口雄治2021「中央アナトリアにおける都市成立期の地域間交流」『高梨学術奨励基金年報-令和2年度研究成果報告-』公益財団法人高梨学術奨励基金、pp.41-47.

光本順・山口雄治・R. ジョセフ2022「LiDAR測量による岡山県赤磐市鳥取上高塚古墳の墳丘の検討」『文明動態学』Vol.1 岡山大学文明動態学研究所、pp.67-81. DOI:10.18926/63028

山口雄治2022「キュルテベ遺跡の赤黒土器-紀元前4-3千年紀の地域間交流-」『西アジア考古学』23 日本西アジア考古学会、pp.101-110.

紺谷亮一・山口雄治・F. クラックオウル2022「中央アナトリアにおける銅石器時代解明へ向けて—キェルテベ遺跡中央トレンチ発掘調査2021年—」『第29回西アジア発掘調査報告会報告集』西アジア考古学会、pp.97-99.

3. 研究発表・講演ほか

山本悦世

山本悦世「環境変化からみた岡山県南部域における縄文時代後期集落形成の背景—旭川下流域西岸地域を取り上げて—」2021年6月19日 オンライン（中四国縄文研究会）

南健太郎

MINAMI, K. Technological positioning of the triangular-rimmed deity-and-beast mirrors by considering the location of the gate of mold. 2021年8月21-23日 オンライン（アジア鑄造技術史学会第14回高岡大会）

長柄毅一・南健太郎・廣川守・三船温高「三角縁神獣鏡の鑄造シミュレーションによる湯流れ、凝固過程の考察」2021年8月21-23日 オンライン（アジア鑄造技術史学会第14回高岡大会）

南健太郎「吉備の弥生時代」から探る弥生社会像」2021年8月25日 オンライン（明治大学博物館友の会・弥生文化研究会寺子屋式研究会オンライン講演会）

南健太郎・反保元伸「ミュオン非破壊分析による弥生時代墨書文字の検討」2021年9月9-10日 オンライン（第5回文理融合シンポジウム 量子ビームで歴史を探る—加速器が紡ぐ文理融合の地平—）

南健太郎「特性X線ミュオンによる 考古学研究の新展開」2021年9月28日 オンライン（日本科学者会議岡山支部例会）

南健太郎「壊さずしてモノの内部情報を探る—ミュオン非破壊分析法による考古学研究—」2021年12月15日 オンライン（第7回RIDCマンスリーセミナー）

南健太郎「ミュオン非破壊分析による三角縁神獣鏡鑄造技術の研究」2022年1月7-8日 大阪大学 豊中キャンパス 南部陽一郎ホール・オンライン（第6回文理融合シンポジウム 量子ビームで歴史を探る—加速器が紡ぐ文理融合の地平—）

南健太郎「古代・中世における石鏡生産」2022年1月22日 オンライン（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター第15回公開講座）

南健太郎「ミュオン非破壊分析法による考古資料の成分分析」2022年2月12日 オンライン（考古学研究会岡山2月例会）

山口雄治

光本順・R. ジョセフ・山口雄治「岡山市造山古墳群のLidar測量」2021年3月27-28日 オンライン（考古学研究会第67回研究会集會ポスターセッション）

Uesugi, A., Y. Yamaguchi, S. Watanabe, M. Abe, T. Miki and J. Gregg. Spatial analysis on Early Dilmun burial mounds in Bahrain using high-resolution terrain models. 2021年7月2-4、9-11日（The 54th Seminar for Arabian Studies）

山口雄治「LiDARデータによるDEM作成とその精度」2021年9月26日 オンライン（出ユーラシアの統合的人類学A01班研究会発表会）

山口雄治「中国地方における縄文時代集落の人口」2021年11月20日 オンライン（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター第14回公開講座）

- 光本順・R. ジョセフ・山口雄治・清家章「岡山県内の古墳のUAV-LiDAR測量に関する成果と展望」2022年1月8・9日 オンライン（出ユーラシアの統合的人類史学 第6回全体会議）
- 山口雄治「津島岡大遺跡・百間川遺跡群の水田等の遺構について」2022年1月22・23日岡山NPD会議室（令和3年度第2回歴博基幹研究「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化の形成」研究会）
- 紺谷亮一・山口雄治・F. クラックオウル「中央アナトリアにおける銅石器時代解明へ向けて－キュルテベ遺跡中央トレンチ発掘調査2021年－」2022年3月12・13日 広島県民文化センター（第29回西アジア発掘調査報告会）
- 光本順・R. ジョセフ・山口雄治「岡山県津山市佐良山古墳群内におけるUAV-LiDAR測量」2022年3月26・27日 オンライン（日本情報考古学会第46回大会）（山口）

第3章 2021年度における調査・研究のまとめ

調査

2021年度は津島キャンパスにおいて津島岡大遺跡第40次調査、鹿田キャンパスにおいて鹿田遺跡第29次調査を行った。津島岡大遺跡第40次調査では、遺構・遺物の検出がわずかではあったが、隣接する第28・31次調査間の地形および人間活動について面的に明らかにすることができた。縄文時代後期の活動痕跡は希薄であることから本調査地点は集落縁辺部に当たるものと考えられ、また弥生時代前期には低位部に畦畔がつくられていることが判明し、既往の調査成果を補強する成果となった。鹿田遺跡第29次調査では、弥生時代後期の水田と考えられる高まりとその低位部を画する位置に溝群が検出された。周辺調査地点で確認されている水田が本調査地点にも広がっていることが示されたが、今後の自然科学的分析によってより詳細が明らかになるものと考えられる。また中世では、その前半では遺構が井戸1基のみであったが、後半では屋敷地を構成する遺構群が多数確認された。本調査地点では中世後半において屋敷地としての利用が開始されたものと考えられ、周辺調査地点とは異なる動向を示す。中世における屋敷地の変遷を考える新たなデータを得ることができた。

津島地区のライフライン再生に伴う立会調査では、津島地区北～中央にかけての地形と環境に関するデータを得ることができた。これにより、山陽道の一部をなすと考えられる福輪寺繩手の範囲を考察することが可能となった点は注目されるものである。

研究

発掘調査の資料整理では、鹿田遺跡第20次調査B・D地点の成果をまとめ、「鹿田遺跡16」として報告書を刊行した。本調査地点は鹿田遺跡中央部に位置し、隣接する第9・11次、第14次、第20次A・25次調査地点を含めると調査面積がおよそ10,000㎡となり、広く面的に考古学的状況を明らかにできるようになった。特筆される成果としては、弥生～古墳時代初期の微地形に関する情報を得られたこと、中世から近世にかけての屋敷地の区画溝を確認できたことで集落構造を検討できる知見を得たことが挙げられる。後者については、本紀要第1章第3節1において考察されている。また、津島岡大遺跡第35次調査についても報告できた。

研究費は、科学研究費補助金研究代表者が2件、分担研究者7件であった。また、岡山大学文明動態学研究所の共同研究助成が2件、民間の研究助成が1件であった。

情報発信

本年度においても新型コロナウイルス感染症は情報発信活動に影響を与え、キャンパス発掘成果展は中止とせざるを得なかった。一方で、公開講座はオンラインのみに方法を変更し、開催することができた。また、津島岡大遺跡第40次調査の発掘調査現地公開も、規模を縮小せざるを得なかったものの、行うことができた。このように本年度は、コロナ禍における情報発信活動のノウハウが一定程度蓄積され、新しい方法による活動の模索と実践が行われた年度であったといえる。これをさらに発展させることで、様々な方々へ成果を届けられるよう、積極的な情報発信に努めたい。

まとめ

以上、2021年度も発掘調査や報告書作成によって成果が得られ、情報発信活動も、制限はあったものの、行うことができた。本年度は発掘調査や立会調査が多く、津島岡大遺跡、鹿田遺跡双方に新たなデータが追加された点の特徴として挙げられよう。今後、報告書刊行に向けて更なる分析を行っていききたい。

本センターは2021年度をもって廃止となり、2022年度からは文明動態学研究所へと統合された。これまでの事業は、同研究所文化遺産マネジメント部門として継続することとなる。今後もこれまで培ってきた事業・活動を継承し、構内遺跡の調査研究、情報発信を推進していきたい。

(山口)

資 料

1. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程・組織等

a. 2021年度岡山大学埋蔵文化財調査研究組織

(1) センター組織



(2) 運営委員会

【委員】

| | | | |
|-------|----------------------------------|-------|-----------------------------------|
| 袖山 祐之 | 財務・施設担当理事 (センター長) | 大橋 俊孝 | 学術研究院医歯薬学学域 (医) 教授 |
| 清家 章 | 学術研究院社会文化科学学域 (文) 教授 (副センター長) | 岩崎 志保 | 本センター准教授 (調査研究室長) |
| 今津 勝紀 | 文明動態学研究所教授 | 野坂 俊夫 | 学術研究院自然科学学域 (理) 准教授 (調査研究専門委員) |
| 松本 直子 | 文明動態学研究所教授 | 岩永 仁 | 施設企画部長 |
| 加藤 鎌司 | 学術研究院環境生命科学学域 (農) 教授 | | |

【2021年度協議・報告事項】

第100回 2021年4月26～30日

協議事項

- ・埋蔵文化財調査研究センター教員におけるテニユア・トラック制に関する内規の一部改正について

第102回 2021年11月29日～12月3日

協議事項

- ・埋蔵文化財調査研究センター教員選考委員会の設置について

第101回 2021年9月17日

協議事項

- ・埋蔵文化財調査研究センター助教の選考について

報告事項

- ・令和3年度埋蔵文化財調査研究センター予算について
- ・令和2年度決算について

第103回 2022年3月15日

協議事項

- ・埋蔵文化財調査研究センター助教の選考について

- ・国立大学法人岡山大学埋蔵文化財調査委員会の設置に関する要項の制定について

報告事項

- ・令和3年度埋蔵文化財調査研究センター業務報告について

(3) 埋蔵文化財調査研究センター・文明動態学研究所体制検討WG

【委員】

松本直子 文明動態学研究所長

山本悦世 埋蔵文化財調査研究センター特任教授

清家 章 埋蔵文化財調査研究センター副センター長

岩崎志保 埋蔵文化財調査研究センター調査研究室長

【2021年度協議事項】

2021年5月20日

- ・研究所組織のあり方について

2021年7月8日

- ・研究所組織図案

2021年7月15日

- ・研究所組織・体制について
- ・埋蔵文化財調査委員会の設置について

2021年9月3日

- ・来年度以降の事務体制について
- ・委員会の設置について その他

2021年9月30日

- ・来年度以降の組織・体制・事務について
(※社文事務含めて協議)

2021年10月6日

- ・埋蔵文化財調査研究センター廃止と文明動態学研究所改組について

2021年10月21日

- ・同上(※施設部・総務部・社文研事務とともに協議)

2021年12月8日

- ・研究所規程改定と部門内規について

2022年1月24日

- ・埋蔵文化財調査委員会内規について
- ・教員選考方法に関する規定について

2022年2月24日

- ・テニユアトラック審査基準について

b. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの規程

(1) 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程

〔平成16年4月1日〕
岡大規程第93号

改正 平成20年3月31日規程第28号
平成23年3月31日規程第26号
平成23年9月27日規程第84号
平成26年1月28日規程第1号
平成31年3月29日規程第63号
令和3年2月4日規程第8号

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人岡山大学管理学園（平成16年岡大規則第1号）第26条の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、岡山大学（以下「本学」という。）の敷地内の埋蔵文化財について、次の各号に掲げる業務を行い、もって埋蔵文化財の保護を図ることを目的とする。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- 二 発掘された埋蔵文化財の整理及び保存に関すること。
- 三 埋蔵文化財の発掘調査報告書の作成等に関すること。
- 四 その他埋蔵文化財の保護に関する重要な事項

(自己評価等)

第3条 センターは、センターに係る自己点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行い、その結果を公表する。

2 前項の自己評価については、本学の職員以外の方による検証を受けることを原則とする。

(教育研究等の状況の公表)

第4条 センターは、教育研究及び組織運営の状況等について、定期的に公表する。

(センター長)

第5条 センターにセンター長を置く。

- 2 センター長は、財務・施設担当理事をもって充てる。
- 3 センター長は、センターを代表し、その業務を総括する。

(副センター長)

第6条 センターに副センター長を置く。

- 2 副センター長は専門的知識を有する本学の教授のうちから学長が任命する。
- 3 副センター長は、センター長の職務を助ける。
- 4 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(調査研究室)

第7条 センターにセンターの業務を処理するため調査研究

室を置く。

2 調査研究室は、室長、センター専任の教員及びその他必要な職員で構成する。

3 室長は、専門的知識を有する本学の教員のうちからセンター長の推薦に基づき、学長が任命する。

4 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

5 調査研究室の構成員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

(調査研究専門委員)

第8条 センターに、センターの業務のうち特に専門的な事項についての調査研究の推進を図るため、調査研究専門委員（以下「専門委員」という。）を置く。

2 専門委員は、本学の教員のうちからセンター長が委嘱する。

3 専門委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第9条 センターに、センターの運営に関する重要な事項を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関し、必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 センターの事務は、施設企画部施設企画課において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、センターに関し、必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年1月28日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

(2) 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程

〔平成26年1月28日〕
〔岡大規程第2号〕

改正 平成27年3月31日規程第65号

(趣旨)

第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程（平成16年岡大規程第93号）第9条第2項の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する次の事項を審議する。

- 一 センターの業務に関する重要事項
- 二 教員の教育研究業績の審査に関する事項
- 三 その他センターの運営に関する重要事項

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 センター長
 - 二 副センター長
 - 三 本学の教授のうちからセンター長が必要と認めた者若干人
 - 四 センターの調査研究室長
 - 五 センターの調査研究専門委員のうちからセンター長が必要と認めた者 1人
 - 六 施設企画部長
- 2 前項第3号及び第5号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の在任期間とする。
- 3 教員の選考に関する事項を審議する場合には、第1項第

4号及び第5号のうち教授でない者並びに第6号の委員は、審議に加わらないものとする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときには、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員会の成立等)

第5条 運営委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(事務)

第7条 運営委員会の事務は、施設企画部施設企画課において処理する。

附 則

- 1 この規程は、平成26年1月28日から施行する。
- 2 この規程の施行後に最初に任命される第3条第1項第3号及び第5号の委員は、この規程の施行に伴い廃止される岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会内規（平成16年4月1日学長裁定）第3条第1項第3号及び第4号の委員をそれぞれ充てることとし、その任期は、第3条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

c. 岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項

岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項

平成12年5月15日

埋蔵文化財調査研究センター長
施設部長

1. 請負業者が留意すべき事項

1. 請負業者は現場代理人を発掘作業の現場に常駐させ、作業員の安全と健康の管理につとめること。
2. 発掘作業の現場に「地山掘削」と「土止め支保工」の技能講習修了者をおき、作業員の安全や健康にも注

意すること。

3. 工事用電力の保安責任者をおくこと。
4. 非常停止装置を備えたベルトコンベアーを用いること。
5. 重機の運転は、免許所有者がおこなうよう厳守させること。

II. 発掘現場で注意すべき事項

1. 服装・装備・用具等

- 1) 安全で機能的な服装にする。
- 2) 平坦面から2m以上の穴等を掘削する場合は、ヘルメットを着用する。
- 3) ベルトコンベアーの移動時および周辺での作業の際には、ヘルメットを着用する。
- 4) グラインダーを使用する際は、手袋・防護眼鏡を着用する。
- 5) スコップ・草削りなどの用具は、危険がないよう使用方法や置き方や保管方法に十分注意する。

2. 掘削

1) のり面の角度

造成土：通常の土壌の場合は50～60度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこなう。砂地の造成土の場合は35度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこなう。

堆積土：基本75度とし、状況や土質に応じて安全な角度をとる。

発掘区の壁際を深さ1.5m以上掘削する場合は、原則として途中で段を設ける。その場合の段の巾は、60cm以上とする。

2) のり面の保護

のり面はシート等で覆うなどし、崩落防止のために必要な保護措置をとる。

3) 深い遺構（深さ1.5m以上の遺構）

遺構掘削者以外の者が上面で安全確認を行い、十分な注意を払う。場合によっては周囲を広くカットして対応する。なお、作業現場内への昇降のために、階段を設置する。

3. 高所（高さ2m以上の場所）での作業

- 1) 作業中には安全帯を使用する。

- 2) 架台を組んだ場合は最上段に手すりを設け、安全を確保する。

- 3) 2段以上の架台は、分解して移動させる。

4. 発掘用機械類の操作

（ベルトコンベアー・ポンプ等）

- 1) 調査用電源の設置と取扱いについては、工事用電力の保安責任者が安全確認を行う。

- 2) ベルトコンベアー・水中ポンプ等の知識を持つ者が整備・稼働させる。

- 3) ベルトコンベアーを重ねたつなぎ目の部分には、なるべく土が落ちないように措置をする。

- 4) 原則としてベルトコンベアーの直下での作業・通行を避ける。

- 5) ベルトコンベアーの移動時は作業員の中で指揮者を決め、周辺の安全性を確保したうえで移動させる。

（重機関係）

- 1) 重機の免許所有者以外は運転しない。

- 2) 運転者は、周囲の安全に注意する。

- 3) 稼働中は、重機の旋回半径内に立ち入らない。

5. 健康管理

- 1) 作業中に体調が悪くなった場合は直ちに申し出る。

III. その他

- 1) 作業現場内の状況の変化に絶えず注意し、異常を発見したら、直ちに作業を中止して現場代理人に報告し、施設部の監督職員の指示を受ける。

- 2) 調査区の状況や遺構などの特殊性・重要性等により、上記の2)の1)～3)どおりに発掘作業を実施することが困難な場合は、現場代理人が監督職員と協議のうえ、安全に留意し作業を行う。

2. 2020年度以前の調査・研究一覧

付表1 1982年度以前の構内主要調査(1980～1982年度)

| 年度 | 地区名 | 種類 | 工事名称・調査名称 | 調査組織 | 調査面積 (㎡) | 文献 | 備考 | |
|------|-----|------------------------------------|---------------------|-------------------|--------------------------|------|---|-------------|
| 1980 | 鹿田 | 立会 | 理学部附属動物実験施設新営 | 岡山山教育委員会 | 8 | | | |
| | 津島 | BD05 | * | 農学部畜舎新営 | * | | | |
| | | * | * | 文法経 合併処理施設 | * | | | |
| | | * | * | 文法経 合併処理施設 | * | | | |
| | | * | * | 基幹整備(共同溝取付) | * | | | |
| 1981 | 鹿田 | BD09, BC09-11 | * | * | | | | |
| | | BD~BE04-07 | * | 陸上競技場改修(配水管施設) | * | | | |
| | | * | * | (医病) 高気圧治療室新営 | * | | | |
| | * | * | (医病) 動物実験棟新営 | 岡山山教育委員会 | | | 大学が市教委への確認調査依頼をせずに搬出。その後、岡山山・岡山山教委が残存原面の調査を実施 | |
| | * | * | (医病) 理解関係顕微鏡地理保管庫新営 | 岡山山教育委員会 | | | | |
| | * | * | 医学部運動場改修 | * | | | | |
| 1982 | 津島 | AW06-10, AW05-14, AX08, BD07, BE10 | 試験 | 排水基幹整備 | * | | 津島AW14区で発生時代包含確認。協議→津島岡大遺跡第1次調査へ | |
| | | * | 発掘 | 文法経 排水集中槽(NP-1)埋設 | 岡山大学 | 24.0 | 3 | 【小橋法直遺跡】と報告 |
| | | * | 試験 | 武道館新営 | 岡山山教育委員会 | 2.3 | | |
| | * | AY15-16 | * | 法経 校舎新営 | * | 7.0 | | |
| | 鹿田 | * | * | 医学部標本保存庫新営 | 岡山山教育委員会 | 8.0 | | |
| * | | * | (医病) 外来診療棟新営 | 岡山山教育委員会 | 4.0 | 2 | | |
| * | | 立会 | 医学部動物実験施設関連排水・ガス管理設 | 岡山山教育委員会 | | 1 | | |
| * | | AE-AN22, AE22-26 | * | 商学部電話ケーブル埋設 | 岡山山教育委員会 岡山大学理蔵文化財調査室 | | | |

文献

1. 光木真一 1983『岡山大学医学部附属動物実験施設新営工事に伴う排水管施設工事に伴う立会調査』『岡山山理蔵文化財報告』13 岡山山教育委員会
2. 河平 清 1983『岡山大学医学部附属動物実験施設新営に伴う立会調査』『岡山山理蔵文化財報告』13 岡山山教育委員会
3. 吉原秀敏 1985『岡山大学津島地区小橋法直遺跡(AW14区)の発掘調査』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第1集 岡山大学理蔵文化財調査室

付表2 2020年度以前の構内主要調査(1983～2020年度)

| 年度 | 地区名 | 種類 | 工事名称・調査名称 | 調査組織 | 調査面積 (㎡) | 調査期間 | 面積(㎡) | 概要(主要遺構ほか) | 文献 |
|------|-----|----|---------------|----------|----------------------------------|--------------------------|-----------------------|--|----|
| 1982 | 津島 | 試験 | 排水集中槽(NP-1)埋設 | 岡山大学 | 10.28~11.24 | 24 | 発生中期・古代:溝、【小橋法直遺跡】と報告 | 3 | |
| 1983 | 津島 | 試験 | 排水管理設 | 岡山山教育委員会 | BE14-18, BF17-18 EG14 EH14-15 | 84.19~35 | 265 | 発生早・前期:遺物 | 4 |
| 1983 | 津島 | 試験 | 合併処理埋設 | 岡山山教育委員会 | BH13 | 11.14~22 84.19~35 | 276 | 発生前期水田開墾遺構(溝様) | 4 |
| 1986 | 津島 | 試験 | 合併処理埋設 | 岡山山教育委員会 | AY06, AW00-01 | 12.1~87.6.18 8.24~9.5 | 1550 | 縄文後期河田、発生早期:貯蔵穴群・河田、発生前期一近代:水田溝、古代桑里間溝 | 19 |
| 1986 | 津島 | 試験 | 合併処理埋設 | 岡山山教育委員会 | BF-BG09 | 87.1.19~22 | 70 | 発生前期溝、中世河田 | 6 |
| 1988 | 津島 | 試験 | 合併処理埋設 | 岡山山教育委員会 | AY06-08 AZ06-07 | 6.27~89.3.19 | 1537 | 縄文後期-発生早期:貯蔵穴群・河田、発生時代末-近世:水田開墾遺構 | 27 |
| 1988 | 津島 | 試験 | 合併処理埋設 | 岡山山教育委員会 | AV-AW04-05 | 9.20~89.5.31 | 600 | 縄文後期:貯蔵穴群・河田、古代桑里間溝、発生前期一近世:水田溝 | 35 |
| 1988 | 津島 | 試験 | 合併処理埋設 | 岡山山教育委員会 | AV-AW05-06 | 10.12~89.3.31 | 800 | 縄文後期:貯蔵穴群・河田、発生前期一近世:水田溝 | 35 |

付表2-(1) 発掘調査

<津島地区:津島岡大遺跡>

| 年度 | 地区名 | 種類 | 工事名称・調査名称 | 調査組織 | 調査面積 (㎡) | 調査期間 | 面積(㎡) | 概要(主要遺構ほか) | 文献 |
|------|-----|----|---------------|----------|----------------------------------|--------------------------|-----------------------|--|----|
| 1982 | 津島 | 試験 | 排水集中槽(NP-1)埋設 | 岡山大学 | 10.28~11.24 | 24 | 発生中期・古代:溝、【小橋法直遺跡】と報告 | 3 | |
| 1983 | 津島 | 試験 | 排水管理設 | 岡山山教育委員会 | BE14-18, BF17-18 EG14 EH14-15 | 84.19~35 | 265 | 発生早・前期:遺物 | 4 |
| 1983 | 津島 | 試験 | 合併処理埋設 | 岡山山教育委員会 | BH13 | 11.14~22 84.19~35 | 276 | 発生前期水田開墾遺構(溝様) | 4 |
| 1986 | 津島 | 試験 | 合併処理埋設 | 岡山山教育委員会 | AY06, AW00-01 | 12.1~87.6.18 8.24~9.5 | 1550 | 縄文後期河田、発生早期:貯蔵穴群・河田、発生前期一近代:水田溝、古代桑里間溝 | 19 |
| 1986 | 津島 | 試験 | 合併処理埋設 | 岡山山教育委員会 | BF-BG09 | 87.1.19~22 | 70 | 発生前期溝、中世河田 | 6 |
| 1988 | 津島 | 試験 | 合併処理埋設 | 岡山山教育委員会 | AY06-08 AZ06-07 | 6.27~89.3.19 | 1537 | 縄文後期-発生早期:貯蔵穴群・河田、発生時代末-近世:水田開墾遺構 | 27 |
| 1988 | 津島 | 試験 | 合併処理埋設 | 岡山山教育委員会 | AV-AW04-05 | 9.20~89.5.31 | 600 | 縄文後期:貯蔵穴群・河田、古代桑里間溝、発生前期一近世:水田溝 | 35 |
| 1988 | 津島 | 試験 | 合併処理埋設 | 岡山山教育委員会 | AV-AW05-06 | 10.12~89.3.31 | 800 | 縄文後期:貯蔵穴群・河田、発生前期一近世:水田溝 | 35 |

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 調査名称・工事名称 | 構内座標 | 調査期間 | 面積(m ²) | 概要 (主要遺構は□) | 支那 |
|------|------|----|---|-----------------|---------------------------|---------------------|---|-----|
| 39 | 1990 | 1 | 津島岡大遺跡第5次調査 ：自然科学研究所棟共同溝・排水施設 ：自然科学研究所棟新設 (A地点) | AY-AZ08 | 4.3-21 | 90 | 古墳後期溝 | 27 |
| 44 | 1991 | 2 | 津島岡大遺跡第6次調査 (A地点) ：高才寺院跡新設 | BD18-19 | 7.23-12.25 | 600 | 縄文時代土坑、弥生時代・近世：溝 | 32 |
| 45 | 1991 | 3 | 津島岡大遺跡第7次調査 (B地点) ：小倉処理場新設 | BH13 | 7.23-12.2 | 140 | 弥生時代溝、古代・近世：水田 | 32 |
| 50 | 1992 | 1 | 津島岡大遺跡第9次調査 ：生体機能応用工学科新設 | AU~AW04 | 7.1-9.01.29 | 600 | 縄文後期：貯蔵穴・土坑・溝・火竈、弥生時代・近世：水田・古墳関連遺構 | 47 |
| 51 | 1992 | 2 | 津島岡大遺跡第10次調査 ：総合情報処理センター新設 | BB~BC10-11 | 9.02.1-3.31 4.17-7.31 | 400 | 弥生後期土坑群、古墳時代：井戸・住居・中、古代：穴、中世溝、近世溝付関連遺構 | 64 |
| 54 | 1993 | 2 | 津島岡大遺跡第11次調査 ：総合情報処理センター新設 | AV~AW11-12 | 9.14-9.41.11 | 640 | 縄文後期：ビツト、弥生前期水田跡 | 36 |
| 50 | 1993 | 3 | 津島岡大遺跡第12次調査 ：図書館新設 | AV~AW13-14 | 9.42.9-3.31 4.1-11.30 | 1472 | 弥生前期水田、弥生中期・古墳時代：溝群、古代・近世：奈良関連遺構 | 64 |
| 64 | 1994 | 2 | 津島岡大遺跡第13次調査 ：福利厚生施設 (北棟) 新設 | AW~AX11-12 | 10.6-11.30 | 816 | 縄文後期ビツト、弥生水田、弥生・古墳時代：溝群 | 41 |
| 69 | 1995 | 2 | 津島岡大遺跡第14次調査 ：福利厚生施設 (南棟) 新設 | BB~BC12-13 | 10.25-9.62.14 | 806 | 弥生前期水田、弥生・古墳時代：溝群 | 46 |
| 70 | 1995 | 3 | 津島岡大遺跡第15次調査 ：サウナ・ベンチ・パーゴラ・マジックボックス ：ラトリ新設 | AW00-01 | 9.6.16-4.25 | 1600 | 縄文後期・弥生早期：貯蔵穴群・河迹、縄文後期：ビツト群、石葺サウナ・火竈、弥生前期水田、古墳・中世・水田・溝 | 72 |
| 74 | 1996 | 2 | 津島岡大遺跡第16次調査 ：動物実験棟新設 | BD19-20 | 5.7-15 | 30.3 | A地点：縄文時代・古墳時代：土坑 B地点：中世溝、古代貯蔵穴、弥生時代水田 | 44 |
| 75 | 1996 | 3 | 津島岡大遺跡第17次調査 ：環境理工学部校舎 (1期) 新設 | AW02-04 | 5.21-9.7.9 | 1451 | 縄文後期：住居・土坑・溝、弥生前期水田、弥生時代溝群、古墳後期住居、古代水田、中世新井作 | 77 |
| 85 | 1998 | 2 | 津島岡大遺跡第18次調査 ：同時施設 (南) ボンゴ増設 | BH11 | 4.7-10 | 16 | 古代溝状遺構 | 53 |
| 86 | 1998 | 3 | 津島岡大遺跡第19次調査 ：フコゲーション・センター新設 | A209-10 | 7.27-9.9.21.8 | 1019 | 縄文後期：ビツト、弥生前期：水田・土坑・河迹、古墳時代・中世・溝、近世：道路状遺構・溝 | 65 |
| 87 | 1998 | 5 | 津島岡大遺跡第20次調査 ：環境理工学部校舎ボンゴ増設 | AY07 | 10.19-28 | 16 | 黒色土上面に溝、中世溝 | 53 |
| 88 | 1998 | 6 | 津島岡大遺跡第21次調査 ：1学部エレベーター設置 | AX09 | 11.6-24 | 30.2 | 縄文中期土坑、弥生早期・前期：溝、古代：土坑・溝 | 65 |
| 89 | 1998 | 8 | 津島岡大遺跡第22次調査 ：環境理工学部校舎 (2期) 新設 | AW02-03 | 9.9.3-7.12 | 77.5 | 縄文後期・弥生前期：河迹、弥生早期土坑、弥生前期水田、弥生中期溝、古代・近世：奈良関連遺構・水田 | 77 |
| 109 | 1999 | 5 | 津島岡大遺跡第23次調査 ：総合研究棟新設 | AZ15-BA14 | 0.02.3-7.28 | 1309 | 縄文後期・弥生前期前遺、縄文後期住居、弥生早期貯蔵穴・溝、弥生中期：溝・溝、弥生中期・近世：溝 | 80 |
| 111 | 2000 | 3 | 津島岡大遺跡第24次調査 ：総合研究棟西り面下建設 | AZ14 | 12.5-14 | 34.2 | 縄文後期：河迹・枕河 | 80 |
| 112 | 2000 | 4 | 津島岡大遺跡第25次調査 ：排水施設設置 | BA15 | 01.29-31 | 20 | 中世・近世：溝 | 61 |
| 2000 | 2000 | 5 | 津島岡大遺跡第26次調査 ：事務機械新設 | BC~BD14-15 | 01.3.26-9.30 | 1500 | 縄文・後期：土坑、中、弥生早期前遺、弥生前期土坑、弥生後期溝、古墳後期・中世：槽・道路状遺構、近世：溝 | 76 |
| 121 | 2001 | 2 | 津島岡大遺跡第27次調査 ：創立五十年記念会館新設 | BB~BC14-15 | 02.2.1-6.24 | 1648 | 縄文後期中、弥生・古墳時代：溝群、中世前 (奈良関連) | 68 |
| 127 | 2002 | 2 | 津島岡大遺跡第28次調査 ：自然科学系総合研究棟新設 | AW~AY06-08 | 4.30-9.20、 11.28-03.11 | 1298 | 弥生前期水田、弥生前期・中期：溝、古代：溝 (内に柱穴群)、中世高岡遺構 | 87 |
| 128 | 2002 | 4 | 津島岡大遺跡第29次調査 ：共同溝設置 | BF16 | 9.18-10.3 | 62.6 | 弥生・古墳時代：溝・ビツト | 71 |
| 163 | 2007 | 1 | 津島岡大遺跡第30次調査 ：旗川インクキューブ新設 | BC19-20 | 8.1-12.17 | 1035.4 | 縄文後期・弥生早期：土坑群、弥生・古墳時代：溝群、古代道路状遺構、中・近世：土坑群・埋溝・溝群 | 93 |
| 168 | 2008 | 1 | 津島岡大遺跡第31次調査 ：大学生協東廊施設増設 | AX04 | 6.17-8.22 | 212 | 弥生前期跡、古代道路状遺構 | 95 |
| 184 | 2009 | 1 | 津島岡大遺跡第32次調査 ：教学生活支援棟新設 | AX02 | 7.16-10.13 | 383 | 縄文後期貯蔵穴群、弥生前期前遺、弥生前・中期・中世：溝 | 100 |
| 196 | 2010 | 1 | 津島岡大遺跡第33次発掘調査 ：総合研究棟新設 | BH17-18、BC17-18 | 7.16-11.11 | 972.2 | 縄文・後期：ビツト、弥生時代：土坑・溝、古墳時代前期・古代：貯蔵建物、古代・中世：道路状遺構 | 117 |
| 197 | 2010 | 2 | 津島岡大遺跡第34次発掘調査 ：国際交流会館新設 | AU~AV13-14 | 7.30-9.28 | 1590 | 弥生前期：畦畔・溝、近世土坑群、平面調査は中世土面まで実施し下部は保存 | 105 |
| 216 | 2013 | 1 | 津島岡大遺跡第35次発掘調査 ：附属図書館増設 | AW13 | 7.8-8.29 | 80 | 縄文時代：ビツト、古墳時代後期：溝・ビツト、古代：ビツト列、近世：畦畔、土坑、溝 | 145 |
| 236 | 2015 | 1 | 津島岡大遺跡第36次発掘調査 ：職員宿舎新設 | BH・BH16 | 5.26-6.17 | 435 | 縄文後期：土坑、弥生前期・前期：水田跡群、弥生後期・古墳時代：溝、古代・中世：ビツト、旧跡軍水路・建物 | 124 |
| 263 | 2019 | 1 | 津島岡大遺跡第37次調査 ：新分野基礎科学研究棟新設 | AZ~BA08-09 | 8.28-3.19 | 1410.9 | 弥生時代早期・前期：土坑・溝・河迹、弥生時代後期・古墳時代後期：土坑・溝、古代：溝、中世：土坑・溝、近世：土坑・溝 | 141 |
| 266 | 2020 | 1 | 津島岡大遺跡第38次調査 ：共同溝設置 | BB13・AZ・BA13 | 5.11-27 | 174 | 近代溝 | 141 |
| 267 | 2020 | 2 | 津島岡大遺跡第39次調査 (A地点) ：ライフライン再生 | BD18 | 12.21-23 | 16 | 弥生：溝・ビツト、中世：ビツト | 145 |

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 調査名称：工事名称 | 構内座標 | 調査期間 | 面積(m ²) | 概要（主要遺構ほか） | 文献 |
|------|------|----|--------------------------------|---------------------|------------|---------------------|--|-----|
| 267 | 2020 | 3 | 津島岡大遺跡第30次調査（B地点） ：ライフライン再生 | AX07 | 21.2.4～310 | 20.64 | 縄文：土坑・ピット、弥生：榎野、古墳：溝・ピット、中世溝、踏作痕、近世：明時 | 145 |
| | | 4 | 津島岡大遺跡第30次調査（C地点） ：ライフライン再生 | AX06 | 21.2.12～34 | 9.61 | 縄文：土坑、弥生：榎野、明時 | 145 |
| | | 5 | 津島岡大遺跡第30次調査（D地点） ：ライフライン再生 | AX10-04、 AY05-04 | 21.3.8～29 | 9.61 | 縄文：土坑、弥生・古墳：溝 | 145 |

<鹿田地区：鹿田遺跡>

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 調査名称：工事名称 | 構内座標 | 調査期間 | 面積(m ²) | 概要（主要遺構ほか） | 文献 |
|------|------|-----|-----------------|---|---------------|---------------------|---|-----|
| 1 | 1983 | - | 鹿田遺跡第1次調査 | AU-B128-40 | 7.27～11.22 | 2188 | 弥生時代中期後半～中世の集落遺構群 | 7 |
| | 1984 | - | ：外庫跡・榎野新宮 | | 8.1.9～8.31 | | | |
| 2 | 1983 | - | 鹿田遺跡第2次調査 | BG-B118-21 | 8.1～12.30 | 176 | 弥生時代後期～中世の集落遺構群 | 7 |
| | | - | ：NMR-CT室新宮 | | | | | |
| 10 | 1986 | - | 鹿田遺跡第3次調査 | CN-CU27-28、 CT-CF19-27、 CX-CD16-25、 DD-ID22-25 | 6.2～11.29 | 2300 | 中世の集落遺構群、古代の橋脚・河道 | 10 |
| | | - | ：医療技術短期大学校舎 | | | | | |
| 12 | 1987 | 3 | 鹿田遺跡第4次調査 | DD-ID25 | 11.2～21 | 30 | 古代の河道 | 10 |
| | | - | ：医科総合館周辺の配管施設 | DG-DE27-28 | | | | |
| 13 | 1987 | 2 | 鹿田遺跡第5次調査 | BB-BH35-42 | 10.6～88.3.2 | 1192 | 弥生時代中期後半～中世の集落遺構群 | 24 |
| | | - | ：管理棟新宮 | | 88.3.23～31 | | | |
| 16 | 1990 | 2 | 鹿田遺跡第6次調査 | BW-CC67-71 | 11.30～91.6.30 | 690 | 古墳時代初期土坑、中世集落遺構群 | 40 |
| | | - | ：アクトピア総合センター新宮 | | | | | |
| 25 | 1997 | 4 | 鹿田遺跡第7次調査 | BH55-BX61 | 98.2.27～8.6 | 829 | 古墳時代初期～中世の集落遺構群、近世の水田・溝 | 85 |
| | | - | ：基礎医学棟新宮 | BY56-57 | | | | |
| 27 | 1998 | 4 | 鹿田遺跡第8次調査 | BP-BH30-32 | 7.28～9.1 | 165 | 古墳時代と中世の溝群 | 85 |
| | | - | ：処方室新宮 | | | | | |
| 28 | 1999 | 1 | 鹿田遺跡第9次調査 | CD33-37、 CE-CF28-37、 CG-CJ20-37、 CK-CL15-37 | 11.27～99.5.11 | 2088 | 弥生時代水田・溝、中・近世集落遺構群 | 126 |
| | | - | ：病棟新宮 | | | | | |
| 31 | 1999 | 3 | 鹿田遺跡第10次調査 | CD-CE10-12 | 5.7～10.14 | 2441 | 古代の枕列、弥生時代ピット、近世溝 | 108 |
| | | - | ：共同浴設置関連 | DD-DF16-22 | | | | |
| 32 | 1999 | 4 | 鹿田遺跡第11次調査 | CD-CM19-42 | 8.19～12.22 | 2020 | 弥生時代水田・榎野、古代の階段遺構、中・近世集落遺構群 | 126 |
| | | - | ：病棟新宮 | | | | | |
| 40 | 2000 | 2 | 鹿田遺跡第12次調査 | CO-CV25-44 | 10.2～01.5.10 | 1897 | 弥生時代溝・河道、古墳時代溝・土器跡まり、中世集落遺構群、近世土坑・溝 | 143 |
| | | - | ：エネルギーセンター新宮 | CN-CM38-41 CN28-38 | | | | |
| 46 | 2002 | 3 | 鹿田遺跡第13次調査 | BL-BR46-51 | 4.30～10.25 | 924 | 弥生時代の溝、古墳時代の土器跡まり・溝、中世集落遺構群、近世土坑群 | 98 |
| | | - | ：総合教育研究棟新宮 | | | | | |
| 50 | 2003 | 1 | 鹿田遺跡第14次調査 | CD-CM12-20 | 7.31～12.17 | 1331 | 弥生～古墳時代の榎野・溝、中世の集落遺構群、近世のため池・土坑 | 113 |
| | | - | ：病棟（旧期）新宮 | | | | | |
| 56 | 2003 | 2 | 鹿田遺跡第15次調査 | BQ-BS45-46 | 10.16～29 | 30.4 | 古墳時代初期の舟戸・溝 | 98 |
| | | - | ：総合教育研究棟外構 | | | | | |
| 59 | 2004 | 1 | 鹿田遺跡第16次調査 | AH-A16-7 | 10.21～11.8 | 49.15 | 近世～近代の榎野・溝・坑・土坑、中世の土坑、弥生～古墳時代の河道 | 81 |
| | | - | ：立派駐車場新宮 | AF12-13、 AN-A04 | | | | |
| 60 | 2006 | 1 | 鹿田遺跡第17次調査 | BR-BY60-64 | 7.10～11.14 | 642 | 古墳時代～中世の集落遺構群、近世土坑・溝 | 137 |
| | | - | ：総合研究棟（医学系）新宮 | | | | | |
| 64 | 2007 | 1a | 鹿田遺跡第18次調査（A地点） | BT13-BY20 | 10.10～08.3.14 | 8722 | 弥生時代後期～近世の集落遺構群 | 92 |
| | | - | ：中央診療棟新宮 | | | | | |
| 65 | 2007 | 1b | 鹿田遺跡第18次調査（B地点） | CG-CF9-10 | 10.16～11.1 | 432 | 古代後半の舟戸、近世入江状遺構・溝群施設 | 108 |
| | | - | ：防火水栓設置 | | | | | |
| 66 | 2007 | 1c | 鹿田遺跡第18次調査（C地点） | CM-CM9-10 | 12.27～08.1.16 | 56 | 弥生時代土坑・溝 | 108 |
| | | - | ：雨水路立替 | CO10-11 | | | | |
| 76 | 2008 | 1 | 鹿田遺跡第19次調査 | AW-AY22～23 | 6.26～9.12 | 80 | 弥生時代後期の「方形高まり」、耳塚・竪坑・土坑・溝、古墳時代土坑・溝、古代ピット、近世土坑 | 95 |
| | | - | ：奥手廊下り廊下設置 | | | | | |
| 80 | 2009 | 1a | 鹿田遺跡第20次調査（A地点） | BZ-CC31-40 | 6.18～7.31 | 632 | 弥生時代～近世の遺構・遺物 | 131 |
| | | - | ：中央診療棟共同浴設置 | BS20-23 | 8.5～24 | | | |
| 81 | 2009 | 1b | 鹿田遺跡第20次調査（B地点） | BT-BW20-24 | 10.15～11.2.22 | 2482 | 弥生時代～近世の遺構・遺物 | 147 |
| | | - | ：中央診療棟新宮（本体工事） | BX-CD13-25 | 3.1～8 | | | |
| 84 | 2010 | 1 | 鹿田遺跡第20次調査（C地点） | BR-BH12-21 | 7.30～10.8 | 276 | 弥生時代～近世の遺構・遺物 | 105 |
| | | - | ：中央診療棟新宮 | BT-BX12-13 | | | | |
| 85 | 2010 | 2 | 鹿田遺跡第20次調査（D地点） | BT-BU24 | 11.2.18～3.2 | 15 | 中世～近世の遺構・遺物 | 147 |
| | | - | ：中央診療棟新宮 | | | | | |
| 86 | 2010 | 3-1 | 鹿田遺跡第21次調査（A地点） | AD-AF30-31 | 11.18～12.9 | 212 | 平安時代河道、鎌倉時代溝・遺構 | 105 |
| | | - | ：外来検疫施設環境整備 | | | | | |
| 87 | 2010 | 3-2 | 鹿田遺跡第21次調査（B地点） | AG-AH30-31 | | 22 | 平安時代河道、鎌倉時代溝・遺構 | 105 |
| | | - | ：外来検疫施設環境整備 | | | | | |

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 調査名称：工事名称 | 構内座標 | 調査期間 | 面積(m ²) | 概要 (主要遺構は小) | 文献 |
|------|--------------|-----|--------------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------|---|------------|
| 88 | 2010 | 3-4 | 鹿田遺跡第21次調査 (D地点) ：外柵周辺地帯再調査 | AS-AT25~28 | 11.18~12.9 | 50.4 | 弥生時代包合層 | 105 |
| 94 | 2011 | 1 | 鹿田遺跡第22次調査 ：施設改修大宮成センター新設 | AV-IB 04~07 | 7.14~9.22 10.14~11.18 | 533 | 弥生時代灰土・溝、中世灰土・溝、近世灰土・溝、近代溝・溝 | 107 |
| 96 | 2012 | 1 | 鹿田遺跡第23次調査 ：Jカメ新設 | AN-AR 37~62 | 6.25~8.30 | 612 | 弥生時代・古墳時代前期・中期、古式溝、中世溝・中世遺構・土坑・倉、近代溝、土ロケット軌道 | 120 |
| 97 | 2012 | 2 | 鹿田遺跡第24次調査 ：風車基礎新設 | BD-BL 57~69 | 11.27~ 13.4.25 | 1807 | 弥生時代・古墳時代・中期、古式灰土・土坑、中世遺構・灰土・土坑、近世遺構・土坑、近代散状遺構 | 130 |
| 101 | 2013 | 2 | 鹿田遺跡第25次調査 I 工区 ：中央送電柱目録 | BY-CT24~38 | 14.16~4.17 | 600 | 弥生時代中期、中世灰土・土坑・溝、柱穴、近世土坑・溝 | 131 |
| 124 | 2014 | 1 | 鹿田遺跡第25次調査 II 工区 ：中央送電柱目録 | BS-BY24~41 | 14.3.15~8.25 | 1805 | 弥生時代中期、中世灰土・土坑・墓・溝・柱穴、近世土坑・溝 | 131 |
| 125 | 2014 | 2 | 鹿田遺跡第26次調査 ：動物実験施設改修 | CD-CJ46~48- CJ-CR61-62 | 14.8.18~11.17 | 295.5 | 弥生時代溝・堀、古墳時代灰土・土坑・溝、倉状遺構、古代土坑・ピット、近世土坑 | 135 |
| 142 | 2017 | 1 | 鹿田遺跡第27次調査 ：自家発電設備 | CN-CO43-44 | 17.10.16~ 11.10 | 34.5 | 弥生時代・古墳時代溝、古墳時代後期~飛鳥時代溝、中世ピット | 143 |
| 144 | 2018 2019 | 1 | 鹿田遺跡第28次調査 ：アメニティホール新設 | AG-AS31~41 | 18.11.19~ 19.9.18 | 2940 | 弥生時代・古墳時代・土坑・溝・河道、古代・土坑・河道、中世・灰土・土坑・溝・河道・ピット、近世土坑・溝、近代・散状遺構・堀 | 138 141 |

<三朝地区：福島遺跡>

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 調査名称：工事名称 | 構内座標 | 調査期間 | 面積(m ²) | 概要 (主要遺構は小) | 文献 |
|------|------|-----|-------------------------------|------|--------------------|---------------------|------------------------|----|
| 1 | 1997 | 1-2 | 福島遺跡第1次調査 ：実証研究新設 | - | 5.10~20 7.28~31 | 209 | 縄文時代早期・弥生時代中期・中世・近世の集落 | 55 |
| 2 | 1997 | 3 | 福島遺跡第2次調査 ：実証研究新設に伴うスロープ設置 | - | 11.25~12.5 | 130 | 古代・中世・近世の集落 | 55 |

付表2-(2) 試掘・確認調査

<津島地区：津島岡大遺跡>

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 調査対象地名称 | 他 | 構内座標 | 掘削深度 | 造成上層 | 概 要 | | 文献 | |
|------|------|----|---------------------|---|---|--------------|---------|-----|--|----|----|
| | | | | | | | | 内容 | 年代の対応 | | |
| (3) | 1983 | - | 農学部総合管理棟予定地 | | BH3 | 2.5 | - | 1 | →津島岡大第2次調査：1983年度 | 1 | |
| 4 | 1983 | - | 農学部排水管中間ポンプ機予定地 | | BF17 | 3.5 | - | 1 | →工事実施 | | |
| 5 | 1983 | - | 農学部排水管理棟予定地 | | BF~DG14, BE~BH15, BE18, BF16~18, BC18 | 2.0 | - | 29 | →津島岡大第2次調査：1983年度 | | |
| 6 | 1983 | - | 農学部農産倉庫予定地 | | BF22-23 | 2.0~3.0 | 0.6 | 2 | 土層片→1987年度工事実施 | | |
| (7) | 1983 | - | 大学事務局棟予定地 | | BC-BD15 | 2.0~3.0 | 0.9 | 3 | →津島岡大第26次調査：2000年度 | | |
| (8) | 1983 | - | 保健管理センター予定地 | | BE10 | 2.0~3.0 | 0.8 | 1 | →津島岡大第10次調査：1990年度 | | |
| 9 | 1983 | - | 津島倉庫予定地 | | BE16 | 0.9 | 0.9 | 2 | 土層片→1987年度工事実施 | | |
| 10 | 1983 | - | 工学部校舎新設予定地 | | AW05 | 3.0 | 1 | 1 | 土層片 | | |
| 12 | 1983 | - | 教養講義棟予定地 | | BE08 | 3.5 | 1.2 | 2 | 遺構など本確認→1986年度工事実施 | | |
| 13 | 1983 | - | 教育研究棟予定地 | | AX02 | 2.6~3.4 | 1.2 | 3 | 構文-弥生・中世土層出土 | | 5 |
| 14 | 1983 | - | 男子学生寮予定地 | | AV-AW99~01 | 2.0~3.0 | 1 | 12 | →津島岡大第3次調査：1988年度 | | |
| (17) | 1986 | - | 屋内運動場予定地 | | BF-DG09 | 2.4, 1.2~1.7 | 1.1 | 3 | →津島岡大第4次調査：1986年度 | 6 | |
| (18) | 1986 | - | 大学院自然科学研究科棟予定地 | | AV-AZ07 | 1.6~3.2 | 0.6~0.8 | 3 | →津島岡大第5次調査：1988年度 | | |
| 22 | 1987 | - | 外国人宿舍予定地 | | AP02 | 2.2~2.8 | - | 2 | 縄文時代・弥生時代・近世の遺構面 | 8 | |
| (23) | 1987 | - | 総合管理棟センター予定地 | | AV11 | 2.0~3.0 | 2 | 2 | →津島岡大第11次調査：1993年度 | | |
| 24 | 1987 | - | 理学部身体障害者用エレベーター予定地 | | AY09 | 3.0~3.5 | 約1.0 | 1 | 中世・近世の遺物、古代・中世の土層 →継続して調査 | | |
| 25 | 1987 | - | 教養部身体障害者用エレベーター予定地 | | B009 | 2.5 | 0.7 | 1 | 縄文時代遺構、縄文・中世・近世土層 →継続して調査 | | |
| 29 | 1988 | - | 工学部校舎予定地 | | AX04-06, AW04 | 2.0~3.5 | 1~1.5 | 6 | →津島岡大第6・7次調査：1988年度 | | |
| 30 | 1988 | - | 動物実験飼育棟-遺伝子実験棟予定地 | | BD18-19 | 2.3 | 1.1~1.2 | 3 | →津島岡大第8次調査：1991年度 | | |
| 31 | 1988 | - | 国際交流会館予定地 | | BC26 | 2.5 | 1.2 | 3 | 中・近世土層→1988年度工事実施 | | |
| 33 | 1989 | - | 教育学部身体障害者用エレベーター予定地 | | AZ-BA05 | 2.5 | 0.8 | 1 | 縄文後期-弥生早期の遺構、縄文後期-中世土層→継続して調査、面積38.5m ² | | |
| 34 | 1989 | - | 大学院自然科学研究科総合管理棟予定地 | | AZ17 | 4.0 | 1.6~2.0 | 1 | 中世→明治期の水田耕作跡→1989年度工事実施 | | 14 |
| 35 | 1989 | - | 学生合宿所予定地 | | BD02 | 2.0~3.2 | 1 | 1 | 弥生早期-前期の堀跡→1989年度工事実施 | | |
| (36) | 1989 | - | 図書館予定地 | | AV-AW13 | 3.0 | 1.4~1.6 | 2 | →津島岡大第7次調査：1993年度 | 18 | |
| 40 | 1990 | - | 学生合宿所ポンプ機予定地 | | BC02 | 2.5 | 1.1 | 1 | 弥生前期中期、中世土層 | | |
| 41 | 1990 | - | 福利厚生施設予定地 | | AW-AX11 | 3.9 | 1.4~1.6 | 2 | →津島岡大第13次調査：1994年度 | | |
| 56 | 1993 | - | 農学部汎用種地実験実習施設予定地 | | BE-BF22~23 | 1.5 | - | 2 | 中→近世の耕作土 | 30 | |
| 65 | 1994 | - | 農学部動物実験施設予定地 | | BD20 | 2.0 | 0.9 | 1 | GL-1.4mで黒色土、縄文土層1点→盛り土保存 | 33 | |
| 71 | 1995 | - | 国際交流会館予定地 | | BE26 | 4.1~2.4 | 1.6 | 2 | 中世→明治期以降、以下は沼地、遺構・遺物無し(明治期の池)→工事実施 | 38 | |
| 72 | 1995 | - | 環境理工学部校舎予定地 | | AW02-03 | 2.4 | 1.2 | 2 | →津島岡大第17次調査：1996年度 | | |
| 73 | 1995 | - | ボクシング部ボクシング練習場予定地 | | BF07 | 3.0 | 1.2 | 1 | 標高25mで黒色土、弥生・古墳時代の溝・土坑、古代溝1条 | | |

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 調査対象地名 | 値 | 構内座標 | 掘削深度 (m) | 造成土層 (m) | 概 要 | | 文献 |
|------|------|----|----------------------|---|-----------------------------------|-------------|-------------|-----|---|-----|
| | | | | | | | | TP数 | 内容・その後の対応 | |
| 1903 | 1998 | 9 | コソレーション・センター予定地 | | A209 | 27-34 | 1.3 | 2 | →津島岡大第19次調査：1998年度 | |
| 1911 | 1998 | 10 | 環境理工学部校舎予定地 | | AW02-03 | 4.5 | 12 | 2 | →津島岡大第22次調査：1998年度 | 53 |
| 92 | 1998 | 13 | 工学部システム工学科棟予定地 | | AW04 | 2.8 | 1 | 1 | GL:1.8m黒色土、縄文後期の遺構 | |
| 93 | 1998 | 14 | 遺跡保護区整備関連掘削 | | A102-03-06、 AV03 | 24-38 | 0.8-1.6 | 5 | TP1-3-5：微高地、TP2-4：既遺地、TP1：弥生溝、TP3：弥生溝・ビツト、TP4：中世溝 | |
| 105 | 1999 | 6 | 文芸経 総合研究棟予定地 | | AZ15、BA14 | 27.35 | 0.8 1.1 | 2 | →津島岡大第23次調査：1999年度 | 56 |
| 106 | 1999 | 7 | 成政町宮設置予定地 | | AV08 | 1.2 | 0.2 | 1 | 埋土以下に：基壇となる岩層 | |
| 114 | 2000 | 6 | 縄文・弥生時代における環境復元に伴う調査 | | AV00、 AX00-02-03、 AZ06、AW08 | 2.6-3.2 | 17-0.9 | 6 | 縄文・弥生時代の微高地、古代溝 | 61 |
| 115 | 2000 | 7 | 創立五十周年記念館予定地 | | BD14 | 2 | 0.8 | 1 | →津島岡大第27次調査：2001年度 | 61 |
| 129 | 2002 | 5 | 事務局旧本館棟移転予定地 | | BD15 | 2.1 | 1 | 1 | 黒色土の湧ち | 71 |
| 183 | 2009 | 2 | 学業保育室予定地 | | AV14 | 3.24 | 1.95 | 1 | 黒色土層 | 302 |
| 186 | 2009 | 3 | 長学館構内植物工庫予定地 | | BF30 | 3.4 | 2.3 | 2 | 古代溝・明部 弥生中期-古代におよぶ遺構 | |
| 198 | 2010 | 3 | 国際交流会館予定地 | | AU13-14 | 3.4 | 1.6-1.9 | 3 | →津島岡大第34次調査：2010年度 | 305 |
| 199 | 2010 | 4 | 生活プレハブ予定地 | | BC12 | 2.2 | 0.9 | 1 | 黒色土は未発掘を確認 | |
| 208 | 2011 | 1 | 文芸経 フェンス工事 | | AW17、AX17、 AY17、AZ16 | 1.1-2.0 | 1.0-1.6 | 6 | 近代の土塁、水溝 | 307 |
| | | | | | AZ17 | 0.8 | - | 5 | 内堀・弥生建物基礎 | |
| 213 | 2012 | 1 | 生涯外活動施設予定地 | | BD02 | 2.9 | 1.1 | 1 | 縄文時代-近代層確認 | 311 |
| 217 | 2013 | 2 | Jナラズ新営 | | BGL13 | 1.8-2.3 | 1 | 2 | 縄文時代ビツト、弥生時代前期土坑・遺構 | 316 |
| 247 | 2015 | 2 | 職員舎新営 | | BM16-BH17 | 2.35 | 1.0 | 2 | 弥生早期-前期水田 | 324 |
| 253 | 2016 | 1 | 津島岡大遺跡由東版における確認調査 | | BD07 | 3.0 | 1.23 | 1 | 弥生時代土坑、近代水田 | 329 |
| 259 | 2016 | 1 | グッドジョブセンター増築 | | BD15 | 2.4 | 1.46 | 1 | 黒色土層 | 338 |

<鹿田地区：鹿田遺跡>

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 調査対象地名 | 値 | 構内座標 | 掘削深度 (m) | 造成土層 (m) | 概 要 | | 文献 |
|------|------|----|------------------|---|---|-------------|-------------|-----|--------------------------------|-----|
| | | | | | | | | TP数 | 内容・その後の対応 | |
| (4) | 1984 | - | 西浜神社御受水構予定地 | | BU30-31 | 1.4 | 0.5-0.7 | 2 | 中世土層・包含層確認→盛り土保存 | 2 |
| (5) | 1984 | - | 医療福祉大学部校舎予定地 | | CT-CU25、 CZ19-30-23-24 | 2.7 | 0.8-1.0 | 3 | →鹿田第3次調査：1986年度 | |
| 6 | 1985 | 4 | 外來診療棟環境整備工事範囲 | | A133、A140 AJ-AK26 | 22-30 | 0.9-1.4 | 3 | 弥生時代-中世の遺物 | 5 |
| 171 | 1990 | 5 | アイソトープ総合センター予定地 | | BY-BZ66 | 2.3 | 1.2-1.3 | 1 | →鹿田第6次調査：1990年度 | 18 |
| 130 | 1997 | 8 | 基礎調査棟予定地 | | BT57 | 2.2 | 0.9 | 1 | →鹿田第7次調査：1997年度 | 50 |
| 29 | 1998 | 11 | 病棟予定地 | | CF-CG43-44、 CH25-36、 CK35-36、CK15 | 20-24 | 1 | 4 | →鹿田第9次調査：1998年度 | 53 |
| 83 | 2009 | 2 | 学生サークル棟予定地 | | CR70-71、CW75 | 2.1-2.3 | 0.9-0.7 | 2 | 弥生時代既遺地、中世以降耕作地、集落外縁 | 302 |
| 89 | 2010 | 4 | 岡山県地域医療総合センター予定地 | | AZ04-BA08 | 2.3-2.4 | 1.2-0.6 | 2 | 近世溝・弥生包含層確認→鹿田第22次調査 2011年度 | 305 |

<倉敷地区>

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 調査対象地名 | 値 | 構内座標 | 掘削深度 (m) | 造成土層 (m) | 概 要 | | 文献 |
|------|------|----|---------------------|---|------|-------------|-------------|-----|-------------|-----|
| | | | | | | | | TP数 | 内容・その後の対応 | |
| 1 | 1990 | 4 | 資源生物科学研究所遺跡確認 | | - | 2.5 | 0.7 | 1 | 中世後半以降の土層 | 18 |
| 2 | 1998 | 12 | バイオ実験棟予定地 | | - | 1.5 | 0.2 | 1 | 近世土坑内、遺構未確認 | 53 |
| 3 | 2013 | 1 | 植物ストレス科学研究等拠点施設建設工事 | | - | 2.0 | 0.7 | 1 | 近世耕作土層確認 | 316 |

<東山地区>

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 調査対象地名 | 値 | 構内座標 | 掘削深度 (m) | 造成土層 (m) | 概 要 | | 文献 |
|------|------|----|------------------|---|------|-------------|-------------|-----|-----------------|-----|
| | | | | | | | | TP数 | 内容・その後の対応 | |
| 3 | 2006 | 1 | 附属小学校校舎予定地 | | - | 3.0 | 0.3-0.5 | 4 | 近世-近代：溝3本、中世？期層 | 88 |
| 4 | 2008 | 1 | 附属中学校校舎予定地 | | - | 2.3-2.4 | 1 | 2 | 近代明部 | 95 |
| 5 | 2013 | 1 | 附属小学校屋内運動場建て替え工事 | | - | 2.1 | 0.9 | 1 | 中世-近世耕作土層確認 | 116 |

<三朝地区：福呂遺跡>

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 調査対象地名 | 値 | 構内座標 | 掘削深度 (m) | 造成土層 (m) | 概 要 | | 文献 |
|------|------|-----|-------------|---|------|-------------|-------------|-----|-----------------|----|
| | | | | | | | | TP数 | 内容・その後の対応 | |
| 3 | 1997 | 3-6 | 実験研究棟予定地 | | - | 1.60-2.1 | 0.8 | 2 | →福呂第2次調査：1997年度 | 50 |
| 5 | 2004 | 1 | 三朝沼田高埋築予定地 | | - | 1.3 | 0.5-0.9 | 2 | 遺構・遺物・包含層未確認 | 81 |
| 6 | 2004 | 2 | 高圧線・電線設置予定地 | | - | 1 | 0.85 | 1 | 内堀確認、没理層確認 | |

付表2-3) 立会調査

<津島地区：津島岡大溝路>

| 年度 | 年度 | 番号 | 工事名称/細目 | 構内座標 | 掘削深さ (m) | 造成土厚 (m) | 概要 | 支脚 |
|-----|-------|----|-----------------------------|--|-------------|-------------|---|----|
| 11 | 1984 | - | 南信合会処理種別保配水管理施設 | BD15-17 | 1~2.2 | 1 | 土壌・粘土・中世層 | 2 |
| 19 | 12 | 1 | 教養部校舎新設 | BD08-09 | 2.3 | 1.3 | 中・近世：土・砂 | |
| 20 | 1986 | 21 | ハンドボールコート新設 | BG08 | 0.2~2.0 | 0.8 | 黒色土 | 6 |
| 21 | 26 | 2 | 教養部校舎新設に伴う電気配管 | BF07-08 | 1.8 | 0.9 | 中世厚層 | |
| 32 | 1988 | 17 | テニスコート夜間照明施設 | BG10-11 | 2.2 | 1.5 | GL-約2mで黒色土。西に向かり掘削 | 11 |
| 37 | 1989 | 8 | 自然科学研究科棟新設・工事用道路 | A208 | 1.4 | - | 赤土後期水田。近世層、75m | 14 |
| 38 | 30 | 10 | 生物応用工学科棟新設に伴う電気配管 | AV04-05 | 1.5~1.9 | 0.7~1.2 | 黒色土 | |
| 42 | 16-19 | 19 | 関山古道津島東横断線 | AV04-10 | 0.4~3.0 | 0.6~1.4 | 5ヶ所。黒色土。寺里南北溝 | |
| 43 | 1990 | 20 | 学生合宿所給排水管設置 | BC02-04 BD03-04 | 2.3 | 1.2 | GL-2.3mで黒色土 | 18 |
| 46 | 9 | 9 | 防火用水継上 | BC18 | 2 | 0.8 | 鳥居層まで掘削、石積 | |
| 47 | 17 | 17 | 津島地区基幹整備（電気） | BD16 | 1.7~1.8 | 0.5 | 2ヶ所。明治層～淡灰色粘土層 | 21 |
| 48 | 1991 | 19 | ハンドホール・アース板 | BD15 | 1.7 | 1 | GL-1.5mで黒色土 | |
| 49 | 40 | 40 | 南北道路外灯設置 | BC-BE-BF12 | 1.5 | - | 3ヶ所。GL-1.4mで古代層 | |
| 52 | 1992 | 34 | 運動子実験施設ハンドホール設置 | BD18 | 1.5 | 0.75~1.1 | 縄文後前期まで。溝2本 | 25 |
| 53 | 34 | 34 | 図書館北側駐車場整備 | AV12 | 3 | 1.7 | 造成土以上粘土層 | |
| 57 | 17 | 17 | 保健管理センター新設 | BD-BE-10-12 | 1.8 | 0.6~0.7 | 赤土層。14GL-1.15~1.7m | |
| 58 | 19 | 19 | 旧機修電気配管 | BB11 | 1.1 | 0.8 | 赤土層。土志変更 | |
| 59 | 23 | 23 | 津島地区基幹整備共同利用施設排水処理施設 | BA07 | 3.2 | - | 明治～中世層・暗褐色土層。古代溝？縄文 晩期土層 | |
| 60 | 1993 | 28 | 津島地区環境整備 | BD-BE13 | 1.5 | 1 | 近世～中世層 | 30 |
| 61 | 33 | 33 | 津島地区環境整備 | BD-BE12-13 | 1.8 | 0.5~1.2 | 10ヶ所。中世層まで。一部で暗褐色土層 | |
| 62 | 34 | 34 | 信号機設置 | BD-BE12-13 | 1.6 | 1 | 中世層まで。一部で暗褐色土層 | |
| 63 | 30-41 | 41 | 野球場バックネット・防球ネット改修 | BD05-07 BC05-01 | 2.0~3.2 | 1 | GL-1.2~2.0m付近で黒色土。以下黄色砂・ 青灰色粘土 | |
| 66 | 9 | 9 | 津上線柱脚照明設置 | BD-BE-BF04-07 | 2 | 0.96 | GL-1.92~2.0mで黒色土 | |
| 67 | 1994 | 13 | 総合情報処理センター新設電気工事 | AV10, AW10, AU11 | 2.2 | 1.5 | GL-1.7mで黒色土。近世溝 | 33 |
| 68 | 20 | 20 | 校舎増設 | BD20 | 2.2 | 1.5 | GL-1.8mで黒色土 | |
| 70 | 4 | 4 | 農・畜学部動物実験棟新設 | BC18 | 2.2 | 1.9 | 黒色土層付近まで | |
| 71 | 5 | 5 | 農・畜学部動物実験棟新設 | BD16-19 | 1.3 | - | 4ヶ所。明治層以下に25層 | |
| 78 | 1996 | 12 | サウナトイレベンチャービル メソスタウトリー新設 | AV02, AV03, AV04, AV99, AW02, AW04 | 10~1.5 | 0.76~1.1 | 6ヶ所。明治層～後世層？ | 44 |
| 79 | 13 | 13 | 配管設置 | AV03-AW03 | 2 | 0.95 | 赤土時代層まで。古墳前期：遺構・遺物 | |
| 80 | 18 | 18 | 環境理工学部校舎新設予定地電気移設 | AW03 | 2 | - | 黒色土まで | |
| 81 | 25 | 25 | 環境工学部新設南水側外構工事 | AV13 | 1.3 | 1 | 造成土以上：青灰色・黄褐色・灰褐色粘質土 | |
| 82 | 16 | 16 | 南北道路ガス管理施設 | BB13-BH13 | 1.5 | - | 中世層まで | |
| 83 | 1997 | 19 | 南北道路ガス管理施設 | AW11-BA13 | 1.5 | - | 中世層まで | 50 |
| 84 | 24 | 24 | 福利厚生施設新設に伴う共同溝新設 | BC12 | 2 | 0.8 | GL-1.65mで黒色土。古代～近世の溝 | |
| 94 | 15 | 15 | 外灯設置 | BA09 | 1.47 | 1 | GL-1.42mで黒色土 | |
| 95 | 22 | 22 | コラボレーション・センター支障配管布設等 | AZ09, BA09 | 1.4 | 1 | GL-1.4mで黒色土 | |
| 96 | 24 | 24 | 南福科外灯設置 | BH12, BC12 | 1.4 | 0.95 | 中世層まで | |
| 97 | 31 | 31 | 環境理工学部校舎新設に伴うガス管理施設 | AW03-AX-AY03 -06 | 1.2~1.4 | 0.65~0.95 | 中世層まで（12ヶ所） | |
| 98 | 34 | 34 | 学生会館改修に伴うトップ階撤去 | BC10 | 2.2 | 1.45 | GL-1.7mまで灰褐色粘土。GL-2.2mまで灰 粘土 | |
| 99 | 1998 | 25 | NTT電柱移設 | BA00 | 1.5 | 0.9 | 造成土以上：褐色系粘質土 | 53 |
| 100 | 41 | 41 | 環境理工学部実験排水管新設 | AX03-AY07 | 1~2.4 | 0.6~1.4 | 10ヶ所。5地点で中世層。2地点で古代層。 1地点で古墳時代層まで | |
| 101 | 42 | 42 | 馬場修設に伴う樹木移植 | AV02 | 2.2 | 1.1~1.3 | GL-2mで赤土後期層。GL-2.2mで縄文 前期 | |
| 102 | 44 | 44 | 環境理工学部校舎新設 | AV03, AV03 | 1.97 | 1.4 | 古墳時代層まで。黒色砂・土層 | |
| 103 | 48 | 48 | ガス管理施設 | AW03 | 1.45 | 1 | 中世層まで | |
| 107 | 8 | 8 | 外灯設置 | AY00, AZ01-03 | 1.15~1.25 | 0.5~1.2 | 3ヶ所。黒色土（GL-0.85~1m） | |
| 108 | 12 | 12 | コラボレーション・センター新設ハンドホール設置 | AZ08-09 | 1.48~2.1 | 1.03~1.16 | 2ヶ所。そのうち1ヶ所は古墳時代層まで | |
| 109 | 1999 | 13 | 環境理工学部校舎新設に伴うスロープ設置 | AW02 | 3.5 | 1.2 | 調査面積250㎡。黒色土下層まで。近代土塊。 古代溝。縄文後期ピット | 56 |
| 110 | 42 | 42 | コラボレーション・センター新設に伴う排水管設置 | AZ09 | 1~1.2 | 0.8~1 | 6ヶ所。1ヶ所で黒色土対面層まで | |
| 116 | 17 | 17 | 津島地区電気設置 | BA12 | 1.6 | 1 | 造成土上に灰色粘質土・暗茶褐色粘質土層 | |
| 117 | 23 | 23 | 理学部校舎改修 | AY09 | 1.3 | 0.9 | 造成土下に暗着灰色粘質土・褐色粘質土・灰 色粘質土 | |
| 118 | 2000 | 28 | 理学部校舎改修 | AX10, AY10 | 0.85~1.60 | 0.8~1.6 | 南福ハンドホール：GL-1.6mまで。GL- 1.52mで中世溝（方向は南東～北西） | 61 |
| 119 | 42 | 42 | 精密応用化学科棟都市ガス改修 | AW08, AX08 | 1.6~2.05 | 1.45 | GL-1.82mで明灰褐色粘土（中世層） | |
| 120 | 44 | 44 | 文法館 総合研究棟仮設電柱設置 | BA16 | 1.5~1.7 | 1 | GL-1.4mで中世層？車庫跡の築山・土高 一部掘削 | |
| 122 | 4 | 4 | 理学部校舎改修：電気設備 | AZ10 | 1.6 | 1~1.2 | 中世溝 | |
| 123 | 2001 | 11 | 本館棟新設 | BB-BE16 | 1.5~2.1 | 1.2~1.4 | 2ヶ所。GL-1.4mで灰褐色粘土。GL-2.1mまで 砂か？ | 66 |
| 124 | 27 | 27 | 専業移設 | BB-BC13 | 0.5~1.6 | 1 | 2ヶ所。中世層まで | |

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 工事名称/項目 | 構内座標 | 掘削深度(m) | 造成上層(m) | 概要 | 文獻 | |
|------|------|------------------------|----------------------------------|---------------------|------------------|--|------------------------------------|--|-----|
| 125 | 2001 | 30 | 本部棟新設 | 樹木移植 | BB14 | 1.6 | 0.65-0.8 | GL-1.4mに灰色粘質土層(古代) | 66 |
| | | 31 | 旧実業室基礎解体 | | BB14 | 1.65 | 0.65-0.75 | 12×9基礎。中世層まで | |
| | | 32 | 旧学部長改修・電気設備 | | BB15 | 1.8 | 1.5 | 3×9所。古代・古墳層まで | |
| 130 | 2002 | 51 | 本部棟新設 | 排水・管筋 | BC13-15 | 1.2-2.5 | 0.7-1.2 | 汚濁土器・石目多装。近世溝。弥生溝 | 71 |
| 54 | | 雨水排水・管筋 | BB13 | 1.57 | 0.8 | 中世代・古墳層 | | | |
| 134 | 2002 | 55 | 一般教育棟1棟外灯設置工事 | 外灯 | BB13-BD14 | 0.95-1.9 | 0.8 | 2×中世層と古代層まで。GL-1.3mで71 | 71 |
| 57 | | 創立五十周年記念新築工事 | 汚水排水 | BD-BC7-09 | 1.0-1.26 | 0.95 | 4×9所。中世層まで | | |
| 136 | 2002 | 1 | 創立五十周年記念新築工事 | 雨水排水・管理施設 | BB13-15 | 1.3 | 0.7-0.8 | 一部黒色土上面まで | 74 |
| 4 | | 総合研究棟新築機械設備ガス配管工事 | AX06 | 1.4 | 0.9 | 古墳層?まで | | | |
| 138 | 2002 | 6 | 旧事務局庁舎改修電気設備工事 | HC15 | 2.43 | 0.85 | GL-1.9mで黒色土。GL-2.1mで縄文基盤層 | 74 | |
| 7 | | 農学部総合研究棟改修電気設備工事 | BD, BC18 | 1.7 | 0.7 | GL-1.2m前後で黒色土層。GL-1.5-1.6m前後で縄文後期基盤層 | | | |
| 140 | 2002 | 8 | 総合研究棟新築その他工事 | 雨水排水 | AX06-BA06 | 1.7 | 0.7-0.8 | 標高3.3-3.4mで黒色土。弥生・古代・東古墳層。近世・近代・東古墳層・明 | 74 |
| 141 | | 14 | 総合研究棟新築その他工事 | 電気設備工事(外灯) | AW, AX06, 07 | 1.4 | - | 中世層まで | |
| 142 | 2003 | 15 | 総合研究棟新築その他工事 | 排水 | AW-AX06-07 | 0.5-2.5 | 1.6 | 削て縄文基盤層まで掘削。弥生溝 | 74 |
| 143 | | 17 | 旧事務局庁舎改修・外部給排水・消火配管 | BC-BD15 | 2.75 | 1.1 | 削て縄文基盤層 | | |
| 144 | 2003 | 21-1 | 公共下水処理場接続工事 | No.14区画 農学部処理場 | BG-BH13 | 1.8 | 0.9 | 縄文基盤層まで | 74 |
| 145 | | 21-2 | | No.2区画 体育館東-武道場西 | BE-BG10 | 1.95-2.25 | 0.8-0.9 | 削て縄文基盤層。管筋で弥生・早期までで、弥生溝。縄文土坑 | |
| 146 | 2003 | 21-4 | 公共下水処理場接続工事 | No.4区画 文法-母2号館西 | AZ16 | 2.45 | 1.5 | 縄文基盤層まで、弥生溝 | 74 |
| 147 | | 21-5 | | No.5区画 理学部 | BA10 | 1.9 | 0.7 | 中世頃の埋土層を確認 | |
| 148 | 2003 | 21-6 | 公共下水処理場接続工事 | No.6区画 農学部4号館東 | BG22 | 1.5-1.9 | 0.9-1.4 | 縄文基盤層まで、弥生・古墳初期。ビット、古式四角柱礎 | 74 |
| 149 | | 21-7 | | No.7区画 津島宿泊所 | BI16 | 1.15-1.3 | 0.8 | 中世層まで | |
| 150 | 2003 | 21-8 | 公共下水処理場接続工事 | No.8区画 南館南 | BI15 | 2.0-2.45 | 1.1 | 縄文基盤層まで | 74 |
| 151 | | 21 | | 留学生等の宿泊施設 | BB-BD20 | 1.22-1.68 | 1 | 中世層まで | |
| 152 | 2004 | 1 | 津島キャンパス環境整備 | 留学生センター西 | BF19-10 | 0.5-1.15 | 0.4-0.6 | 弥生・古墳層。勾配・遺構。礎層 | 81 |
| 3 | | 総合研究棟改修 | 仮設電柱 | AV08 | 1.5 | 0.9 | 赤灰・白灰色の粘質土。黒色土は確認されず | | |
| 154 | 2005 | 5 | キャンパス環境整備(門改修等) | アース板 | AW09 | 1.8 | - | 縄文基盤層まで、黒色土 | 83 |
| 9 | | プールの改修(排水管改修)工事 | BR02, BG07 | 1.0-1.3 | 0.7 | 1mで中世層。近世埋土 | | | |
| 156 | 2005 | 13 | プールの改修(排水管改修)工事 | BC-BE03, BB-BC02 | 0.25-2.4 | 0.8-1.3 | 縄文基盤層まで、黒色土。弥生・古墳:溝多装。近世土坑。近代:大形貯溝 | 83 | |
| 14 | | サッカースタジアムネット設置工事 | BB-BC10 | 2.0-2.2 | - | オザによる掘削。一部で黒色土 | | | |
| 158 | 2005 | 2 | 総合研究棟改修工事:新築工事に伴う土留物撤去・PC耐震性基礎補強 | AX01 | 1.4-1.6 | 1 | 中世層まで。近世:南北方向の溝 | 88 | |
| 3 | | 教育学部公共下水処理場接続工事 | AZ-BA02-04 | 1.3-2.3 | 0.7-1.0 | 削:深さ2.3m。配管:深さ1.05-1.92m。黒色土or基盤層まで。東西方向の溝 | | | |
| 160 | 2006 | 5 | プールの改修配管接続工事 | BA-HB02, BC02 | 1.7 | 0.7-0.8 | 黒色土or基盤層まで。古墳時代頃の溝状遺構 | 88 | |
| 11 | | 総合研究棟:耐震工事に伴うPC耐震性基礎補強 | AX08-09 | 1.8 | - | 古墳-弥生時代層 | | | |
| 162 | 2006 | 13 | 農学部2号館南電柱移設 | BF16 | 2 | - | 中世層まで | 88 | |
| 164 | | 4 | 公共下水処理場接続工事(理学部館) | BA12 | 2 | 0.8-0.9 | GL-1.6mで黒色土。弥生時代溝 | | |
| 165 | 2007 | 8 | 総合研究棟改修 | 外灯基礎及び管筋 | AV, AX07-08 | 1.4-1.7 | 1.2 | 近世-中世層 | 92 |
| 10 | | 外構・配管(東半部) | AW07-08 | 1.1-1.4 | 0.9 | 近世層。土坑1基 | | | |
| 166 | 2007 | 13 | インキュベーション施設外構配管 | BA-BC20 | 1.2-1.4 | 0.6-0.8 | 縄文時代-近世層。中世-近代の溝 | 92 | |
| 7 | | 理学部ヘリウム誘致装置基礎工事:基礎改修 | AZ09 | 4 | - | 黒色土。GL-4m以下で礎層 | | | |
| 169 | 2007 | 21 | 総合研究棟(教育系)改修 | 電気工事:建柱 | AY03, AZ03, BA03 | 2 | - | 3地点掘削。北:黒色土層 | 92 |
| 22 | | 電気工事:埋地埋設 | | AY04 | 1.7-1.28 | - | 古代層・中世代・中世代の砂層 | | |
| 172 | 2007 | 26 | KDDI無線基地新設工事:控柱 | 埋地埋設 | AZ03 | 1.2 | - | GL-0.60mで黒色土 | 92 |
| 28 | | KDDI無線基地新設工事:控柱 | | BB12 | 1.8 | 0.8-1.05 | 灰色粘質土層まで。黒色土未確認 | | |
| 174 | 2007 | 32 | プールの系統水通メーターボックス取設工事 | BF04 | 0.9-1.5 | - | 中世層(?)まで | 92 | |
| 33 | | 南館倉庫改修工事 | | BF17 | 2 | - | GL-1.2-1.5mで黒色土 | | |
| 175 | 2008 | 40 | 大学生協東館埋設新築 | ガス管 | AX04 | 0.85-1.21 | 1 | 中世層まで | 95 |
| 48 | | 外灯移設 | | AX05 | 1.1-1.2 | 0.68-0.95 | 2地点掘削。古代層まで | | |
| 178 | 2008 | 42 | 新技術センター公共下水処理場接続工事 | AW00-01 | 0.85-1.75 | 0.7 | 中世-近代溝4条(南北東横)。黒色土上面まで | 95 | |
| 43 | | 動物室 | | AY01 | 0.85 | 0.85 | 黒色土上面で弥生・古墳時代の木田相層 | | |
| 179 | 2008 | 44 | 教育学部体育館館体改修 | 伏電設置 | AY03, BA03 | 1.2-1.7 | - | 2地点掘削。北:中世層まで。南:東古墳層 | 95 |
| 49 | | 埋地埋設 | | AY02 | 0.3-1.7 | - | 古代層まで | | |
| 182 | 2008 | 52 | 大学会館他改修工事:一般教育講義棟ガス設備 | BB10-11 | 0.7-1.2 | 0.55 | GL-1.0m以下で礎層。土坑1基。溝?1条 | 95 | |
| 53 | | 工学部内外ガス配管改修工事 | | AV04-06, AW04 | 0.8-1.48 | 0.8-1.1 | 一部で中世層まで | | |
| 187 | 2008 | 6 | 総合教育棟(共済教育)改修工事:高圧ケーブル | BE-BF04-08 | 1.3 | - | 2×9所。中世層・近世層まで | 95 | |
| 14 | | 埋設整備(施設設備室内敷)新設工事 | | BB10 | 0.8-0.95 | 0.6 | 保護管理センター北で弥生?遺構出土 | | |
| 188 | 2009 | 16 | 工学部21号館(動物飼育室)改修 | ガス管 | AU06 | 0.8-0.9 | - | 一部弥生?勾合層 | 102 |
| 17 | | 排水管 | | AU06-07 | 0.65-0.9 | 1.25 | 北西部で再溝 | | |
| 190 | 2009 | 21-1 | 南北道路信号機付付替 | 西門南東 | BB12 | 1.8 | - | 中世-弥生層まで。底部で黒色土 | 102 |
| 22 | | 西門北東 | | BA12 | 2 | 0.58-1.25 | 縄文層まで。黒色土確認 | | |

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 工事名称/額目 | 構内座標 | 掘削深度 (m) | 造成上厚 (m) | 概要 | 支線 | | | |
|------|---------|--------------|---------------------|-------------|---------------------|---------------------------|------------------------|-------------------------|-------------|------------|-------------|
| 190 | | 23 | 南北道路信号機付け替え | 西門北西 | BA13 | 2.06 | 0.56~1.26 | 縄文層まで、黒色土確認 | | | |
| | | 24 | 事務局前北東 | BD12 | 1.95 | | 縄文層まで | | | | |
| | | 25 | ガス管 | AY-AZ02-03 | 0.8 | - | 縄文層まで | | | | |
| | | 27 | 電気設備：アース増設 | | 1.65 | | 縄文層まで、黒色土・中世以前の遺構 | | | | |
| | | | 電気設備：配管 | AY01-AZ03 | 0.8 | 0.4 | 赤土・包含層・遺構 | | | | |
| 191 | 2009 | 29 | 総合研究棟Ⅱ期（教育学系）改修 | 電気設備：外灯 | | 0.8~1.3 | | 黒色土まで | | | |
| | | | | 排水 | AY02-03 | 1.15 | 1 | 黒色土・赤土遺構 | | | |
| | | | | 電気設備：配管 | AZ00-02 | 0.8~0.9 | 0.7 | 包含層・畦畔・小溝 | | | |
| | | | | 電気設備：外灯 | | 0.8~1.2 | | 縄文層まで、北：黒色土、南：黒色土無し | | | |
| | | | | 電気設備：アース増設 | | 1.7 | | 縄文層まで、黒色土 | | | |
| 32 | 電気設備：配管 | A200-AY-AZ01 | 0.8~0.9 | 0.6 | 0.6 | 包含層・土師器小片 | 縄文層まで、黒色土 | 302 | | | |
| | | | | | | | | | 電気設備：外灯 | 1.3 | |
| 192 | | 42 | 文芸館ボイラー設備突換工事 | AX16 | 2.5 | 1.5 | 縄文層まで、赤土中・後期遺1条 | | | | |
| 193 | | 48 | 総合研究棟（薬学系）改修 | 電気設備：配管 | BH16-BC17 | 1.45 | 1.05 | 近世層、近代溝 | | | |
| | | | | 電気設備：アース板 | | 1.50~1.54 | | 包含層（中世？） | | | |
| 194 | | 54 | 環境理工学部公共下水施設竣工工事 | AU03 | 2.3 | 0.9 | 赤土・古墳層まで、近代東西階段1条 | | | | |
| 195 | | 55 | 薬学部西水道管位置調整工事 | BC18 | 2.7 | 0.55 | ・岡山南教育委員会対応・縄文層まで、黒色土 | | | | |
| 200 | | 8 | 外灯整備工事 | 教育学部 | AZ06 | 1.1 | 0.7 | 黒色土 | | | |
| 201 | | 17 | 創立五十周年記念館 | BH14-15 | 1.1~1.6 | 1.15 | 近代層、近代石堀用水路 | | | | |
| 202 | | 23 | 総合研究棟（薬学系）に付く支線管移設 | 生活科学・実験棟 | BB-BC17 | 0.87~1.4 | 0.8 | 古代層 | | | |
| 203 | | 36 | テニスコート施設復旧工事 | | BG11 | 1.9 | - | 縄文層、磁器類・岡山西葺回収 | | | |
| 204 | 2010 | 34 | 薬学部本部改修工事 | 電気設備：管轄 | BC-BD18 | 0.7~1.28 | | 中世層 | 305 | | |
| | | | | 電気設備：ハンドホール | | 2 | 1.1 | 縄文時代層、近世・近代：堂壇遺 | | | |
| 205 | | 35 | 外灯設置：管轄 | BH17 | 0.63~0.74 | 0.85 | 近世・近代層 | | | | |
| 206 | | 36 | 農学部水道管復旧工事（緊急対応） | BF15 | 1.1 | - | 縄文層 | | | | |
| 207 | | 37 | 国際交流会館 | 排水再構築工事 | AU-AV13-14 | 2.2~2.5 | - | 4ヶ所、中世上面から0.55m掘削、赤土後期層 | | | |
| 209 | | 1 | 文経館フェンス工事 | | AW17、AX17、AV17、AZ16 | 1.1~2 | 1~1.6 | 近代の土塼、水路 | | | |
| 210 | 2011 | 8 | 津島南配水管布設工事 | 電気設備：管轄 | BA10 | 1.2 | 0.6 | 門跡・御堂遺物基礎 | 307 | | |
| 9 | | | | 電気設備：アース増設 | BA08 | 1.5 | 0.6 | 中世層まで、近世・近代遺構確認 | | | |
| 211 | | 12 | 教育学部講義棟トイレ改修工事<排水管> | AZ04 | 0.9~1.5 | 0.55 | 古土・赤土・包含層・遺構 | | | | |
| 214 | | 9 | 新しい学館整備 | 西棟トヨタホール | BH06-07 | 3 | 1 | 基層層まで | | | |
| 215 | 2012 | 11 | 農学部周辺排水管整備 | 排水・管轄 | BB-BF13 | 1.6 | 1~1.3 | 基層層まで | 311 | | |
| 218 | 2013 | 5c | 総合研究棟改修（工学系） | 設置路線① | AV05 | 0.9 | - | 近代の周溝土溝 | 316 | | |
| 219 | | | | 5d | | 設置路線② | 0.75 | - | | 近代の東西方向石堀溝 | |
| 220 | | | | 6a | | 埋地敷板① | | | | | |
| 221 | | | | 6b | | 埋地敷板② | 1.65 | 0.85 | | 縄文層確認 | |
| 222 | | | | 8 | | 電気設備：管轄 | AW05 | 0.8 | | - | 近代の東西方向石堀溝 |
| 223 | | | | 16 | | 電柱 | BH15 | 1.6 | | - | 旧陣家東西方向水路 |
| 224 | | | | 19a | | 種房ビレット② | BC10 | 1.05~1.11 | | 0.5 | 中世層、近世南北方向溝 |
| 225 | | | | 21a | | 東西道路南側外灯① | BH08 | 1 | | 0.55 | 赤土層確認 |
| 226 | | | | 21b | | 東西道路南側外灯② | BH09 | 1.3 | | - | 旧陣家東西水路 |
| 227 | | | | 21c | | 東西道路南側外灯③ | | 1.3 | | - | |
| 228 | 21d | 東西道路南側外灯④ | BH11 | 1.4 | 0.3 | 埋層確認 | | | | | |
| 229 | 21e | 東西道路南側外灯⑤ | | 1.5 | 0.95 | 中世層、近世東西方向溝 | | | | | |
| 230 | 21f | 東西道路南側外灯⑥ | BH12 | 1.4 | 0.85 | 中世層、近世東西方向水路 | | | | | |
| 231 | 21g | 東西道路南側外灯⑦ | BH12 | 1.1 | 0.7 | 近世層、近世東西方向溝 | | | | | |
| 232 | 2013 | 22a | 集水井① | BE10 | 1.4 | 0.6 | 埋層確認 | 316 | | | |
| 233 | | | | 22b | BH11 | 1.4 | 0.9 | | 中世層、近世東西方向溝 | | |
| 234 | 23b | 大学会館周辺他埋層整備 | 東西道路南側排水棟穴次①-④ | BH10-11 | 0.6~0.7 | - | 旧陣家東西方向水路 | | | | |
| 235 | 24 | 自由広敷敷① | BB09-12 | 0.8 | 0.6 | 近世層、近世南北方向の段・溝、近代南北方向溝 | | | | | |
| 236 | 25 | 重圧管管轄 | BH10-11 | 1~1.1 | - | 旧陣家東西方向水路 | | | | | |
| 237 | 26a | ガス管管轄①-① | BH10 | 1 | - | 旧陣家東西方向水路2条 | | | | | |
| 238 | 26b | ガス管管轄①-② | BH10 | 1.2 | 0.55 | 埋層、近世土堀、近代南北方向溝 | | | | | |
| 239 | 26a | さくら広場外灯① | BH10 | 1.4 | 0.5 | 赤土前期層確認 | | | | | |
| 240 | 28b | さくら広場外灯② | BC10 | 1.1 | 0.45~0.55 | 古墳時代前期層、古墳時代後期土坑（焼土）、近世土坑 | | | | | |
| 241 | 30 | ガス管管轄 | BH10-BC10 | 0.75~1.4 | 0.85 | 近世層、近世土堀、近世~近代東西方向溝 | | | | | |
| 242 | 31 | パワースタンド電気設備 | BC11 | 1.5 | 0.75 | 埋層、赤土時代ビット、戦国時代南北方向溝 | | | | | |
| 243 | 35a | ガス配線整理 | AZ03 | 1.1 | 0.5 | 赤土時代前期黒色土確認 | | | | | |
| 244 | 8 | 1階テラス新設 | 排水管 | BC-BH13 | 0.7 | - | 旧陣家南北方向水路 | | | | |
| 245 | 12 | 津島南倉庫 | 電柱新設工事 | BJ16 | 2.7 | - | 1~2m掘削、GL-1.6~1.8mで黒色土 | 321 | | | |

| 年度 | 番号 | 工事名称/細目 | 構内座標 | 掘削深度 (m) | 造成土厚 (m) | 概要 | 文獻 | |
|-----|------|-------------------|------------|----------------|-------------|--|-----------------------|-----|
| 248 | 9 | 職員宿舍新設 | BI16 | 0.8-1.9 | 1 | 標準水溝確認GL-0.4m | 124 | |
| 249 | 13 | | | 0.9-1.45 | 0.65-0.85 | | | |
| 250 | 16 | | | 2.5 | 0.9-1.2 | | | |
| 252 | 7 | 職員宿舍増設立替 | BI14 | 2.5 | 0.8 | 1-2層掘削、GL-1.6m-1.8mで黒色土 | 128 | |
| 253 | 13 | 通水ブロック併 新設併1 | AZ-BA04-06 | 1.1 | 0.6 | 黒色土まで確認 | | |
| 254 | 14 | | | 1.5 | 1 | 黒色土まで確認 | | |
| 255 | 2016 | 15 | 1.4 | 0.65-0.9 | 黒色土まで確認 | | | |
| 256 | 16 | 1.4 | 0.78 | 黒色土、中世遺構確認 | | | | |
| 257 | 17 | 1.4 | 0.7 | 黒色土、中世遺構確認 | | | | |
| 258 | 18 | 1.4 | 0.8 | 黒色土まで確認 | | | | |
| 260 | 6 | 理学部2号館電気室設置物建設工事 | AY09 | 0.75-1.7 | 1.2 | 中世層 | 138 | |
| 261 | 21 | 野球部バットネット改修ほか | BB05-06 | 3.0 | 0.9-1 | 東側2か所は青灰色粘土、西側2か所は-2.4m付近に黒色土、以下灰黄色砂質土→青灰色粘土 | | |
| 262 | 22 | 基幹・環境整備（ブロック敷設等）他 | BJ16・17 | 0.7 | 0.7 | 土質調査実施 | 138 | |
| 264 | 6 | 野球場バットネット | BB06 | 2.05 | 0.92 | GL-2mで黒色土確認 | 141 | |
| 265 | 2019 | 中東ケール埋設工事 | AU04 | 1.45 | 0.9 | 中東→古代層確認【岡山立会】 | | |
| 266 | 8 | 第1野球場北側新設 | 雨水・汚水排水管・管 | AZ-BAS-9 | 0.9-1.3 | 0.6-1 | 黒色土→古墳層まで確認 | 145 |
| 269 | 9 | 基幹・環境整備 | 免通水溝 | BB13 | 1.8-2.2 | 1 | 古墳層まで掘削、T38Sと同様 | 145 |
| 270 | 10 | 基幹・環境整備 | 到達物埋設 | AZ・BA13 | 1.8 | 1-1.3 | 一部で古代層まで掘削、T38Nと同様 | 145 |
| 271 | 17 | ライフライン再生（津島南） | 排水管 | BC-BD 16-19 | 1-2 | 1.5 | 基層層まで掘削、黒色土1.84-2.37m | 145 |
| 272 | 21 | ライフライン再生（津島北） | 排水管 | A200-01 | 1.3-1.4 | 0.5 | 黒色土1.37-3.8m | 145 |
| 273 | 22 | ライフライン再生（津島北） | 排水管・管 | AY-BA06 | 0.9-2 | 0.7-1 | 黒色土1.25-3.54m | 145 |

＜鹿田地区：鹿田遺跡＞

| 年度 | 番号 | 工事名称/細目 | 構内座標 | 掘削深度 (m) | 造成土厚 (m) | 概要 | 文獻 | |
|----|------|---------------------|---|---|-------------|--|---------------------------------|-----------------------|
| 3 | 1983 | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | |
| 7 | 1985 | 6 | 外水浄化槽高気配管理用 | AO-AW22 | 1.3 | - | 洗浄後期：土留・分銅打土製品、貝殻類 | 5 |
| 8 | 12 | 6 | 外水浄化槽関係外排水管理用 | AW-BH23、 BH-0124 | 1.3-1.7 | 0.7-1.3 | 赤土・中世：遺構・遺物 | |
| 9 | 9 | 記念館東側雨水管改修工事 | 電気配線ハンドホール掘削 | AG11、AG24、 AP23 | 1.2-1.7 | 0.9-1.3 | 3ヶ所、中世包含層・ビッド | |
| 11 | 1986 | 24 | 遺跡及び調査工事 | BI-BN4 CL-CR12、 CR-CX13、 CX-DA14 | 0.8-1.3 | 0.8 | 中世包含層、土留 | 6 |
| 14 | 1987 | 8 | 管理棟新設に伴う基礎杭確認 | BC37 | 2.5 | - | 洗浄時代：包含層・遺構 | 8 |
| 15 | 1989 | 46 | 旧管理棟跡地境整備：外灯基礎 | CE30-37-44、 CJ-CR45、CL38-39 | 1.2-1.5 | 0.7-1 | 2ヶ所、中世層 | 14 |
| 18 | 1992 | 29 | アイソトープセンサー1号掘削→電気井 | BW71 | 1.4-1.5 | 0.9 | 中世遺構 | 25 |
| 19 | 41 | フェニコート漏電対策 | CF73 | 1.2 | 1 | 古代土留点 | | |
| 30 | 1994 | 5 | 遺跡改修工事 | DH60-62 | 1.5 | 0.8 | 近世層以下は遺構無し土、溝3条・ビッド3基 | 33 |
| 21 | 11 | 鹿田地区基幹整備 | 別荘内排水給湯器新設 | BG-0118 | 1.5 | 1 | 造成土以下に茶褐色土・赤灰色粘質土層、遺物無し | 1/2 |
| 22 | 14 | | 遺構タンク設置 | CD07-08 | 2.3 | 1 | 中世2層、溝3条、溝内から古代・中世土層露出 | |
| 23 | 17 | 遺構タンク1字埋設 | CD08-CC11 | 1.23 | 0.85 | 包含層、中世土留、鹿丸で区画分長の3.8倍程度 | 38 | |
| 24 | 23 | 防球ネット取設工事 | DF56-67 | 3 | 0.8 | 径60cmを12ヶ所、内4ヶ所で土留付・石留、調査区西寄り：GL-2m以下は田河道小 | 53 | |
| 30 | 1998 | 30 | 校舎新設に伴う仮設電気工事 | BV73、CN78 | 1.2 | 1 | | 中世層まで |
| 33 | 18 | 研究棟新設 | 給排水網・管路 | BV65-71 | 1.2-1.4 | 0.9 | 中世層まで | 56 |
| 34 | 27 | | 排水槽 | BU65 | 2.2 | 1.1 | 面積8.2㎡、近世遺構、中世・不明遺構 | |
| 35 | 27 | 基幹整備（電気設備）：地中配管 | BY42-43、 BU43-44 | 1.25-1.45 | 0.45-0.5 | 2ヶ所、中世層まで、時期不明遺構 | 56 | |
| 36 | 1999 | 41 | 病棟新設 | CP21-28、 CP-CJ28、 CD-CF28-33 | 1.7 | - | | 面積18㎡、鹿田11次調査南側で中世ビッド |
| 37 | 46 | 病棟新設 | 汚水網・管路 | CN46-DE49 | 2.3 | 1.2 | | 古墳時代：母11基・土柱1基、中世遺構等 |
| 38 | 47 | グラウンド陸球ネットポール | CM-CN-CP-CR、 CT58、CV-DA、 DD-DD-DF59 | 2.0-2.3 | - | 11ヶ所、青銅6ヶ所・河石、7-10ヶ所：鹿田遺跡、最北端：河石 | 61 | |
| 39 | 48 | 病棟新設 | 汚水排水槽 | BT54 | 2 | 1 | | 古墳時代層まで |
| 41 | 25 | 病棟新設 | 管路・雨水網 | CD11-CN45 | 1.6-1.8 | - | 溝か？ | 61 |
| 42 | 2000 | 26 | 電柱及び外灯の埋設工事 | CN15-21-27、 CS43-42、 CS45、DV45 | 1.6 | - | 7ヶ所、灰白色土層・赤褐色砂質土層・暗褐色砂質土層、最南側部小 | |
| 43 | 29 | 医学部ガス配管切り離し用バルブ取付工事 | DE27 | 0.8-1.15 | 0.7 | GL-0.85mで黄灰色粘質土 | | |
| 44 | 47 | 鹿田地区南側雨水路境整備改修 | DG-DJ28-67 | 2.1-2.3 | 1.3-1.5 | 掘削20mの範囲調査、古代の遺構・河石 | | |

| 総合番号 | 年度 | 番号 | 工事名称/種目 | 構内座標 | 掘削深度 (m) | 造成上厚 (m) | 概 要 | 支線 |
|------|------|----|--------------------------|--|---------------------|----------|--------------------------------|-----|
| 45 | 2001 | 27 | 総合教育研究棟新営に伴う機械設置工事 | BB~CA43, CA43~55, CA44~CL45, BR~CA55 | 1.65 | 07~09 | 中世層まで、中世上部多数出土地点あり | 66 |
| | | 47 | 10 | 横田遺跡ガス配管設置工事 | CH11~CN22 | 1~1.3 | 0.87 | |
| 48 | 19 | 22 | 共同溝排水管 | BT-BU11 | 0.5~1.8 | - | 2ヶ所、GL-1.22mで古代or中世層 | 71 |
| 49 | 25 | 22 | 共同溝排水管 | QH1~42 | 1.5 | - | 1ヶ所、包含層まで | |
| 50 | 2002 | 27 | エヌエルギーセンター棟新営 | CG41, CG04, CF40, CO38 | 1.47~1.66 | - | 4ヶ所、中世層まで | 71 |
| 51 | | 27 | 共通 | CV36~45 | 0.9~1.9 | 0.9 | 中世：井戸・柱穴溝 | |
| 52 | 36 | 27 | 総合教育研究棟新営その他工事 | BR~BS45~53 | 1.85~2 | 0.8~1 | 5ヶ所、中世層まで | 71 |
| 53 | 32 | 32 | 本館棟新営その他工事・補修移設 | DC67 | 1.25 | - | 中世層 | |
| 54 | 56 | 56 | 旧混合同種ガラストランプ設備 | BG18 | 1.68 | - | 後面で弥生~古墳層、土器 | 71 |
| 55 | 5 | 5 | 総合教育研究棟 | BS~BS45, CA~CO46, CO45 | 1.7 | 0.7~1 | 弥生中期?包含層まで、古墳土壌、中世ビッド多数、低地部確認 | |
| 56 | 2003 | 9 | 外構工事(雨水・汚水・実験排水) | BL~BS45~53 | 0.8~1.75 | 0.7~0.9 | 一部弥生中期包含層まで、古墳時代溝、中世井戸、古墳土壌等 | 74 |
| 57 | | 10 | 給水配管設置 | BR~BS50~54 | 1.33 | 0.8 | 一部で中世層まで | |
| 58 | 13 | 13 | 外構工事(外灯) | BR53, BL54 | 1.4 | 0.8 | 中世層まで | 74 |
| 60 | 3 | 3 | 医病棟内支障ガス配管替工事 | AF16, AP~AJ17, AJ~18 | 1.9 | 0.7~0.8 | 横田遺跡・近世・近代水田層、中世晩期、弥生~古墳河底(砂礫) | |
| 61 | 5 | 5 | 医病棟内支障給水管配管替工事 | AR4~16, AF~AD16, AB9~15, AJ~AO9 | 0.9~1.9 | 0.85 | 例、中世?~近代水田層、中世晩期、弥生~古墳河底(砂礫) | 81 |
| 62 | 2005 | 3 | 医学部実習室701周辺高圧ケーブル設置工事 | DH~DJ18, DJ19 | 11~25 | 0.7~1.1 | 一部で弥生~近代層 | 83 |
| 63 | 2006 | 6 | エヌエルギーセンター棟新営に伴う工事 | CT~CU45 | 2.5 | 0.9 | 横田第2次調査地点と重畳 | 88 |
| 67 | 4 | 4 | 基礎埋設整備(道路等)工事 | CC13~30, CD13~20 | 1.2~2.2 | 0.9~1.2 | 基礎層まで、中世：基西~南北溝 | 92 |
| 68 | | 5 | 中世棟屋上防水改修その他工事 | AS03~07, AV~AX07, AY~BB09 | 0.6~0.9 1.4, 1.8 | 0.7 | 古墳時代南北溝、中世東西溝 | |
| 69 | 7 | 7 | 中央診療棟新営：ガス管切断工事 | BT11 | 1.28 | 0.5 | 中世層 | 92 |
| 70 | 10 | 10 | 基礎整備(電気設備)工事 | CO42, CV36 | 1.3~1.65 | 1.3 | 中世層まで、遺構 | |
| 71 | 2007 | 11 | ガス配管1 | CG08, CF09~10, CG~CH1, C111 | 0.85~1.3 | 0.9 | 中世：井戸(砂礫)・ビッド溝 | 92 |
| 72 | | 17 | ガス配管2 | CL12, CM13, CN14~15 | 1~1.2 | 0.4 | 中世層、中世遺構 | |
| 73 | 27 | 27 | 総合研究棟(医学系)新営その他工事 | BT-BU65 | 1.35 | 1 | 中世層 | 92 |
| 74 | 28 | 28 | 雨水路改修工事 | C7~CP12 | 1.7~2.9 | 0.6~0.8 | 包含層及び柱穴裏側：低地部 | |
| 75 | 30 | 30 | 高エネルギー治療室改修工事 | BS33 | 1.4 | 0.6~0.7 | 中世~近代：総研溝、弥生後期土器 | 95 |
| 77 | 5 | 5 | 基礎整備(西病棟とりこわ) | BT24~25 | 0.98~1.4 | 0.7 | 弥生基礎層まで | |
| 78 | 6 | 6 | しほり工事 | BQ21, BR21 | 0.75 | 0.5 | 埋地性埋設層 | 95 |
| 79 | 7 | 7 | 基礎埋設一部とりこわしに伴う支障ガス配管移設工事 | AO53~54, AL54~AO54, AL54~61, AL62~AP65 | 0.76~1.0 | 0.5 | 没置層まで、土壌2基 | |
| 83 | 2009 | 3 | 横田遺跡第20次調査発掘打ち | CL30, CH40 | 0.8~0.9 | 0.7 | 中世層まで | 102 |
| 90 | 6 | 6 | 高精度放射線治療棟屋上排水管工事 | BM52~55, BI~BL35 | 0.75~0.9 | 0.6 | 中~近代の遺構? | 105 |
| 91 | 2010 | 7 | 中央診療棟新営：アース輸設置工事 | BR14~16-19-22 | 0.9~1.8 | 1.1 | 包含層 | |
| 92 | 17 | 17 | 外灯整備工事：研究棟南駐車場 | BY46~50 | 1.2 | 1.2 | 遺構埋土? | 105 |
| 93 | 22 | 22 | 便所改修工事 | CV~CY28~29 | 1.6 | 1.15 | 弥生基礎層まで | |
| 95 | 2011 | 4 | 立体駐車場新営<配管> | CN45~49, CO~DF49, CW~DD44, DD45, DD~DF46, DF~DG47~49 | 0.7~2.38 | 0.55~1 | 弥生時代土壌、古代土壌、中世溝、近世土壌・溝・網 | 107 |
| 98 | 8 | 8 | グラウンドゴルフネット設置 | CL~DF57 | 2 | 1 | オゾ層削 | 111 |
| 99 | 2012 | 9 | 医薬薬品総合棟支障配管 | BL~BM58 | 2 | 1.2 | 中世溝・土壌?、弥生基礎層まで | |
| 100 | 13 | 13 | 講義実習棟改修 | BU~BV66 | 1.6 | 1.1 | 中世以前(灰青色砂質土)まで | 111 |
| 102 | 3 | 3 | 浄化槽撤去 | BM57~58 | 3.6 | 1.1 | 弥生基礎層以下まで | |
| 103 | 4 | 4 | 共同溝撤去 | BE65 | 2.3 | 1.1 | 弥生基礎層まで | 111 |
| 104 | 5 | 5 | ポイラー撤去 | BH~HO66~68 | 3.9 | 1.1 | 弥生基礎層以下まで | |
| 105 | 6 | 6 | 重油タンク撤去 | BO67~68 | 3.5 | 1.1 | 弥生基礎層以下まで | 111 |
| 106 | 7 | 7 | 警報装置 | BJ~BK69 | 4.9 | 1.1 | 弥生基礎層以下まで | |
| 107 | 8 | 8 | 工事用電気引き込み | AV68 | 2 | 1 | 中世層(?)確認 | 111 |
| 108 | 2013 | 9a | 医薬薬品総合教育研究拠点施設新営 | AD~AH66~67 | 2.45~2.68 | 1.2~1.65 | 古代河底、中世~近代層、近世溝 | |
| 109 | | | 排水配管(A.I.R.) | AI~AK67 | 2.2~2.45 | 1.6~1.65 | 古代河底、中世~近代層 | 110 |
| 110 | | 9c | 排水配管(C.I.R.) | AJ66~AK67-68-AL~AP67-68 | 1.8~2.66 | 1.35~1.7 | 古代河底、中世~近代層 | |
| 111 | | 9d | 排水配管(D.I.R.) | AO~AT68 | 1.7~2.05 | 1.2~1.35 | 弥生時代埋戻し包含層、弥生~古代砂礫、古代河底、中世~近代層 | 111 |
| 112 | | 9e | 排水配管(E.I.R.) | AS~AW68 | 1.45~1.9 | 0.7~0.75 | 弥生時代、弥生ビッド、弥生土器片出土、弥生~古墳砂礫、近代層 | |

| 総合 番号 | 年度 | 番号 | 工事名称/額目 | 構内座標 | 掘削深度 (m) | 造成土厚 (m) | 概 要 | 支額 | |
|----------|------|-----|------------------|------------------------------------|---------------------|-------------|--------------------|---------------------------|-----|
| 113 | | 9f | 排水配管 (F.I.E.C) | AL1-AX-A298, AX-AZ-E199 | 1.33-1.84 | 0.7-0.75 | 赤生層、赤生-古代砂層、中世-近代層 | | |
| 114 | | 9g | 排水配管 (G.I.E.C) | BC96-70, BD61-63-64, BE60-63 | 0.88-1.5 | 0.89-1.15 | 中世-近代層、近世土坑 | | |
| 115 | | 11 | 給水管 | AL53 | 1.5 | 0.8 | 中世? - 近代層確認 | | |
| 116 | | 12 | 給排水管橋 | AL53-62, AK-A92-67 | 0.65-1.85 | 1.3 | 中世-近代層確認 | | |
| 117 | 2013 | 19 | 臨床研究棟改修 | 電気配管(アース)3ヶ所 | BJ-BK43 | 1.64-1.73 | 0.6-0.71 | 古墳?・中世-近世層確認 | 116 |
| 118 | | 26a | 排水配管 (A.I.E.C) | AD40 | 2 | 1.3 | 中世層、近世土坑 | | |
| 119 | | 26b | 排水配管 (B.I.E.C) | AD-AE39-40 | 1.75 | 1.5 | 中世-近代層、河造? | | |
| 120 | | 26c | 排水配管 (C.I.E.C) | AF40-42 | 1.52-1.63 | 1.06-1.2 | 中世-近代層確認 | | |
| 121 | | 30 | 給水・排水管 | AU-AW40-42 | 1.4 | 0.8 | 中世? - 近代層確認 | | |
| 122 | | 32a | 中浴3期発掘調査に伴う支障物撤去 | 排水配管 (A.I.E.C) | BZ-CC42, BX-BY43 | 1.1-1.45 | 0.85-1 | 中世-近代層、近世土坑・畦畔 | |
| 123 | | 32c | 排水配管 (C.I.E.C) | BT35 | 2.3 | 1.1 | 中世-近代層、中世溝 | | |
| 126 | | 6 | 動物実験施設改修 | 雨水排水所 | CC58 | 1.4 | 0.9 | 中世層、近世近代層 | |
| 127 | | 11 | 機械設備所 | CJ58 | 1.8 | 1.1 | 赤生-古墳層まで掘削、中世土坑 | | |
| 128 | | 15 | 臨床研究棟新設 | 排水掘削 | BE69 | 1.6 | 0.7 | | 121 |
| 129 | 2014 | 19 | 施設新営 | オーブミラー基礎 | BL70 | 1.3 | 0.8 | 中世-近世近代層 | |
| 130 | | 24 | グラウンド復旧工事 | 防球ネット設置 | CP-DF68 | 2.1 | 1.1-1.2 | オーブ掘削、1ヶ所で貝層確認 (GL-約1.6m) | |
| 131 | | 11 | 外灯1 | BA21 | 1.3 | 0.75 | 中世層、赤生後期の包含層確認 | 124 | |
| 132 | | 13 | 外灯3 | BP11 | 1.3 | 0.8-1.05 | 中世層?2基・溝1条確認 | | |
| 133 | | 14 | 旧混合病棟とりこわし撤去 | 外灯4 | AY-AZ08 | 1.3 | 0.5-0.6 | 中世ピット12基・溝2条確認、赤生後期包含層確認 | 124 |
| 134 | 2015 | 15 | パライカー1 | BG10 | 0.9 | 0.75 | 近世溝または河造確認 | | |
| 135 | | 16 | パライカー2 | BG09 | 0.9 | 0.65 | 近世土坑1基・溝1条確認 | | |
| 136 | | 17 | パライカー3 | BG09 | 0.9 | 0.7 | 近世溝または河造確認 | | |
| 137 | | 20 | 臨床講義棟改修工事 | 給排水 | BV40-BW41 | 1 | 0.6 | 中世層確認 | |
| 138 | | 2 | 中央診療棟新営 | 管路 | CA44 | 1.15 | 1.05 | 中世層確認 | |
| 139 | | 7 | | 管路1 | AD63-65 | 2.3 | 1.6 | 古代河造埋積砂まで確認 | |
| 140 | 2016 | 8 | 旧生化学棟改修工事 | 管路2 | AF62-65, AD-AE66 | 1.7-2.3 | 1.5-1.7 | 古代河造埋積砂まで確認 | 128 |
| 141 | | 9 | | 管路3 | AL61-67 | 1.95 | 1.6 | 中世層まで確認 | |
| 143 | 2017 | 4 | 自來発電 | ガス配管 | CM43-CO46 | 1.2 | 1-1.1 | 中世層確認 | 134 |
| 145 | 2018 | 2 | 防球ネット設置 | | CL-DP57 | 2.0 | 0.9 | 自然流出る地点1ヶ所あり | 138 |

<東山地区>

| 総合 番号 | 年度 | 番号 | 工事名称/額目 | 構内座標 | 掘削深度 (m) | 造成土厚 (m) | 概 要 | 支額 |
|----------|------|----|----------------|------|-------------|-------------|-------------------|----|
| 1 | 1983 | - | 若風中学校新営 | - | 4.0-5.0 | - | シルト層中 | 1 |
| 2 | 1997 | 29 | 若風小・中学校後援館改修工事 | - | - | 0.79 | GL-1.1mで近世水田層、溝1条 | 50 |

<三朝地区：福呂遺跡>

| 総合 番号 | 年度 | 番号 | 工事名称/額目 | 構内座標 | 掘削深度 (m) | 造成土厚 (m) | 概 要 | 支額 |
|----------|------|----|--------------------|------|-------------|-------------|-----------------------|----|
| 4 | 1997 | 38 | 実験研究棟新営に伴う電気配管管路工事 | - | 1 | - | GL-1.0mで中世包含層は東に向かい上昇 | 50 |

付表3 埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要 (2022年3月現在)

| 種別 | 遺跡名 (地区名) | 調査名：1.事業名 | 数 (1期：約30リットル) | | | | | | 特長遺物ほか | 文庫 | | |
|-------------------------|--------------|-----------------------------|----------------|-----|-----|-----|-----|------|--------|----------------------------------|------------------------------------|-----|
| | | | 総数 | 土器 | 石器 | 木器* | 種子* | その他* | | | | |
| 泉原 | 奥田 | 第1次調査：外土器検出 | 5465 | 503 | 6 | 30 | 0.5 | 1 | 36 | 丹波上土器群、白磁、瓦器、木製短甲、人面形土器、ガラス片、瓦片等 | 7 | |
| | | 第2次調査：NMR-CT室 | 1064 | 96 | 0.4 | 4.5 | 0.5 | 1 | 4 | 厚板土器、田舎、木製、墨書土器、転用後、片面硯等 | | |
| | | 第3次調査：医師検査 | 586 | 36 | 0.3 | 18 | 0.3 | | 4 | 石器 | 10 | |
| | | 第4次調査：医師配腎 | 4 | 2 | 0.3 | 0.5 | 0.2 | 1 | | 古代土器、陶製品 | | |
| | | 第5次調査：管理棟 | 1012 | 88 | 2.5 | 6 | 1.5 | 0.2 | 3 | 木器、炭化種子、手鋸骨、焼き印付き丹波 | 24 | |
| | | 第6次調査：R1総合センター | 62 | 59 | 0.5 | 1 | 1.5 | | | 青銅製物 | 40 | |
| | | 第7次調査：基礎医学棟 | 775 | 73 | 1 | 1.3 | 0.2 | 1 | 1 | 漆器木製品 | 85 | |
| | | 第8次調査：R1治療棟 | 10 | 10 | | | | | | 鎌形短刀、瓦器類、漆器類 | | |
| | | 第9次調査：病棟 | 1201 | 96 | 0.1 | 13 | | | 9 | 2 | 本朝土器 | 126 |
| | | 第10次調査：共同講 | 2 | 2 | | | | | | | 古代土器、杖 | 108 |
| | | 第11次調査：病棟 | 74 | 66 | | 4 | | | 2 | 2 | 本朝土器 | 126 |
| | | 第12次調査：エネルギーセンター | 147 | 77 | 1 | 54 | | | | 15 | 宮内省御用、織、須恵器等 | 143 |
| | | 第13次調査：総合教育研究棟 | 309 | 229 | 24 | 10 | | | | 6 | 陶器 | 98 |
| | | 第14次調査：病棟 | 662 | 55 | 1 | 2 | 0.2 | 1 | 7 | 1 | 本朝、瓦器類 | 113 |
| | | 第15次調査：総合教育研究棟 | 4 | 3 | | | | | | | - | 98 |
| | | 第16次調査：立体駐車場 | 1 | 1 | | | | | | | - | 81 |
| | | 第17次調査：総合研究棟 | 1112 | 68 | 4 | 8 | 0.2 | 1 | 30 | | - | 137 |
| | | 第18次調査：中央診療棟 (本体) | 1355 | 116 | 19 | 18 | 0.5 | 2 | | | - | 52 |
| | | 第18次調査：中央診療棟 (その他) | 4 | 2 | | | | | | | 墨書木製品、漆書墨書木 | 108 |
| | | 第19次調査：療育部洗衣室下 | 185 | 143 | 1 | 4 | | | | 25 | 漆器、漆製、貝 | 95 |
| | | 第20次調査：[A・B]地点：中央診療棟 | 296 | 148 | 68 | 62 | | | 6 | 12 | - | 102 |
| | | 第20次調査：[C・D]地点：中央診療棟 | 861 | 55 | 16 | 7 | 1 | 0.1 | 7 | | - | 105 |
| | | 第21次調査：環境整備 | 101 | 4 | 1 | 3 | | 0.1 | 2 | | 陶器類木製品 | 105 |
| | | 第22次調査：地域医療人育成センター | 175 | 146 | 3 | 25 | | 1 | | | - | 107 |
| | | 第23次調査：Jホール | 33 | 30 | | 1 | | | | 2 | - | 120 |
| | | 第24次調査：医薬薬品総合棟 | 106 | 52 | 4 | 21 | | | | 27 | 総馬 (器製先・牛) | 130 |
| | | 第25次調査：中央診療棟 3階 | 85 | 52 | 3 | 4 | | | 5 | 21 | 烏帽子 | 131 |
| | | 第26次調査：動物舎 | 75 | 34 | 4 | 7 | | | 2 | 28 | - | 135 |
| | | 第27次調査：自來発電設備 | 2 | 2 | | | | | | | - | 143 |
| | | 第28次調査：アメニティモール新設 | 122 | 81 | 3 | 37 | | 1 | | | - | 138 |
| 第29次調査：先端治療・臨床検査センター予定地 | 30 | 18 | 2 | 7.5 | | 0.5 | 2 | | - | 本書 | | |
| 津島岡大 | 津島岡大 | 第1次調査：NP-1 | 5 | 0.5 | 0.5 | 4 | | | | - | 3 | |
| | | 第2次調査：農学部合併処理槽 | 15.5 | 12 | 1.5 | | | | 2 | | 変形土器、赤土器類土器 | 4 |
| | | 第3次調査：男子学生寮 | 59 | 48 | 1.5 | 2 | 4.5 | | 3 | | 縄文後期土器、変形土器、石製器類、乾漆土器片、藤杖石器、栗栗類、種子 | 19 |
| | | 第4次調査：屋内運動場 | 1 | 1 | | | | | | | - | 6 |
| | | 第5次調査：大学院自然科学研究科棟 | 85 | 71 | 3 | 1 | 8 | | 2 | | 縄文後期：土器、耳栓、輪、栗栗類、種子 | 27 |
| | | 第6次調査：生物応用工学科棟 | 53 | 36 | 1 | 9 | 6 | | 1 | | 古代土器、人形木器、編み物、赤土器類人形土器製品、栗栗類 | 35 |
| | | 第7次調査：情報工学科棟 | 13.5 | 10 | 0.5 | 1 | | | 2 | | - | |
| | | 第8次調査：通信工実験施設 | 11.5 | 11 | 0.5 | | | | | | - | 32 |
| | | 第9次調査：生物機能応用工学 | 42.5 | 35 | 2.5 | 3 | 2 | | | | 栗栗類、種子、縄文後期土器 | 47 |
| | | 第10次調査：保健管理センター | 86 | 78 | 1 | 7 | | | | | 分銅形土器製品、鉄片陶器、器台 | 64 |
| | | 第11次調査：総合情報処理センター | 4.5 | 3 | 0.5 | | | | | | - | 36 |
| | | 第12次調査：図書館 | 40.2 | 38 | 1 | 20 | 0.2 | 1 | | | 赤土製農具類、鋸 | 44 |
| | | 第13次調査：福利厚生施設北 | 12.5 | 12 | 0.5 | | | | | | - | 61 |
| | | 第14次調査：福利厚生施設南 | 12.2 | 11 | 0.2 | | | | 1 | | - | 96 |
| | | 第15次調査：サクライトバンチャーピジョンスラウトリー | 38 | 15 | 2 | 20 | | | | | 縄文後期耳栓、編み物、栗栗類 | 42 |
| | | 第16次調査：動物実験棟 | 2.3 | 0.3 | | | | | 2 | | - | 44 |
| | | 第17次調査：環境理工学部校舎 | 74 | 63 | 11 | | | | | | 縄文後期土器 | 77 |
| | | 第18次調査：南福利ポンプ棟 | 0.2 | 0.2 | | | | | | | - | 53 |
| | | 第19次調査：コラボレーション・センター | 28 | 21 | 1 | 4 | | 1 | 1 | | 空穿、輪削口 | 63 |
| | | 第20次調査：環境理工学部ポンプ棟 | 0.2 | 0.2 | | | | | | | - | 53 |
| | | 第21次調査：工学部エレベーター | 7 | 5 | 2 | | | | | | 縄文中期土器、焼土器類 | 65 |
| | | 第22次調査：環境理工学部校舎 | 339 | 36 | 4 | 3 | 0.2 | 0.2 | 0.5 | | 古代陶器類 | 77 |
| | | 第23次調査：総合研究棟 | 81 | 20 | 0.5 | 60 | 0.5 | | | | 縄文後期土器、石押 | 80 |
| | | 第24次調査：総合研究棟通り裏下 | 2.1 | 1 | 0.1 | 1 | | | | | - | 80 |
| | | 第25次調査：農学部飲水施設 | 0.3 | 0.1 | 0.2 | | | | | | - | 61 |
| | | 第26次調査：事務員本部棟 | 25 | 17 | 2 | 5 | | | 1 | | - | 76 |
| | | 第27次調査：創立五十周年記念館 | 182 | 14 | 1 | | 0.2 | 3 | | | 縄文後期土器 (中津) | 66 |
| | | 第28次調査：自然科学系総合研究棟 | 15.2 | 13 | 2 | | 0.2 | | | | - | 87 |
| | | 第29次調査：農学部共同講 | 1.1 | 1 | 0.1 | | | | | | - | 71 |
| | | 第30次調査：インキペータ | 23.3 | 5 | 0.1 | 18 | | 0.2 | | | - | 93 |

| 種別 | 遺跡名 (地区名) | 調査名・工事名 | 箱 数 (1箱:約30リットル) | | | | | | 特殊遺物ほか | 文庫 | |
|----------------------|--------------|-----------------------|------------------|--------|-------|-------|------|--------------|----------------------------|-------------------|-----|
| | | | 総数 | 土器 | 石器 | 木器* | 種子* | その他 サンプル* | | | |
| 発掘 | 津島岡大 | 第33次調査:大学生協エリア古庫 | 57 | 5 | 0.5 | | | 0.2 | - | 95 | |
| | | 第33次調査:教育学部明治通 | 17 | 12 | 3 | | | | 2 | 編み物 100 | |
| | | 第33次調査:重学部講義棟 | 126 | 11 | 1.5 | | | 0.1 | | 縄文中期土器(巻元) 117 | |
| | | 第34次調査:国際交流会館 | 1 | 1 | | | | | | - | 165 |
| | | 第35次調査:図書館(増築) | 1 | 1 | | | | | | - | 145 |
| | | 第36次調査:職員宿舎 | 2.5 | 0.5 | | | | | 2 | | 129 |
| | | 第35次調査:別分野基礎科学研究所 | 38 | 37 | | | 1 | | | - | 141 |
| | | 第29次調査:ライオンイン再生 | 4.2 | 4 | 0.1 | | | | | - | 145 |
| | | 第1次調査:実験研究棟 | 7 | 6 | 1 | | | | | - | 55 |
| | | 第2次調査:実験研究棟スロープ | 3.1 | 3 | | | | | 0.1 | | 55 |
| 試験 確認 | 津島岡大 | 龍田講堂(1986) | 1 | 1 | | | | | - | - | |
| | | 龍田アイソトープ総合センター(1990) | 1 | 1 | | | | | - | 18 | |
| | | 地域医療総合支援センター(2010) | 1 | 1 | | | | | - | 105 | |
| | | 男子学生寮(1985) | 1 | 0.7 | 0.3 | | | | - | 5 | |
| | | 大学院自然科学研究科棟(1986) | 1 | 1 | | | | | - | 6 | |
| | | 理学部身体着用手エレベーター(1987) | 0.3 | 0.3 | | | | | - | 8 | |
| | | 教育学部身体着用手エレベーター(1987) | 0.7 | 0.7 | | | | | - | 8 | |
| | | 工学部校舎(1988) | 1 | 1 | | | | | - | 11 | |
| | | 動物実験飼育棟・畜産子実験棟(1988) | 0.7 | 0.7 | | | | | - | 11 | |
| | | 国際交流会館(1988) | 0.3 | 0.3 | | | | | - | 11 | |
| 立 会 | 津島岡大 | 大学院自然科学科合棟地層構(1980) | 0.2 | 0.2 | | | | | - | 14 | |
| | | 学生合宿所(1989) | 0.4 | 0.2 | | | | 0.2 | - | 14 | |
| | | 教育学部身体着用手エレベーター(1989) | 0.3 | 0.3 | | | | | - | 14 | |
| | | 図書館(1989) | 1 | 1 | | | | | - | 14 | |
| | | 学生合宿所ゼンブ構(1990) | 0.4 | 0.4 | | | | | - | 18 | |
| | | 福利厚生施設(1990) | 0.5 | 0.5 | | | | | - | 18 | |
| | | 農・畜産動物実験施設(1993) | 0.1 | 0.1 | | | | | - | 33 | |
| | | 環境理工学部校舎(1995) | 0.1 | 0.1 | | | | | - | 53 | |
| | | システム工学科棟(1998) | 0.1 | 0.1 | | | | | - | 53 | |
| | | 正課外活動施設(2012) | 2 | 0 | | | | | 2 | - | 111 |
| (土生) (倉庫) (東山) | 立 会 | 外国人宿舎(1987) | 1 | 1 | | | | | - | 8 | |
| | | 資源生物科学研究所(1990) | 0.1 | 0.1 | | | | | - | 18 | |
| | | 附属小学校校舎(2006) | 1.1 | 0.1 | | | | | 1 | - | 87 |
| | | 附属中学校体育館(2013) | 1 | 0 | | | | | 1 | - | 116 |
| | | 1983年度 | 2 | 2 | | | | | | 分銅粘土製品 1 | |
| | | 1984年度 | 1 | 1 | | | | | | - | 2 |
| | | 1985年度 | 1 | 1 | | | | | | - | 3 |
| | | 1986年度 | 0.5 | 0.5 | | | | | | - | 6 |
| | | 1987年度 | 0.5 | 0.5 | | | | | | - | 8 |
| | | 1988年度 | 0.5 | 0.5 | | | | | | - | 8 |
| 1989年度・1992年度 | 0.3 | 0.3 | | | | | | - | 21.25 | | |
| 1990年度～1999年度 | 0.8 | 0.8 | | | | | | - | 30.32,38 41.50,53 56 | | |
| 2000年度 | 3 | 3 | | | | | | - | 61 | | |
| 2002年度 | 8.5 | 2.5 | 6 | | | | | | 弥生早期土器、中世、礎石 71 | | |
| 2003年度 | 2 | 2 | | | | | | - | 74 | | |
| 2004年度 | 1 | 1 | | | | | | - | 81 | | |
| 2005年度 | 1.1 | 0.1 | | | | | 1 | - | 83 | | |
| 2006年度 | 1.1 | 0.1 | | | | | 1 | - | 87 | | |
| 2007年度 | 0.5 | 0.5 | | | | | | - | 92 | | |
| 2008年度 | 1 | 1 | | | | | | - | 95 | | |
| 2009年度 | 0.2 | 0.2 | | | | | | - | 102 | | |
| 2010年度 | 4.2 | 0.2 | | | | | 4 | - | 近現代、弥生周産金属器、磁器 165 | | |
| 2011年度 | 3 | 3 | | | | | | - | 弥生後期土器 167 | | |
| 2012年度 | 0.5 | 0.5 | | | | | | - | 111 | | |
| 2013年度 | 1.5 | 1.5 | | | | | | - | 116 | | |
| 2014年度 | 0.6 | 0.1 | | | | | 0.5 | | 目サンプル 121 | | |
| 2015年度 | 0.5 | 0.5 | | | | | | - | 124 | | |
| 2016年度 | 0.1 | 0.1 | | | | | | - | 129 | | |
| 2017年度 | 0.1 | 0.1 | | | | | | - | 134 | | |
| 分布調査 | 1989年度 三朝・本島 | 0.3 | 0.3 | | | | | - | 14 | | |
| 合 計 | | | 3973.6 | 2975.4 | 218.4 | 487.5 | 32.5 | 35.4 | 223.4 | | |

*:木器・種子・サンプルは整理の進捗状況により容量および保管形態が変化するため、表中の数値は当該年度末の収蔵量を示す。

付表4 埋蔵文化財調査室刊行物

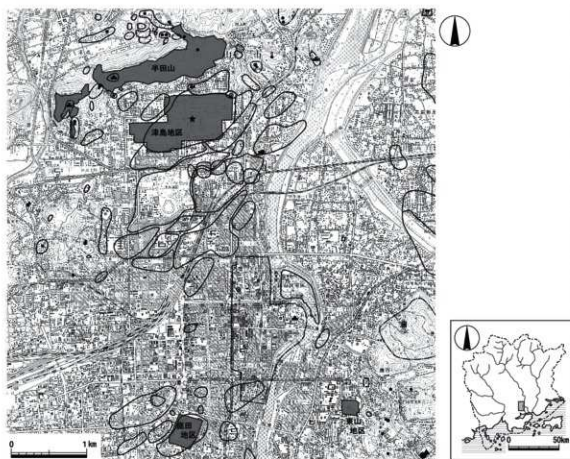
| 番号 | 名 称 | 発行年月日 |
|----|---|----------|
| 1 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報1 1983年度 | 1985年2月 |
| 2 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報2 1984年度 | 1985年3月 |
| 3 | 岡山大学津島地区小橋法目黒遺跡(AW14区)の発掘調査 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第1集 | 1985年5月 |
| 4 | 岡山大学津島地区構内遺跡発掘調査報告Ⅱ(農学部構内BH13区他) 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第2冊 | 1986年3月 |
| 5 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報3 1985年度 | 1987年3月 |
| 6 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報4 1986年度 | 1987年10月 |

付表5 埋蔵文化財調査研究センター刊行物(2022年3月まで)

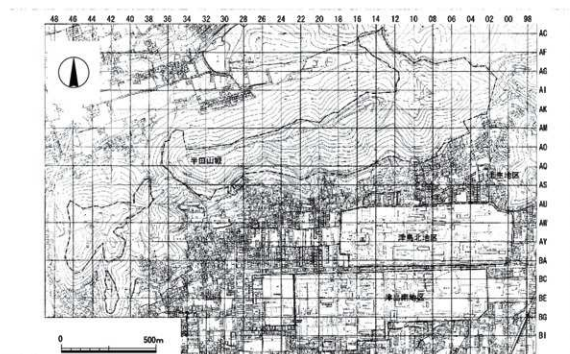
| 番号 | 名 称 | 発行年月日 |
|----|---|----------|
| 7 | 鹿田遺跡Ⅰ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第3冊(鹿田遺跡第1次・2次調査) | 1988年3月 |
| 8 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報5 1987年度 | 1988年10月 |
| 9 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第1号 | 1988年10月 |
| 10 | 鹿田遺跡Ⅱ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第4冊(鹿田遺跡第3次・4次調査) | 1990年3月 |
| 11 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報6 1988年度 | 1989年10月 |
| 12 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第2号 | 1989年8月 |
| 13 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第3号 | 1990年2月 |
| 14 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報7 1989年度 | 1990年11月 |
| 15 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第4号 | 1990年7月 |
| 16 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第5号 | 1991年3月 |
| 17 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第6号 | 1991年8月 |
| 18 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報8 1990年度 | 1991年12月 |
| 19 | 津島岡大遺跡3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊(津島岡大遺跡第3次調査) | 1992年3月 |
| 20 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第7号 | 1992年3月 |
| 21 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報9 1991年度 | 1992年12月 |
| 22 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第8号 | 1992年8月 |
| 23 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第9号 | 1993年3月 |
| 24 | 鹿田遺跡3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊(鹿田遺跡第5次調査) | 1993年3月 |
| 25 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報10 1992年度 | 1993年12月 |
| 26 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第10号 | 1993年11月 |
| 27 | 津島岡大遺跡4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第7冊(津島岡大遺跡第5次調査) | 1994年3月 |
| 28 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第11号 | 1994年3月 |
| 29 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第12号 | 1994年10月 |
| 30 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報11 1993年度 | 1995年2月 |
| 31 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第13号 | 1995年3月 |
| 32 | 津島岡大遺跡5 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第8冊(津島岡大遺跡第8次調査) | 1995年3月 |
| 33 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報12 1994年度 | 1995年12月 |
| 34 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第14号 | 1995年10月 |
| 35 | 津島岡大遺跡6 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第9冊(津島岡大遺跡第6次・7次調査) | 1995年12月 |
| 36 | 津島岡大遺跡7 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第10冊(津島岡大遺跡第11次調査) | 1996年2月 |
| 37 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第15号 | 1996年3月 |
| 38 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報13 1995年度 | 1996年10月 |
| 39 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第16号 | 1996年10月 |
| 40 | 鹿田遺跡4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第11冊(鹿田遺跡第6次調査) | 1997年3月 |
| 41 | 津島岡大遺跡8 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第12冊(津島岡大遺跡第13次調査) | 1997年3月 |
| 42 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第17号 | 1997年3月 |
| 43 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第18号 | 1997年9月 |
| 44 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報14 1996年度 | 1997年11月 |
| 45 | 今、よみがえる古代 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの10年 | 1997年11月 |
| 46 | 津島岡大遺跡9 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第13冊(津島岡大遺跡第14次調査) | 1997年12月 |
| 47 | 津島岡大遺跡10 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第14冊(津島岡大遺跡第9次調査) | 1998年3月 |
| 48 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第19号 | 1998年3月 |
| 49 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第20号 | 1998年10月 |
| 50 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報15 1997年度 | 1999年1月 |

| 番号 | 名 称 | 発行年月日 |
|-----|--|----------|
| 51 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第21号 | 1999年3月 |
| 52 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第22号 | 1999年9月 |
| 53 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報 16 1998年度 | 2000年1月 |
| 54 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第23号 | 2000年3月 |
| 55 | 福呂遺跡1 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第15冊 (福呂遺跡第1次・2次調査) | 2000年3月 |
| 56 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報 17 1999年度 | 2000年8月 |
| 57 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第24号 | 2000年9月 |
| 58 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター-自己評価・外部評価報告書 | 2000年12月 |
| 59 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第25号 | 2001年3月 |
| 60 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第26号 | 2001年8月 |
| 61 | 岡山大学構内遺跡調査研究年報 18 2000年度 | 2001年10月 |
| 62 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第27号 | 2002年3月 |
| 63 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第28号 | 2002年9月 |
| 64 | 津島岡大遺跡11 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第16冊 (津島岡大遺跡第10次・12次調査) | 2003年3月 |
| 65 | 津島岡大遺跡12 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第17冊 (津島岡大遺跡第19次・21次調査) | 2003年3月 |
| 66 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2001 | 2003年3月 |
| 67 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第29号 | 2003年3月 |
| 68 | 津島岡大遺跡13 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第18冊 (津島岡大遺跡第27次調査) | 2003年5月 |
| 69 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第30号 | 2003年8月 |
| 70 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第31号 | 2004年2月 |
| 71 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2002 | 2004年3月 |
| 72 | 津島岡大遺跡14 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第19冊 (津島岡大遺跡第15次調査) | 2004年3月 |
| 73 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第32号 | 2004年9月 |
| 74 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2003 | 2004年12月 |
| 75 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第33号 | 2005年3月 |
| 76 | 津島岡大遺跡15 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第20冊 (津島岡大遺跡第26次調査) | 2005年3月 |
| 77 | 津島岡大遺跡16 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第21冊 (津島岡大遺跡第17次・22次調査) | 2005年3月 |
| 78 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第34号 | 2005年10月 |
| 79 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第35号 | 2006年3月 |
| 80 | 津島岡大遺跡17 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第22冊 (津島岡大遺跡第23次・24次調査) | 2006年3月 |
| 81 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2004 | 2006年3月 |
| 82 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第36号 | 2006年10月 |
| 83 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2005 | 2007年3月 |
| 84 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第37号 | 2007年3月 |
| 85 | 鹿田遺跡 5 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第23冊 (鹿田遺跡第7次・8次調査) | 2007年3月 |
| 86 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第38号 | 2007年10月 |
| 87 | 津島岡大遺跡18 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第24冊 (津島岡大遺跡第28次調査) | 2008年3月 |
| 88 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2006 | 2008年3月 |
| 89 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センターの20年 -自然と人間、地中に埋もれた命の対話- | 2008年3月 |
| 90 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第39号 | 2008年3月 |
| 91 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第40号 | 2008年9月 |
| 92 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2007 | 2008年12月 |
| 93 | 津島岡大遺跡19 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第25冊 (津島岡大遺跡第30次調査) | 2009年3月 |
| 94 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第41号 | 2009年3月 |
| 95 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2008 | 2010年2月 |
| 96 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第42号 | 2010年2月 |
| 97 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第43号 | 2010年3月 |
| 98 | 鹿田遺跡 6 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第26冊 (鹿田遺跡第13次・15次調査) | 2010年8月 |
| 99 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第44号 | 2010年12月 |
| 100 | 津島岡大遺跡20 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第27冊 (津島岡大遺跡第32次調査) | 2011年3月 |
| 101 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第45号 | 2011年3月 |
| 102 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2009 | 2011年3月 |
| 103 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第46号 | 2011年11月 |
| 104 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第47号 | 2012年3月 |
| 105 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2010 | 2012年3月 |

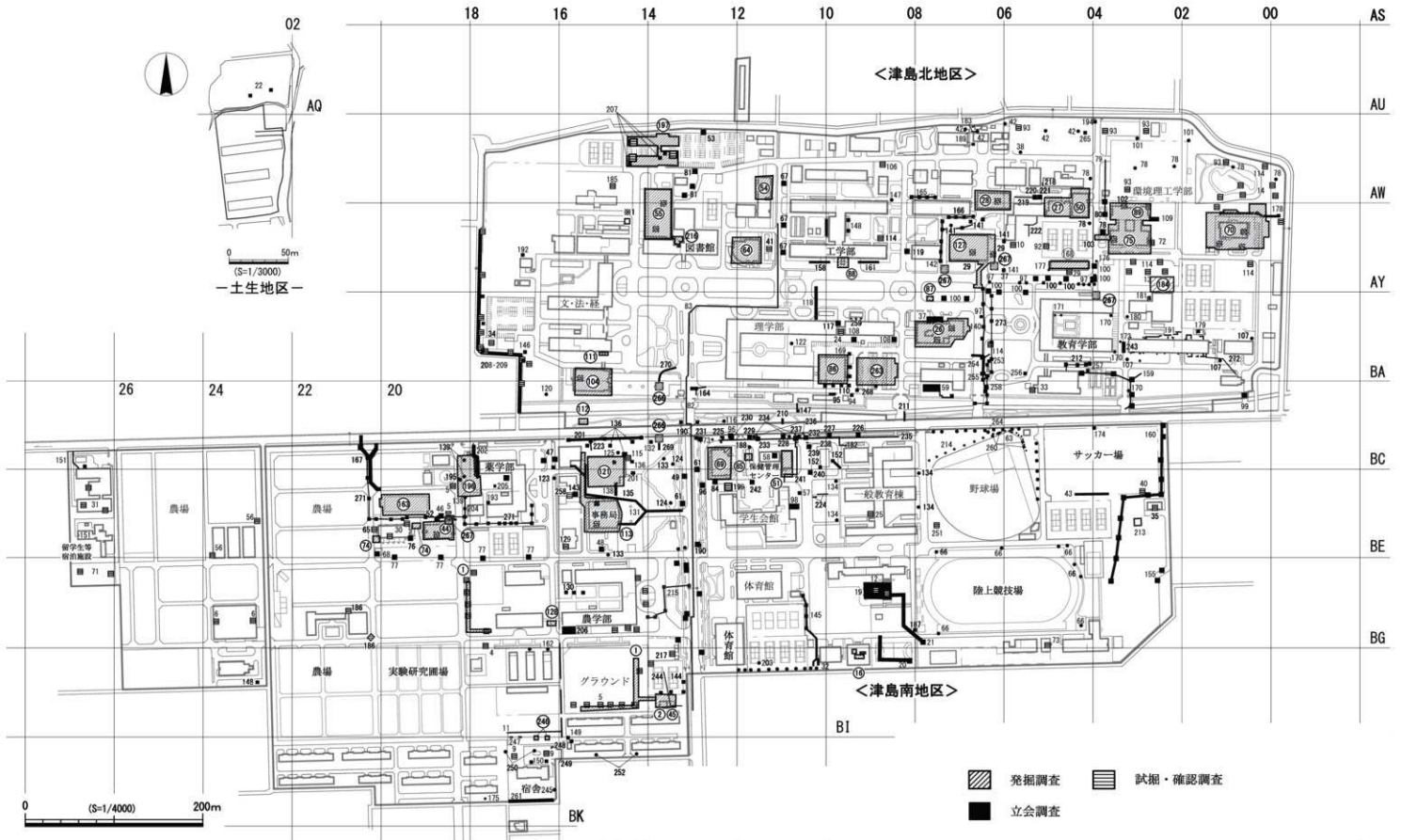
| 番号 | 名 称 | 発行年月日 |
|-----|--|----------|
| 106 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第48号 | 2012年9月 |
| 107 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2011 | 2013年1月 |
| 108 | 鹿田遺跡7 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第28冊 (鹿田遺跡第10次、18次調査B・C地点) | 2013年3月 |
| 109 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第49号 | 2013年3月 |
| 110 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第50号 | 2013年10月 |
| 111 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2012 | 2013年12月 |
| 112 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第51号 | 2013年12月 |
| 113 | 鹿田遺跡8 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第29冊 (鹿田遺跡第14次調査) | 2014年3月 |
| 114 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第52号 | 2014年12月 |
| 115 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第53号 | 2015年3月 |
| 116 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2013 | 2015年3月 |
| 117 | 津島岡大遺跡21 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第30冊 (津島岡大遺跡第33次調査) | 2015年3月 |
| 118 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第54号 | 2015年10月 |
| 119 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第55号 | 2016年2月 |
| 120 | 鹿田遺跡9 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第31冊 (鹿田遺跡第23次調査) | 2016年2月 |
| 121 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2014 | 2016年3月 |
| 122 | 吉備の弥生時代 | 2016年3月 |
| 123 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第56号 | 2016年12月 |
| 124 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2015 | 2017年3月 |
| 125 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第57号 | 2017年3月 |
| 126 | 鹿田遺跡10 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第32冊 (鹿田遺跡第9・11次調査) | 2017年3月 |
| 127 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第58号 | 2017年10月 |
| 128 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第59号 | 2018年1月 |
| 129 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2016 | 2018年2月 |
| 130 | 鹿田遺跡11 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第33冊 (鹿田遺跡第24次調査) | 2018年3月 |
| 131 | 鹿田遺跡12 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第34冊 (鹿田遺跡第20A・25次調査) | 2018年3月 |
| 132 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第60号 | 2018年8月 |
| 133 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第61号 | 2019年3月 |
| 134 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2017 | 2019年3月 |
| 135 | 鹿田遺跡13 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第35冊 (鹿田遺跡第26次調査) | 2019年3月 |
| 136 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第62号 | 2019年12月 |
| 137 | 鹿田遺跡14 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第36冊 (鹿田遺跡第17次調査) | 2020年3月 |
| 138 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2018 | 2020年3月 |
| 139 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第63号 | 2020年3月 |
| 140 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第64号 | 2020年11月 |
| 141 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2019 | 2021年3月 |
| 142 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第65号 | 2021年3月 |
| 143 | 鹿田遺跡15 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第37冊 (鹿田遺跡第12・27次調査) | 2021年3月 |
| 144 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第66号 | 2021年10月 |
| 145 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2020 | 2021年10月 |
| 146 | 岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第67号 | 2022年3月 |
| 147 | 鹿田遺跡16 岡山大学構内遺跡発掘調査報告38冊 (鹿田遺跡第20次B・D地点) | 2022年3月 |



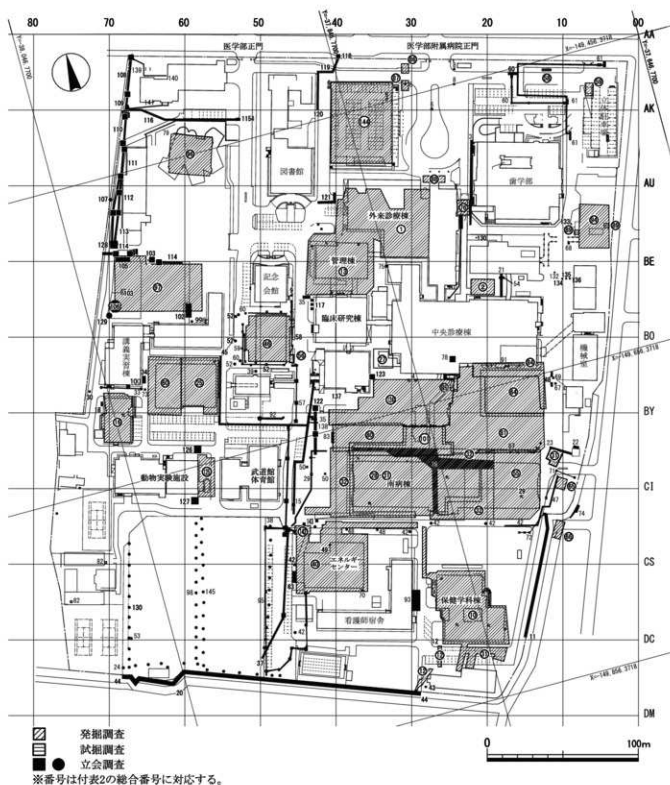
付図1 岡山大学の位置と周辺の遺跡分布 (縮尺1/50,000・1/3,750,000)



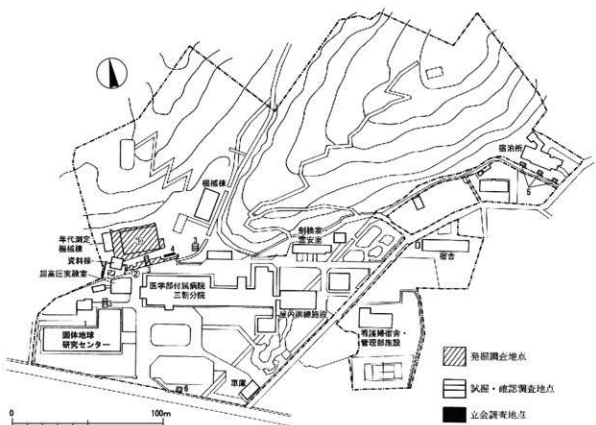
付図2 津島地区全体図 (縮尺1/20,000)



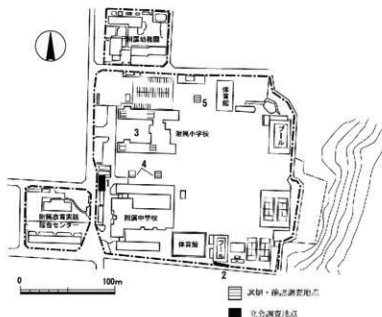
付図3 2020年度以前の調査地点【1】—津島地区— (縮尺: 津島地区: 1/4,000・土生地区: 1/3,000) ※番号は付表2の総合番号に対応する。



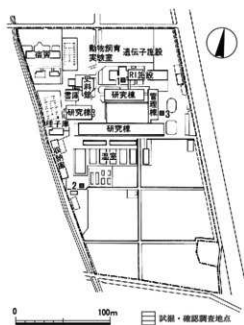
付図4 2020年度以前の調査地点【2】-鹿田地区- (縮尺1/2,500)



付図5 2020年度以前の調査地点【3】
—三朝地区— (縮尺1/2,500)



付図6 2020年度以前の調査地点【4】
—東山地区— (縮尺1/4,000)



付図7 2020年度以前の調査地点【5】
—倉敷地区— (縮尺1/4,000)

Copyright©Cultural Heritage Management Division,
Research Institute for the Dynamics of Civilizations, Okayama University
Printed in Okayama, Japan

2022年11月30日 印刷

2022年11月30日 発行

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要
2021

編集・発行 岡山大学文明動態学研究所
文化遺産マネジメント部門
岡山市北区津島中三丁目1番1号
(086) 251-7290
印刷 友野印刷株式会社



**BULLETIN of
Archaeological Research Center
Okayama University
2021**

Cultural Heritage Management Division, Research Institute for the Dynamics of Civilizations, Okayama University
3-1-1 Tsushima-Naka Kita-ku Okayama-city, 700-8530 Japan
<https://ridc.okayama-u.ac.jp>